

2018年度夏季短期研修（2018年7月～9月） 海外短期研修報告書

Report on Short Term Study Abroad Programs
July-September, 2018



2018 年度夏季短期研修報告書の発刊にあたって

国際教育センター長

森山 新

本報告書は、お茶の水女子大学の 2018 年度夏季短期研修派遣プログラムにより、マンチェスター大学（イギリス）、ニューサウスウェルズ大学（オーストラリア）、南オレゴン大学（アメリカ）、UC サンディエゴ校（アメリカ）、ブルゴス大学（スペイン）、タンペレ大学（フィンランド）、マギル大学（カナダ）、ロンドン大学 SOAS（イギリス）、啓明大学（韓国）、ボン大学（ドイツ）、モナシュ大学（オーストラリア）、梨花女子大学（韓国）の 12 大学で研修を受けた合計 53 名の学生の帰国報告をまとめたものです。

本学では、2004 年より海外短期研修を開始しました。当初は英語語学研修プログラムのみでしたが、現在は、英語以外の言語の語学研修や、派遣大学が開設する正規の専門科目の聴講等、様々な選択肢を備えた魅力的なプログラムを提供しています。その結果、昨年度に比べ、派遣大学数、派遣者数ともに 1.5 倍に増え、様々な環境で多くの学生たちが、留学生生活を充実して過ごすことを可能にしました。

本学主催の短期研修では、研修の質を保証できるプログラムを多数提供するために、国際教育センターが研修の内容を精査し、その上で学生を派遣するという方針を採っています。さらに説明会、渡航前オリエンテーション、「異文化適応」や「危機管理」に関する事前研修、前年度研修参加者との短期留学相談会を開催し、事前準備から帰国後の振り返りまで、きめ細かく一貫したサポートを行うことで、研修体験をよりいっそう充実したものにしています。

その結果、2018 年 3 月に発表された「THE (Times Higher Education) 世界大学ランキング日本版 2018」(<https://japanuniversityrankings.jp/topics/00046/>)において、本学は日本人学生の海外への留学比率が高い大学として国立大学の中では東京外大に次いで 2 位、国公立大学全体でも 18 位という高い評価を得ています。

報告書を読むと、海外で実際に生活することで、さまざまな価値観に触れ、確実にグローバルな視点や共生の姿勢を獲得して成長する学生の姿をみることができます。大学生活に留学を組み込むことを考えている学生のみなさんにもぜひ参考にさせていただきたいと思います。

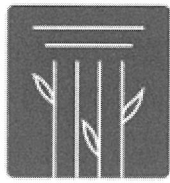
本プログラムの企画・運営にたずさわる国際教育センターとしても、参加者に充実した体験を提供できたことを実感し、たいへんうれしく思います。

最後に、短期研修プログラム推進主担当として説明会や事前研修、個人相談等企画から運営まで尽力された、アソシエイトフェローの井上貴恵先生をはじめ、講師の松田デレク先生、長塚尚子国際教育センターアカデミックアシスタント、国際課職員、国際本部員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2018 年 12 月吉日

目次

タンペレ大学（フィンランド）	1
ジャン・モネ大学（フランス）	8
マンチェスター大学（イギリス）	13
研修参加者からのアドバイス（マンチェスター大学）	40
ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）	44
研修参加者からのアドバイス（ニューサウスウェールズ大学）	49
南オレゴン大学（アメリカ）	50
研修参加者からのアドバイス（南オレゴン大学）	61
啓明大学校（韓国）	63
研修参加者からのアドバイス（啓明大学校）	100
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院（イギリス）	102
マギル大学（カナダ）	104
研修参加者からのアドバイス（マギル大学）	109
ブルゴス大学（スペイン）	111
研修参加者からのアドバイス（ブルゴス大学）	118
カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）	121
研修参加者からのアドバイス（カリフォルニア大学サンディエゴ校）	126
梨花女子大学校（韓国）	127
ボン大学（ドイツ）	130



UNIVERSITY
OF TAMPERE



タンペレ大学（フィンランド）

研修期間：2018/8/6～2018/8/17

滞在：学生寮

参加費：約 45 万円

研修内容：フィンランド語研修・その他専門科目研修

タンペレ大学短期研修を終えて

文教育学部 人間社会科学科

2年 カク ズイキ

授業内容

今回参加した短期研修は、語学研修ではなく、普通の授業でした。フィンランドは今、充実した福祉システムで世界から注目されていることもあり、私は、Global Challenges to the Future of Welfare States の授業を選びました。最初の授業からいきなりグループディスカッションの場が設けられましたが、私の隣に座っていたのはドイツ人とフィンランド人で、話についていくのが大変でした。しかし、2人がヨーロッパ出身なので、福祉問題についての考え方は私と大きく違いました。例えば今ヨーロッパで話題になっている移民問題や、EUの存在の問題など、東アジア圏ではあまり触れていない話が出てきて、勉強になりました。次の日からは講義がメインで、グループを作り、最終日の発表のために色々と話し合う時間も作ってくれました。私は、香港人ともう1人の中国人と3人のグループをつくって、中国本土のヘルスケア問題を巡って発表を準備していました。

偶然にもクラスの先生はかなり中国に興味を持っているようで、中国語も勉強していました。よく授業中「中国はどのような感じですか？」などと尋ねたり、休憩時間も話しかけてくれたりして、楽しかったです。

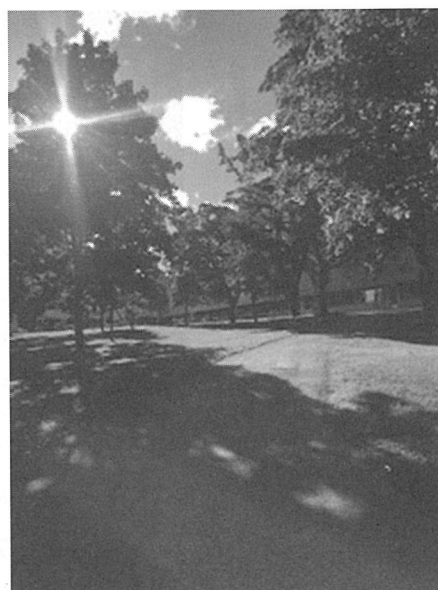
課外活動

タンペレ大学は、色々な課外活動を設けてくれました。タンペレを満喫し、フィンランド文化も体験しました。

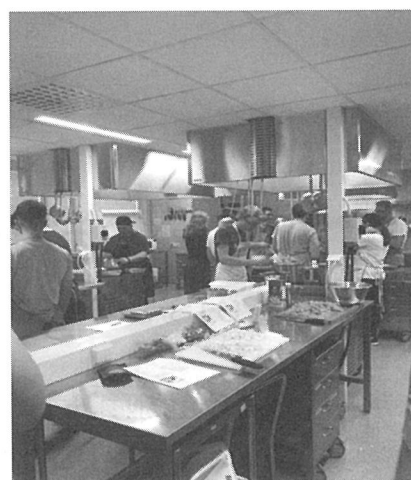
そして、週末は友達と Nuuksio National Park に行き、そこで泊まりました。森の中に湖があり、美しい景色を見ながらゆっくりと過ごしました。

最後に

私は日本へすでに留学していますので、元々旅行気分で短期研修に参加出来、色々楽しかつ

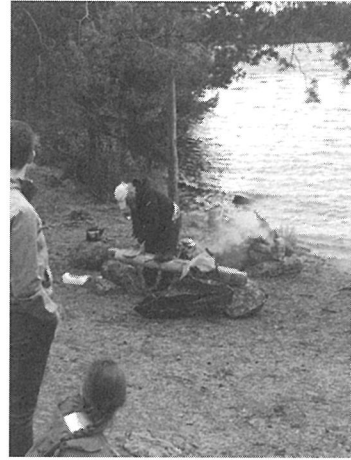


タンペレ大学のキャンパスです。



みんなで、フィンランドの伝統的な食べ物を作っています。

たです。研修の参加者の中には中国の人も多かったのですが、困難はほとんどなかったです。課外活動などの時、やはりみんなは同じ人種の人と仲良くする傾向がありましたが、勇気を出して、ほかの人種の人に話しかければ良いのと思いました。そして、英語の勉強はまだまだ努力しないといけないこともわかりました。短期研修を通し、違う文化を体験し、行ったことのない土地で色々冒険をしたことは、私にとって非常に有意義でした。



ボートで島へ行き、キャンプファイヤーをしているところ。



ムーミン美術館に行きました。



タンペレ大学の食堂のごはんです。思っていたよりもヘルシーで美味しかったです。

タンペレ大学サマースクールを終えて

生活科学部 人間環境科学科

2年 佐野 輝子

授業内容

私は基礎フィンランド語の授業を取りました。授業は初日から始まります。授業内に自己紹介の時間などは特に設けられておらず、各自の好きな席に座り、近くにいる学生と個人的に自己紹介や雑談をしながら交流を深めていく、という感じでした。フィンランド語の授業は簡単なあいさつや自己紹介から始まるので特に予備知識などはなくても大丈夫でしたが、フィンランド語には複雑な単語が多く、単語を覚えることが大変だったので、日本語で書かれた簡単なフィンランド語の参考書を持っていくと予習、復習などに使えて便利だと思います。また、授業は先生が易しい英語で丁寧に教えてくれるので、英語に関しての心配はありませんでした。会話重視の授業で、1 コマ目は先生からのレクチャー、2 コマ目は近くの学生と一緒に前の授業で習った会話や単語を練習する、という形の授業でした。最終評価はテストのみでしたが、授業では発展的な会話の内容を教わっても、テストに出るのは基本的なことのみで、自己紹介ができればテストは十分と感じるほどでした。もともとこの授業はサマースクールの後引き続きタンペレ大学に通う長期留学生在が、今後の生活のためにフィンランド語に慣れておくことが目的のようで、実際にクラスメイトには長期留学の学生が多く、気楽に授業を受けているので、明るい雰囲気楽しんで授業を受けられました。授業で習った単語を日常生活で聞き取ることが出来たり、会話の授業を通して友達もできたり、とてもいい思い出になりました。

課外活動

課外活動の申し込みはサマースクールが始まる前にメールですのですが、私は何に申し込んだらよいかよくわからず参加しませんでした。しかし寮で同室だった学生は毎日のように開催される課外活動に参加していてとても楽しそうでした。フィンランドの自然が満喫できるアクティビティーがたくさんあったので何かに参加すればよかったと後悔しています。

生活全般

私は6人部屋の寮に2週間滞在しました。寮は新しくとてもきれいでした。部屋は二段ベッドと1人用のベッドがある3人部屋が2つあり、シャワーと簡易キッチンが6人で共有しました。大きなキッチンとダイニングがある部屋が各階に1部屋ずつ用意されていてそこで自炊したり宿題をやったりトランプで遊んだりしました。そこでいろんな国の友達ができとても楽しかったです。寮にはWi-Fiも完備されていて無料で使うことができました。洗濯機はないので週に何回かショッピングセンターのコインランドリーまで歩いて持って行って行っていました。

フィンランドはとても涼しく、8月でも20度を切る日があるほどでした。上着や長袖の洋服を多めに持っていくとよいと思います。タンペレには大きなショッピングセンターがたくさんあり学校が終わったらショッピングを楽しんだりレストランに行ったりして楽しみました。日本食スーパーもあり食生活に困ることはありませんでした。ただ、ショッピングセンター内のレストランやスーパーは18時など早



い時間にしまってしまうため、夕ご飯の時間は考える必要があります。また大きなバスターミナルもあるので休日にはヘルシンキへ出かけ、ヘルシンキの観光もできたのでとても満足でした。フィンランドは全体的に穏やかな雰囲気が漂っていて、とても素敵な国でした。

最後に

海外留学は大学生のうちしかできない、という友人の言葉に背中を押され、勢いで申し込んだサマースクールでしたが、留学前は自分の英会話に自信がなく、ずっと不安に思っていました。しかし、授業が始まると案外英語を聞き取ることや、自分に力がついていっている感覚を感じることができ、友人もできてとても楽しい時間を過ごすことができました。フィンランドの知識は全くなく、どんな場所なのかイメージすら湧きませんでした。とても穏やかでゆったりとした感じですごく素敵な国で、何度でも行きたいと思えるほどです。不安に思っていた留学でしたがとても楽しく、素晴らしい経験になりました。



タンペレ大学研修報告書

生活科学部 人間環境科学科

2年 三森 彩音

1、研修動機

1年の夏休みにイギリス、マンチェスター大学で語学研修に参加した際は「英語を学ぶ」という貴重な1ヶ月間を過ごしました。しかし今回は英語を目的ではなく手段として学ぶという経験をしたと考え、福祉先進国家であるフィンランドのタンペレ大学で北欧の福祉システムを学ぶ授業を選択することにしました。

2、授業について

授業は2週間にわたって行われました。クラスにはフィンランドはもちろんイタリア、ブラジル、スロベニア、韓国など様々な国から20名ほど学生が集まっていました。数名の日本人もいましたが、当然授業は全て英語で行われました。先生が北欧の福祉システムについてスクリーンを用いて説明を行った後、グループでその内容についてディベートを行うという授業の流れだったため、英語力が不十分な私にとっては大変な2週間でした。また課題として、グループで英文30ページほどの社会福祉についての論文を読み、意見を交換しあい、15分程度のプレゼンテーションとして発表する、というものと、北欧の福祉政策の中から自分でテーマを考えて調査をし、英文5ページにまとめる、というエッセイが課されました。非常に大変な課題でしたが、先生は努力をすれば認めてくれる方でしたし、また同じグループのスロベニア人とブラジル人の友人が手助けをしてくれたため、なんとか乗り切ることができました。

私の専攻は理系の工学分野であるため、社会科学の分野についての知識は非常に乏しく、授業の内容が理解できない部分も多々ありましたが、今後の英語学習へのモチベーションになりましたし、今後は自分の専門分野で留学してみたいという意欲も生まれました。

3、生活について

タンペレはヘルシンキから電車で3時間程度の非常にのどかな町です。大学街であることから治安も非常によく、また町のほとんどの店で英語を使うことができる便利な町でもありました。日本の夏に比べて気候も涼しく、夏に行ったのは正解であったと感じました。



タンペレの風景

宿泊していたのは大学近くのホステルで、今回のサマープログラムの時期は世界各地から学生が集まっていました。私はお茶大の友人とオーストリアからの学生と3人で寝室を使い、向かいの

部屋の香港人とキッチン、バスルームなどを共用で使っていました。初めは初めて会う人と共用の寝室であることに不安を感じていましたが、課題に苦しむ私の英語訳を手助けしてくれたり、夜な夜なカードゲームをして遊んだり、最終的には楽しい時間を過ごすことができました。ホステル自体も清潔で掃除が行き届いていましたし、コインランドリーまで洗濯物を運ばなければいけないこと以外は何不自由なく過ごすことができました。ホステルの管理人の方も非常に良い方で、美味しいレストランの場所を教えてくれたり、困ったことなどの相談にもすぐにのってくださってとても安心できました。

4、週末について

週末を利用してヘルシンキまで旅行に行きました。バスを使えば格安でヘルシンキまで往復できますし、フェリーで島まで行ったり、聖堂など美しい建築を見学したりと非常に充実していました。

また、タンペレの中でも、フィンランドの有名なキャラクターであるムーミンの博物館などフィンランドを満喫できるスポットが多くありました。私は参加しませんでした。サマースクールに参加していた学生用のカヌーやバーベキュー等のイベントもあったようです。



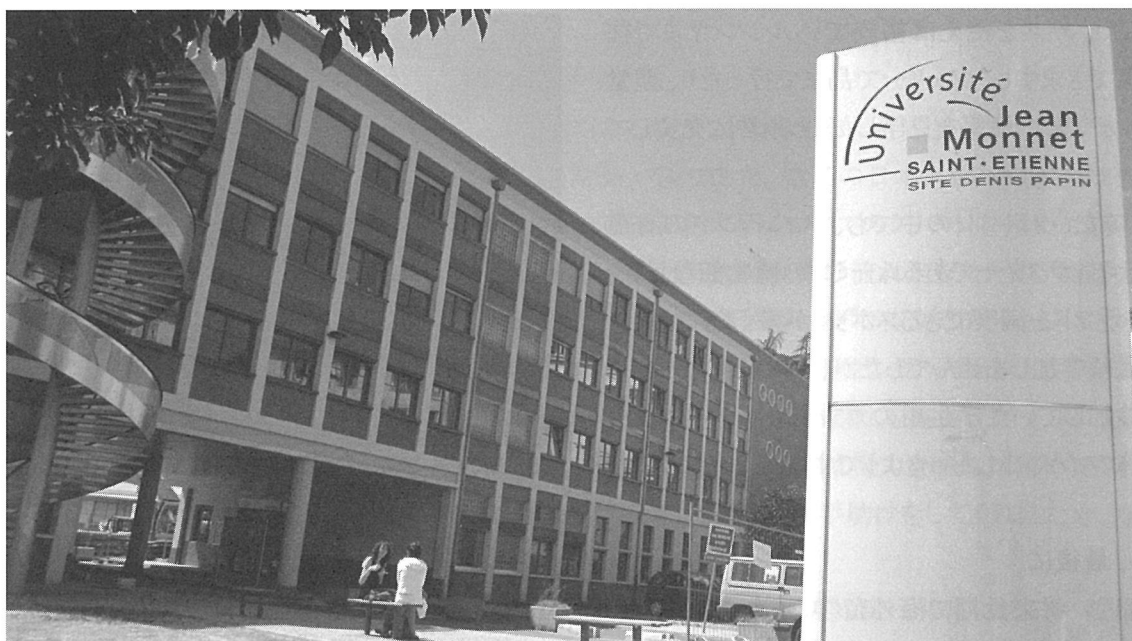
ヘルシンキ大聖堂

5、最後に

近い将来長期で海外留学をしたいと考えていたため、今回はその体験という目的でこの研修に参加しましたが、他の国の学生に比べて、英語力はもちろん積極性、専門の知識など不足している部分が自分にはたくさんあるということを痛感しました。今回の研修は自分にとって今後の学習への意欲を刺激することができた、非常に良い経験であったと感じます。今回奨学金という形でご支援くださった方々には、深く御礼を申し上げます。



**UNIVERSITÉ
JEAN MONNET**
SAINT-ÉTIENNE



ジャン・モネ大学（フランス）

研修期間：2018/8/13～2018/8/31

滞在：ホームステイ

参加費：約 45 万円

研修内容：フランス語研修

フランス語学研修を経て

文教育学部 言語文化学科

3年 関屋 みずき

【授業について】

授業はサンテチエンヌにあるジャン・モネ大学の CILEC 語学学校で行われました。初日にクラス分けのためのライティングと口頭のテストが行われ、講師の皆さんと学生で交流会がありました。

翌日からクラス分けされた教室で様々な国籍の学生に混じって授業を受けます。机はコの字に配列され、自由に発言ができ、学生主体で授業が進んでいきます。内容は基本的な文法からでしたが、自分自身大学で理解不足だったところも多く、とても勉強になりました。後半では自分の考えを述べたり、フランス語で詩を書いたりと少し高度なこともしました。語彙と文法力をもっと伸ばしたいと心から思いました。

また、授業自体が日本と形態が大きく異なっており、日本人以外の学生たちのレベルが高かったのもあり、とても刺激になりモチベーションが上がりました。さらに、授業内ではペアで何かを考えたり、毎週金曜日には複数のクラスが全体にプレゼンテーションを行うためのグループワークをしたりと、学生間

Rentrée universitaire					
	1 / 1 Lundi 27 août	Mardi 28 août	Mercredi 29 août	Judi 30 août	Vendredi 31 août
Matin	Matinée libre 	9h00 - 12h00 : Cours de Français 	9h00 - 12h00 : Cours de Français 	9h00 - 12h00 : Cours de Français 	9h00 - 12h00 : Cours de Français
Midi		12h00-14h00 : Pause Déjeuner	12h00-14h00 : Pause Déjeuner	12h00-14h00 : Pause Déjeuner	12h00-14h00 : Pause Déjeuner
Après-Midi	13h30-16h30 Cours de Français 	14h00-17h00 Cours de Français 	14h00 Chasse aux trésors Parking CILEC 	14h00 Médiathèque 	14h00 Randonnée Parking CILEC
Soirée	16h30 Pétanque Parking Cilec 		18h00 Les belles de Couriot Parking Cilec 		19h00 Brussel Corner

*Modifiable selon conditions météorologiques ou événements culturels exceptionnels

の活動・交流の場も多くありました。このプログラムで国外の友人を作った人も多かったように思えます。最終週にはフランスと日本間の文化に関する授業などもあり、フランス文化にさらに興味が湧きました。

【課外活動】

このプログラムでは座学以外にも多くのアクティビティが組み込まれていました。サンテチエンヌの街を回るゲーム、有名建築家の建造物を見学するツアー、クレープパーティー、カヌー、リヨン散策など、多くの体験をしました。夜のバーに集まってパーティーをしたりと、交流の場が多く設けられていました。これらは自由参加のアクティビティなので、参加しないのであればその時間を自分の時間としても使える良いプログラムだと思いました。実際に外に出ることで、現地の人ともコミュニケーションをとる機会が増え、良い経験になりました。

【ホームステイでの生活】

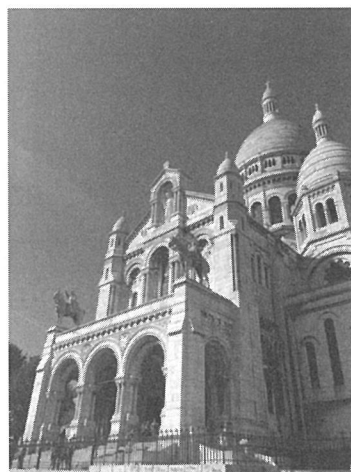
私が滞在した家のホストファミリーは、最初の週はおばあさん1人の家庭で、翌週からバカンス帰りの家族4人(うち子供2人)でした。皆とても親切にしてくれ、本当に質のいい生活が送れたと思います。おばあさんとホストマザーは英語が話せるので、時にホストファザーや子供たちとの会話の架け橋になってくれました。子供たちは9歳と4歳の女の子で、一緒に遊んだり絵本を読んだりと楽しく過ごしました。また、自分の部屋を用意してくれ、プライベートも守ってくれたのでありがたかったです。



食事はほとんど外の庭でとりました。現地はほとんどの家に庭があり、皆よく外で食事をするそうです。ホストマザーの料理はどれも美味しく、特にキッシュが私の好物でした。ホストマザーと一緒にキッシュを作って、作り方を教えてもらいました。ホストファミリーと生活する中で、語彙力が本当に不足していると感じました。伝えたいことを伝えられないときはとても歯がゆい思いをしたので、もっと会話ができるようになってまたチャレンジしたいです。

【休日の活動】

週末には友人とリヨンに買い物に行ったり、ホストファミリーのおばあさんの家に行って演劇の祭典を見たりしました。人もみんな親切で、田舎では特にそれを感じました。研修後にはパリに少し滞在して観光をしました。街ごとに様々な特色があることが分かりましたし、街並みがとても綺麗で印象に残っています。パリでは、ミュージアムパスを利用して多くの美術館を回ることができました。フランス文化に直接触れるという普段できない貴重な体験がたくさん出来たと思います。また、パリは地下鉄が難しいと聞いていたのですが、地図と案内板さえ見ればとても簡単に利用出来たので、今後行く方にはおすすめしたいです。



【終わりに】

今回初めて海外に行ってみて、言葉だけでないフランスの生の空気に触れることが出来たのは大きな経験だと思います。人や文化に接して、さらにフランスへの興味が高まったと同時に、語学の面では自分自身の課題も多く発見できました。奨学金の助力もあり、実現出来たことなので本当に感謝しています。これを機にさらに勉学に励み、言語、そして国への理解を深めていきたいと思っています。

サンテティエンヌ ジャンモネ大学語学研修

文教育学部 言語文化学科

3年 廣實 萌々花

授業内容

初日にテスト(文法問題と個人面接)が行われ、全部で7つのクラスに分けられました。私は上から3つ目のクラスに振り分けられました。次の日から授業が行われましたが、レベルの高さに唖然としました。全部で20人あまりのクラスのうち、10人以上はカナダ人、残りはフランス語が堪能な(聞けばこちらに滞在してすでに1年経過している人なども)中国やベラルーシの方で、その中に我々日本人勢6人が所在無さげに座っている状態でした。1つ下のクラスを希望することは簡単でしたが、「きっとモモカはできるようになるよ」との担任の先生の励ましの言葉に、クラスに留まることを決意しました。日本の学校との授業スタイルの差に喫驚したのも今ではいい思い出です。日本と異なり、フランスの授業は先生と生徒が一緒になって作り上げていくものです。理解できなければ即座に先生に質問していいし、何か投げかけられた際にはすぐにレスポンスができなければいけません。そして間違ふことは全く恥ずかしいことではありません。最も恥ずかしいのは自分なりの考えを持っていないこと、表現できないことです。クラスメイトたちは学びに真剣で、良い影響を受けました。授業は、いわゆる英語コミュニケーションのようなものを想像すると良いかと思います。曲を聴いてみんなでディクテをしたり、軽いディベートをしたり、その中で文法について軽く触れていくようなスタイルでした。授業内で使われる言葉は基本的にフランス語で、時々英語で言い換えてくれる程度でした。学校で毎週テーマが掲げられ(教育、文化、スポーツなど)それに沿った内容を学ぶので、授業を通してサンテティエンヌ、更にはフランスへの理解を深めることができました。家に帰ってからも、授業の復習や単語の勉強に励んだ結果、2週目には飛躍的な進歩を遂げることができました。先生やお家のおじいさんに「見違えたよ」と言ってもらった時の喜びは忘れられません。



課外活動

学校がたくさんイベントを企画してくれていたおかげで、様々な経験ができました。前半2週間は、授業が全くない日が1日設けられていて、みんなでバスに乗ってリヨンの観光に行ったり、湖でマリンスポーツをしたりしました。後半は基本的に毎日授業がありましたが、午後から博物館のツアーがあったり、放課後にみんなで野外でお酒を楽しみながら踊ったりしました。日本では考えられないような文化を味わえたと思います。

研修が終わった後はパリにまで足を伸ばしてから帰国しました。今まで写真でしか見たことのないような、素晴らしい芸術作品を自分の目で見られることはとても貴重な経験でした。4週間の語学研修の集大成として、実際にパリの街でフランス語の現地実践ができたという意味でもいい機会になったと思います。



生活全般

私はとても素敵なムッシュとマダムのご家庭に4週間ホームステイしました。学校とお家とがとても近かったため(徒歩約2分!)お昼休憩には毎日家に帰って、3人で食卓を囲みました。とても温かい方達でよくしていただき、休日にはリヨンの博物館や高原などいろいろなところに連れて行ってもらいました。また、友達のステイ先にお呼ばれしたり、逆に私のステイ先でディナーを振舞ったりといった交流もありました。家の造り、時間の過ごし方や食事といったフランス人の日常を自分の肌で感じる事が出来、とてもいい経験になりました。何より国や言葉を越えた友情や信頼が育めるまたとないチャンスですので、ぜひホームステイをお勧めします。

4週間というとても短い時間でしたが、自分のこれからの人生においてとても大きな意味を持つ素晴らしい体験ができたと思います。この留学が実現できたのは、奨学金という制度があったからこそだと思っています。ありがとうございました。

ステイ先のおじいさんはとても博識で頭の良い方でしたが、「知りたいことがありすぎて困ってしまう。今が一番若いのだから、今始めなければ」と常に仰っていました。この冊子を手に取られている



みなさんは、少なからず留学を意識されているのでしょうか。不安はいろいろあるとは思いますが、おじいさんに倣って、とりあえず自分のしたいことに踏み出してみるといいことがあるかもしれません。

MANCHESTER 1824

The University of Manchester



マンチェスター大学（イギリス）

研修期間：2018/8/10～2018/9/9

滞在：学生寮

参加費：約 55 万円

研修内容：英語研修

マンチェスター大学短期語学研修 報告書

文教育学部 言語文化学科

2年 磯 佑奈

8月10日から9月9日までの31日間に渡り実施された、イギリス・マンチェスター大学での英語の短期語学研修に参加した内容を報告する。約1か月間もの長い間海外に行くことは初めてで不安もあったが、生の英語に触れる中で自分の英語力を向上させたい、イギリスの社会や文化を実際に肌で感じてみたいと考えこの研修に参加した。

学校生活 マンチェスター大学は街の一角が全て大学の敷地で驚くほど広がった。授業は大学の語学センターにある教室で行われ、初日に受けたテストによってレベル別で10クラスほどに分けられた。クラスでは最初の1週間は中国人学生と共に学んだが、彼らにとってはそれがプログラムの最終週であったため、残りの週は日



本人学生(他大も含めて)のみであった。授業は主にテキストを用いたが、先生方は映像資料やスピーキングアクティビティを取り入れ楽しく授業をしてくださった。アクティビティでは英語を使って他の学生とコミュニケーションを取ったり、グループ対抗のゲームで話し合ったりした。これを通して英語を話すことへの抵抗が少しなくなっただけのように思う。また、私たちが曖昧に覚えていたような文法について分かりやすく丁寧に繰り返し教えてくださり、英作文の添削もして下さるなど大学での授業は英語の4技能全てをカバーしていた。



金曜は Target Module の時間で、クラスで博物館や美術館、街のカフェやお店に行き、現地の人と会話する中でマンチェスターの文化や芸術、歴史、人々の温かさに触れた。マンチェスターは産業革命、女性の選挙権運動、ベジタリアンの発祥の地であることを初めて知ったが、これは移民が多いため新しい視点を取り入れ、皆が過ごしやすい街にするためだと聞いた。ちょうど研修中にシティーセンターで Manchester Pride という LGBT のパレードが行われており、街のいたるところが虹色で色鮮やかであったが、それも様々な人の考え方を尊重し、どのような人にも寛容なマンチェスターの地だからこそのイベントなのかもしれないと思った。他にも実際に行かなければ分からなかったことを、授業を通してはもちろん、自分の目で見て感じ考えることができたことはとてもよかった。大学はどの先生も気さくで明るく話しやすく、週末にしたことや日本とイギリスの食文化の話、マンチェスターのおすすめスポットなど授業中の雑談がとても楽しかった。

放課後や休日 月～木曜日は16時頃、金は午前中で授業が終わるため放課後はよくシティーセンターというマンチェスターの中心街へ行き、買い物や食事、観光を楽しんだ。マンチェスター大

学には International Society という私たちのような留学生向けに交流イベントや日帰り旅行を提供してくれる組織があり、放課後や週末は主にそのイベントに参加した。日本公開前の映画を見たり、ボウリングやアフタヌーンティーでの会話を通して、現地の人や他の留学生とも交流したりと楽しみながらリスニングやスピーキングの勉強をすることができた。日帰り旅行ではヨーク、ウィットビーを訪れたが、こうした機会がないとなかなか行かない地方であり、大学がバスを出してくれることは金銭面や安全面でとても助かった。イギリスで今まで知らなかった街を訪れて美しい世界遺産を見たり、同じイギリスでも気候や町並みなどマンチェスターとの違いを感じることもできたり、これらのイベントだからこそ経験できたものが多く、参加して良かったと思う。また 2 人の友人と自分たちで電車やホテルを手配し、ロンドンへ 1 泊 2 日の旅行をした。ビッグベンやウエストミンスター寺院は改修工事中で全貌を見ることができず残念だったが、2 日間という限られた日数の中で計画通りに多くの



場所を回ることができた。ロンドン旅行に際しては、Language Center のサポーターさんにアドバイスを求めると電車やホテルの予約、危機管理について詳しく教えてくださり、安全に旅行ができた。現地の人から情報を得ることはその土地について知るために大切なことだと思った。

寮での暮らし 寮は大学から徒歩で約 15 分の距離にあった。大学と寮の間にはスーパーやファーストフード店、日用品店があり、とても便利だった。生活面では 1 回の洗濯と乾燥にかかるお金が高く頻繁には洗濯ができないことは不便であったが、友人とまとめて洗ったり、小さいものは部屋の洗面所で洗い部屋干しするなど環境に合わせた生活ができたと思う。友人の部屋で食事をしながら「イギリスにいたいこと」を書き出したり、他愛のない話をして盛り上がり、イギリスでも日本でも普段の何気ない友人との会話は常に変わらずとても楽しく安心するものだと感じた。

研修の感想・今後の展望 この研修に参加して非常に充実した日々を送ることができ、有意義な夏休みとなった。忘れられない出来事となったのは、1 年生の時に参加したサマープログラムで仲良くなったマンチェスター大学の学生と再会し、夜ご飯を食べたことである。1 年前に SNS を交換して、私がマンチェスターにいることを投稿したことで叶った再会だ。会いたいと言ってくれたことはとても嬉



しく、会話もとても盛り上がった。また会うことができるとは思っていなかったため、この素敵な出会いを大切に、これからも交流を続けていきたい。

1 か月間様々な経験が出来、研修で得たものをこれからの学習に役立てていくことで、この研修が私にとってさらに意味のあるものになると考えている。研修を通じて関わってくださった皆様に感謝申し上げます。

マンチェスター大学短期研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

2年 宇野 仁子

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われました。リスニング、文法、ライティングのテストが行われ、そのあとに1対1の面接が行われました。次の日から、テストをもとに振り分けられたクラスでの授業が始まりました。月曜日から木曜日までは90分授業が3コマ、金曜日は2コマありました。文法の授業、スピーキングを主に行う授業、そしてターゲットモジュールという授業を受けました。ターゲットモジュールの授業では、マンチェスターの中心部に実際に出かけて、調べ、プレゼンをしました。日本での授業とは違い、自分の意見を聞かれることがたくさんありました。最初は戸惑い、苦手だと感じたのですが、だんだん慣れてきて話すことが楽しくなりました。

休日の過ごし方

休日には主に旅行をしました。スクールトリップという学校側が用意してくれている日帰りバス旅行に2回参加し、自力で日帰り旅行を3回しました。自力での日帰り旅行は電車を使い、リヴァプール、ヨーク、ウインダムアに行きました。電車のチケットを買うときに、リヴァプールの時は発券機で買ったのですが、



ウインダムアのピーターラビット

ヨークの時とウインダムアの時は駅員さんがいるところで買ってみました。駅員さんがとても優しく、すんなり買うことができました。旅先でも人々とコミュニケーションをとることができました。とても優しい方々ばかりでした。自分たちで行き先から決めた旅行は冒険しているようでとても楽しかったです。

生活全般

マンチェスター大学の寮の Hulme Hall という場所に滞在しました。1人部屋でした。机、椅子、棚、クローゼット、ベッド、洗面台があり、広く快適でした。キッチン、トイレ、シャワールームは共用でした。寮は学校から徒歩15分程度の場所に位置していたので、歩いて通っていました。学校終わりはほぼ毎日友達と遊びに出かけました。VUEという映画館では700円くらいで映画を観ることができました。アフタヌーンティーはリッチモンドティールームという場所がとても良かったです。アリスモチーフのお店で、店内や食器がとても可愛らしく、また、美味しく可愛いスイーツを食べることができました。



リッチモンドティールームの
アフタヌーンティー

最後に

留学をしてみたい、日本とは違う環境で生活してみたい、という思いからこの研修に参加しました。英語が苦手な状態で参加してしまったので、最初の週はなぜここに来たのだろうか、という状態でした。しかし、出来ないなりに授業に一生懸命参加したところ、2週間くらいでだんだん慣れ、少しずつ発言をした時に笑いをとれるようになり楽しくなりました。毎日が充実していて、とても濃くて楽しい4週間を過ごすことができました。この留学を通して、英語、外国に一層興味が湧きました。英語の勉強に対するモチベーションも上がりました。勉強面だけではなく、人間的にも成長することができたのではないかと思います。問題が起こった時に自分で考えて行動する力がついたと感じます。英語に自信がないからどうしようと悩んでいる人でも行くことをお勧めします。英語力がなくても日常はなんとかなります。授業は、最初はついていくのが大変でしたがすぐに慣れてできるようになります。私は今回のマンチェスター大学研修に参加することができて本当に良かったです。

この度、本学奨学金を給付していただき誠にありがとうございます。これからもうっそう勉学に励みます。



ワイトビー

マンチェスター大学短期研修を終えて

理学部 物理学科

2年 遠山 悠

参加した理由

私は英語があまり得意ではなく、特にリスニングが苦手でした。4月から英会話教室にも通い始めたのですが特に何も変わらず、悩んでいました。そんなとき、中級英語の授業で短期研修の案内の紙が配られました。締め切りが間近だったこともあり、授業が終わってから母にすぐ「行きたい」と相談したら、快諾してくれたため、このプログラムに参加することを決めました。

現地での生活について

イギリスというと食べ物が美味しくなかったり、物価が高かったりするイメージですが、真逆でした。スーパーではクロワッサンが5つで1ポンド(=150円)で売られていたり、街に出れば美味しいレストランがたくさんあったりと充実していました。

来る前は同じ北半球だからそこまで寒くはないだろうと思っていましたが、これも真逆でした。しかし幸いな事に寮は常に暖かく、街には日本のGUのような安くて品質も良い服屋さんもあったので、そこまで困ることはありませんでした。

授業では、グループワークを通して中国や韓国の友達を作ることができ、いろいろな国のことを聞け、貴重な経験になりました。先生は細かいところまで私たちに発言を求めてきたので、自主性が身につく、英語を必死で聞き取ろうという姿勢が身につきました。

放課後・休日について

マンチェスター大学での授業は月～木が15:30まで、金曜日は12:30ごろまでだったので充実した放課後を過ごすことができました。アフタヌーンティーを楽しんだり、映画を観に行ったり、とても楽しかったです。特に、映画は日本の半額で見ることができるため、暇さえあれば映画を観ていました。

加えて休日、特に土曜日は大学側が用意してくれたInternational Society(ツアーのようなもの)でイギリスの色々なところに行くことができます。私はヨークとウィットビーに行きました。どちらも自由時間がたっぷりあって、とても楽しかったです。

休日を利用してケンブリッジに行きました。自分でホテルをとって、初めての一人旅だったのですが高速バスが快適で良かったです。また、現地の人たちもとても親切に街の案内をしてくださりました。それぞれの街にそれぞれの雰囲気があり、マンチェスターだけでなく、イギリスの他の都市に出かけたのはとてもいい経験になりました。

お金について

私はイギリスに行くまでカードを持ったことがなく、心配だったので VISA マークのついたプリペイドカードを持って行きました。ホテルや高速バスの決済などはカードですることがほとんどだったので、持って行って良かったと思いました。また、私はカードで10万円、現金で3万円をポンドに替えて持って行きましたが、それで十分足りました。

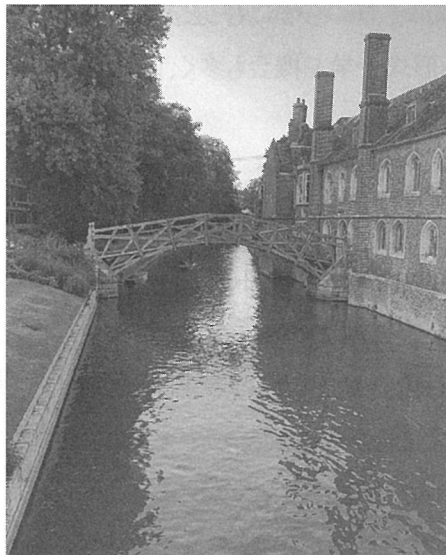
最後に

行く前はすごく不安だったけれど、このプログラムを通して中国や韓国の友人もでき、同じ大学の人とも新しく仲良くなることができ、本当に嬉しかったです。自分自身、1ヶ月という長い期間を海外で過ごすのは初めてだったので緊張しましたが無事に帰って来ることができ、そして少しだけだけれども成長したのではないかなと思います。

最後にはなりますが、国際教育センターの井上先生や現地のスタッフの方、そして両親に心から感謝したいです。



ヨークで撮った写真



ケンブリッジにある水道橋

マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 人文科学科

2年 岡 秋桜花

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われます。文法、ライティング、スピーキングのテストでした。初回の授業では、自己紹介をゲーム形式で行いました。最初の1週間、クラスにいたのは中国人と私たち日本人でした。自己紹介では、趣味や将来の夢などを対話形式でお互いに話しました。授業は教科書通りのリスニングやリーディングのほかに、ゲーム形式のものやディスカッションのようなものが多かったにもかかわらず、名前が当てられない限り、先生の質問に答えるのはいつも中国人



ばかりでした。しかし、最初の1週間が終わると授業は日本人だけになり、私たちは「発言しなければならない」と強く感じ、授業中発言するようになりました。私は授業で質問に答えたりみんなの前で発言したりするのが苦手で嫌いでもありましたが、授業で多く発言できるようになり、ほとんど発言しなかった最初の1週間より多く発言したあとの3週間のほうが不思議と授業が楽しかったです。先生方

にも「君たち最初は静かだったけど話すようになったね」と褒められ、自分でも英語力が伸びたと実感しました。最初の1週間から怖がらずにもっと英語で話していればよかったと後悔しています。グループに分かれてゲーム形式で学ぶ機会も多く、とても楽しみながら英語を学ぶことができました。

課外活動

University Language Center のイベントでアフタヌーンティーが開催されたり、ヨークやウィットビーなど自分では行かないような観光地にバスで行けたり、というとてもありがたい機会がたくさんありました。ヨーロッパの生活や町並みを感じることができ、幸せな時間を過ごすことができました。



生活

私はお茶大のプログラムでマンチェスターに留学したため、お茶大生がたくさんいて、さらにクラスでほかの日本の大学の方たちもいたため、寮には日本人ばかりでした。イギリスは物価が高いと

言われていて少し不安でしたが、食費がかかるのは外食をした場合のみで、食材を買ってきて自炊をすれば食費は抑えられました。休日は、シティーセンターに行ってお買い物をする事が多かったです。8月の最後にイギリスの休日のおかげで3連休があり、ロンドンまで行くこともできました。私たちの失敗は、ロンドンまで行く交通手段をギリギリまで考えていなかったため、電車の運賃がとても高くなってしまったことです。バスの値段はそれほど変わらないらしいのですが、電車は予約が早ければ早いほど安いと聞いたので、交通手段や宿泊先は早めに決めておいたほうが良いと思います。



最後に

私は実家暮らしのため、家族と長い間離れたことは今までありませんでした。さらに英語も得意ではないため、行くまではとても不安でした。しかし、行ってみてしまえばなんでもできるということを強く感じました。現地の友人こそできなかったものの、中国人や日本人の友人がたくさんできました。世界遺産が好きなので、世界遺産をいくつか訪れることができたのもいい思い出です。また、費用が少し高くて不安でしたが、奨学金があり助かりました。ありがとうございました。不安が多く、行くのが嫌になったほどでしたが、最後は「もう帰らなければいけないのか」と思うほど留学を楽しむことができました。最初の1週間は時差ボケでほとんど出かけられなかったのを後悔していますが、後半はいろいろなところに出かけたりいろいろなことに挑戦したりすることができ、とても充実した毎日でした。この経験を今後に活かしていきたいです。

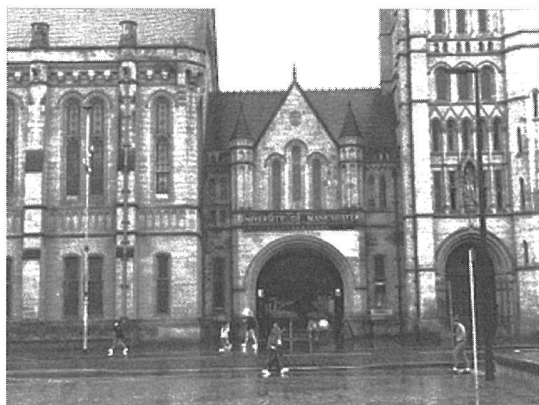
マンチェスター大学夏期短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 海老 鴻子

授業内容

初日にクラス分けのテストがありました。1 時間ほど文法のテスト、30 分ほど作文のテスト、その後面接がありました。私は中国人学生と日本人学生が半々程度の、中上級クラスで学びました。1 クラス 10 人程度で細かく分けられたので、1 人 1 人のレベルを考慮してもらえたと感じました。クラスによって使っている教科書のレベルが異なります。夏休みの初めのうちはヨーロッパや西アジア系、イスラム系の学生も多かったようですが、私たちが行った時期は遅かったのも最終的に日本人学生だけになってしまいました。授業では、教科書に載っている文を読む、もしくは DVD を見た後に



その内容についての質問に答え、ペアで話し合う、ということをしました。その後にはクラス全体で意見交換が行われます。使われる英語は易しく、先生も私たちに分かるよう丁寧に説明してくださいました。講義形式ではなく、先生の質問に私たちが答えていくものなので、誰かが発言しなければ授業が進みません。私は日本の大学の授業ではあまり発言しない性格でしたが、ここではかなり積極的に発言することができたと思います。毎週金曜日

日はマンチェスター市内のフィールドワークをし、美術館、博物館に行ったり、実際に町の人と交流したりしました。そのたびに質問用紙が配られ、グループ内で協力し合って質問に答えます。そして、次の授業でプレゼンをします。このフィールドワークによって、留学生同士の仲が深まりました。

週末の過ごし方

入って1日目に、インターナショナル・ソサエティーという団体に加入します。これは留学生同士の異文化交流を目的とした団体で、バスを借り切って無料で観光地に連れて行ってくれたり、アフタヌーンティーやボウリング大会を開催してくれたり、と留学生たちの観光や英語でのコミュニケーションの後押ししてくれました。私たちも、マンチェスターからバス



で 2、3 時間かかるヨークやウィットビーに行きました。目的地に着いてからは自由行動なので、利

用すべき制度だと思います。事前に有名な観光地のリストが配られるので、バスの中でどこに行くか、何時に行くかを計画しておくが良いです。

また、休日を利用し自分たちで電車やホテルを予約してロンドン旅行に行きました。イギリスの特急列車も指定席か自由席かが選べるのですが、ロンドンまでは3時間以上かかるので指定席にした方が良いでしょう。ロンドンは少し治安が悪いと言われるので、パスポートや保険書類などすぐに使わないものは、腰に巻いてズボンの中に入れるベルト型貴重品入れに入れました。日本人留学生の中には実際にスマートフォンやお財布をすられた人が何人かいました。

イギリスのレストランは、お水を出してくれませんし、ミネラルウォーターになると有料でかなり割高です。タップウォーター(水道水)を頼む方が良いでしょう。食事の量はかなり多いので、注文前に周りを見渡してみて大きさなどを確認してみることをお勧めします。チップは代金に含まれていることが多いので、チップを入れる箱が見当たらない場合は払わなくて良いかと思います。また、イギリスの博物館・美術館は入館料が基本的に無料であるのがとても嬉しかったです。また、買い物袋はスーパーマーケットでもお土産屋さんでも、基本的に有料なので断っておいた方が無難です。

生活全般

イギリスは夏でもかなり寒く、半袖ばかり持って行った私はかなり苦労しました。現地で上着や下着を買うことになってしまったので、日本から半袖の服は持って行かず、長袖のスウェットやパーカー類を持って行くが良いと思います。冬用のウィンドブレーカーを毎日使用しました。雨が降りやすいので折りたたみ傘は必需品です。

最後に

私は英語圏言語文化コースに所属しているので、イギリス文学を形作る気候や国民性を肌で感じたいと思い、この研修に参加しました。一緒に研修に参加した仲間も、向こうの先生方もとても親切で、勉強の面でも生活の面でもいろいろ支えていただきました。普段自ら率先して動くことのない私も、向こうでは慣れない中何もかも自分でやらなければならず、精神的に大きく成長できました。今回の研修を通して、本で読むだけでは決して理解できない、イギリスの本質の部分を知ることができたので、今後の学習に活かしていきたいと思います。

最後に、この度は本学奨学金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。採用していただいたことで学習に対する意識が高まり、4週間に有効なものにすることができました。このような滅多にない機会を学生のうちに持てたことは、私の人生の大きな財産です。感謝の気持ちを忘れず、これからも努力を続けていきます。ありがとうございました。

マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 人文科学科

2年 梶原 友里

<授業内容>

初日にクラス分けのテストを受けました。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの全てが行われました。授業はテキストを使うコアクラスが週 11 コマと、イギリス・マンチェスターの文化や歴史を取り上げるターゲットモジュールが週 3 コマあります。夏季に語学研修生を入れ替わりで受け入れているようで、授業内容の切れ目ではないところから授業を受けることになりましたが、先生や先に来ていたクラスメイトが説明をしてくれるので、問題はありませんでした。コアクラスでは文法も学んだのですが、日本語では理解できていても、英語ではうまく説明できなかったのが、英語で文法を学ぶことでより理解が深まりました。日本の授業とは違って、テキストをなぞるだけでなく、グループごとにゲームやペアワークを非常に多く取り入れていました。はじめはネイティブの先生の発音の聞き取りに不安があったのですが、先生方が聞き取りやすいように話してくれますし、毎日



英語に触れていると耳が慣れて、次第により聞き取れるようになっていくことを実感しました。スピーキングには特に苦手意識があったのですが、これまで積極的に発言していたクラスメイトが帰国し、クラスが日本人だけになってからは、発言が少なくなりましたので、積極的に話すように心がけました。拙い文章でも理解しようとしてくれるので、伝えようとする姿勢が大事だと改めて感じました。

<課外活動>

授業外にさまざまな活動に参加できます。キャンパスツアーから、週末の日帰りショートトリップなどがありました。私はヨークにショートトリップを利用して行きました。バスの送迎のみで、あとは自由行動なのですが、城壁に囲まれた旧市街の街並みやヨーク大聖堂などの建築物が美しかったです。移動途中のバスから見える山並みや牧



場、住宅などの景色も、日本の景色と異なっていて興味深かったです。

<休日の過ごし方>

現地には金曜日の真夜中に到着したので、初めの週末は時差ボケであまり出歩かなかったのですが、もっと行動しておけばよかったと後悔しています。次の週末はヨークに行きました。その翌週は月曜日がバンクホリデーというイギリスの祝日で、3連休を利用してロンドンに2泊3日で行きました。使おうとしていた鉄道が工事のために運休しているなど少し困ったこともありましたが、充実した週末を過ごせました。特にバッキンガム宮殿の内部は、装飾が非常に豪華で圧倒されました。最後の週末には課外活動の1つであるアフタヌーンティーに参加しました。様々なところに出向くことで、貴重な経験が出来ました。

<日常生活>

宿泊先は大学の寮で、同じフロアにはほぼお茶大生しかいませんでした。部屋は1人部屋ですが、キッチン、トイレ、シャワー室、洗濯機は共用なので譲り合って使っていました。食事は一切出ないので、私は友人と2人で費用は割り勘をし、基本的に朝食と夕食は自炊し、昼食は大学のカフェで買ったり、近くのカフェに食べに行ったりしていました。イギリスは物価が高いと聞いていましたが、食料品は高いとは感じませんでした。ただし外食は高くつきます。外を歩いていると、たまに中国人と間違えられて「你好」と声を掛けられることもありました。それをきっかけに交流が生まれておもしろかったです。最終週あたりに寮の洗濯機が使えなくなったこと以外は、特に困ったことはありませんでした。

<最後に>

学生のうちに海外に滞在してみたいという思いから、この研修に参加しました。出国前や到着直後は不安が大きかったのですが、つたない英語でも何とかなると分かると充実した毎日を送れました。また、自分の英語力のなさも痛感したので、継続して学習していきたいです。

最後に、大学から奨学金の援助を受けてこの短期研修に参加しました。マンチェスターでの日々は、非常に貴重な経験となりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 人間社会科学科

2年 吉満 麻乃

大学について



初日にクラス分けテストを受けました。人数やメンバーはクラスによって多少の違いがあったようです。私のクラスはお茶大生 2名、理科大生 4名、中国人留学生が 4名でした。その他に上智大学の学生もいましたし、1週間後には中国人に代わって神奈川大学と福岡女子大学から新たな日本人が加わりました。日本人だけのクラスになるとやはり、いざという時には日本語を使えば

通じるだろうという甘えがあったような気がします。緊張感の維持や語学力の向上という点では物足りなさがありましたが、私は初めての海外で不安も大きかったため、日本人だけのクラスは楽しみながら英語を学べて良かったかなと思います。ただ、マンチェスター大学側が夏季休暇の時期に研修に行ったので、大学にいるのはほとんどが日本と中国からの留学生でした。そのため、先生やお店の人などに話しかけるなど、現地の人との交流の為には多少の積極性が必要だったかと思いません。私は学校の設備の使い方がわからなかった際、たまたま近くにいた女性に声をかけたところ、マンチェスター大学の博士課程に通うイギリス人の学生でした。これはラッキーだと思い、その後お礼のメールを送ったことをきっかけに何度かメールで交流をしました。先生以外の現地の人との交流は、今までになかった刺激や気づきをもたらしてくれたので、今回の研修の中でも特に印象強く残っています。

休日について



授業は平日だけなので、土日は全て自分の好きなように過ごせました。平日も 15 時半には授業が終わるので、自由に使える時間は充分だったと思います。寮から大学までの道中にはスーパーや飲食店が結構あり、食べ物等に困ることはなかったです。平

日は買い物をしてそのまま寮に帰るか街中をぶらつく程度でしたが、週末は皆、ロンドンやリバプールなど少し遠出をしていました。私は自分で計画して遠出することはなかったのですが、週末には大学がバスツアーを催してくれていたののでそれに参加しました。イギリスで過ごしていてよく感じたのは、どの場所も広くゆとりがあって建物が美しく、人々がとても楽しそうだなということです。特にマンチェスターは多様な人々が集まっており、非常に開放的で住みよい街でした。日本のように居酒屋がない代わりにカジュアルなバーが沢山あり、普段とは違った雰囲気を楽しむ機会も多かったです。特に用事や目的がなくても街中をプラプラと散歩しているだけで楽しい気分になりましたし、今回の研修先にこの場所を選んで良かったなと感じました。

最後に

実際に研修に参加するまでは非常に不安が大きかったのですが、実際に行ってみるとリラックスして毎日を過ごすことが出来ました。大学では先生や仲間に恵まれましたし、新たな出会いや発見が多くあって貴重な体験となりました。日本にいても英語の学習はできますが、実際に海外へ行ってあらゆる場所で英語に囲まれて生活する時間はやはり格別の刺激に満ちています。迷った末の参加でしたが、今回の研修に参加して本当に良かったです。

マンチェスター大学夏季短期研修に参加して

理学部 生物学科

3年 高島 風紗

授業内容、様子

初日にクラス分けテストが行われました。クラスは私が思っていたよりもたくさんあり、1クラス10人程度でした。また、クラスはお茶大生だけで構成されているわけではなく、国内外の複数の大学の生徒で構成されていました。私のクラスは中国の大学生が多かったのですが、他の子のクラスにはロシア、サウジアラビアなどの国の大学生もいました。お茶大生が1~3人ずつ各クラスにいました。私たちが参加したコースはマンチェスター大学が主催している英語のサマープログラムだったため、マンチェスター大学の生徒とは関わる機会がありませんでした。しかし、掲示物に記載されているイベントに参加すると、マンチェスター大学の生徒と関わる機会もあったようです。授業は月曜から木曜は90分×3コマで9:30からでした。金曜日は9:30に大学に集合し、大学外の博物館や美術館に行きました。月曜、水曜の午前2コマと、火曜、水曜の3コマはGeneral Language

Developmentというクラスで、英語の文法やスピーキングの練習をしました。クラスの担当の先生が2人いてどちらの先生も英作文を丁寧に採点してくれたり、発音を直してくれたり、問題を丁寧に解説してくれました。月曜、水曜の午後1コマと金曜日はTarget moduleというクラスでGeneral Language Development

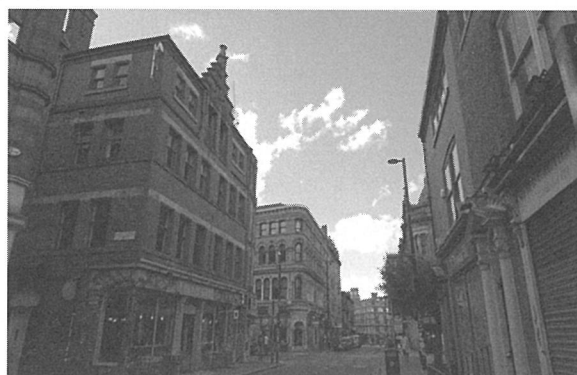


のクラスとはまた違うクラスのメンバー、先生と学びました。このクラスではイギリスの文化について主に学びました。この授業内で先生と一緒に博物館へ行くことや、イギリスのケーキの種類について学んだのがとても楽しかったです。先生は皆気さくで、丁寧に教えてくれるので授業内で困ったことはありませんでした。集中して毎日みっちり英語を学ぶ機会はそのようなのでこの研修に参加してよかったと思います。特にリスニング力は格段に上がりましたし、英語を話すことへの抵抗が全くなりませんでした。

生活全般について

寮生活で寮の形式は個室でキッチン、シャワー、トイレが共用でした。大学から寮は徒歩15分くらいでした。大学から寮の間にスーパーが6つと1ポンドショップが1つあり、買い物には不便なかったです。私はパスタやお肉、食パンを買って自炊していました。スーパーの品の価格は日本と

同じくらいかそれよりも安いくらいで利用しやすかったです。放課後はスーパーで買い物をしたり、街の中心(寮からは徒歩で40分、バスもあり)で買い物を楽しみました。その他の娯楽として町を観光したり、脱出ゲームに参加したり、映画を見たり、ミュージカルを見ました。土日は International society という団体のスクールトリップに参加しマンチェスター以外



の都市、York や Liverpool へ行きました。また、3連休があり、3連休を利用してお茶大の友達とロンドンへ行きました。ロンドンへはバスも出ていますが電車が楽なのでお勧めです(安いのはバスです)。私たちは高速のサービスエリアで休憩時間を間違えてバスに置いていかれてしまい少し大変でした。このような感じで町の人々も優しく生活には困らなかったのですが、不便だった部分をあげると洗濯と寮の受付です。カードを買って登録する作業が必要でその作業でエラーが起き、さらに洗濯機もしばしば壊れ、修理されるまで何日もかかりました。また、寮の住人、何十人に対して洗濯機が3つだったので自分の好きな時間に回せず近くのコインランドリーに行く人や手洗いをする人もいました。私は友達2人と回しお金を節約しました。また受付の方は16時を過ぎた頃に帰ってしまうので大学終わりに直帰しても間に合わないこともあり、用があったら(日本からの荷物を受け取るなど)朝行くのがお勧めです。基本的になんでも買えるので書類やパスポートさえ持てば日用品はなんでも買えます(クレジットカードは2ブランド持っていくのがお勧めです。基本的にクレジットカードがどこでも使えますが、現金は割り勘するときなどに必要です)。また、お土産やイギリス製品を沢山買うと思うので捨ててもいいバスタオル、服を持っていくのがお勧めです。

最後に

行く前は不安で仕方なかったのですが、行ってよかったの一言に尽きます。何もかもが新鮮でとにかく楽しく、英語力も上がり、英語を学ぶのが楽しくなりました。この研修に参加することにより沢山のことを学び、人として成長することができました。支えてくださった両親とお茶の水女子大学奨学金制度に感謝申し上げます。

マンチェスター大学短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

3年 山口 莉紗

授業内容

コア英語の授業が週 10 コマ、ターゲットモジュールというイギリス文化についての授業が週 4 コマありました。1 コマは 90 分で、1 日 3 コマが基本なので、15 時半にはたいてい授業が終わります。

日本の講義形式とは違い、先生と生徒の相互作用で授業を作り上げていく感覚で、発言することが求められます。ただし、授業そのものが対話を前提として作られているので、慣れれば苦労はないと思います。ターゲットモジュールはイギリス文化について学ぶのですが、金曜日は課外授業となり、マンチェスター中心街の博物館などをめぐりました。様々な展示物を見てイギリス文化に肌で触れたり、解説を読んだり、自然と英語を学べるいい機会でした。



生活、寮について

私たちは大学寮に宿泊しました。キッチンやシャワールームがすこし狭かった代わりに、部屋は十分に広く快適でした。一番苦労したのは洗濯です。寮の洗濯機が面倒な登録手順を踏まないと使えない上に1回ごとに乾燥機も含め4ポンド近く取られ、とても壊れやすく、突然補修工事が入ったりして非常にストレスでした。数日ごとに、友人と共有で使うことをお勧めします。受付に何度も苦情を言いに行ったおかげで、英語での交渉の仕方が身についた気がしますが、できることなら回避したかったです。

イギリスというと食事が最も不安だと思います。しかし、マンチェスターは工業都市ということもあって物価が安く、素材はおいしいので、自炊する分には全く問題はないです。スーパーによっては醤油も売っていますし、チャイニーズスーパーもあります。冷凍食品も基本おいしいです。缶詰系は外れが多い気がしました。イギリスは外食が日本より高いのですが、大学や博物館などに付属するカフェは比較的安いことが多いのでチェックしてみてください。

また、イギリスはキャッシュレス化が進んでいます。私は現金をメインに生活しようと考えていましたが、結果的にクレジットカードを使う場面がそれなりに多かったです。失くすのが不安だとは思いますが、クレジットカードやプリペイド型の IC カードなどはあった方がいいと思います。



余暇時間について

平日でも課題がない日はかなり時間があるので、そういうときは友人と待ち合わせて中心街に遊びに行ったりしました。147 番のバスに乗ると途中までですが中心街へ無料で行けるので、よく使いました。現地の先生に詳しく聞いてみることをお勧めします。研修の後半は英語での生活にも慣れて、アフタヌーンティーを楽しんだり、映画を見に行ったり、現地で仲良くなったサウジアラビアの留学生と出かけたりと、様々に時間を楽しみました。

土日は大学のアクティビティを利用してヨーク、リバプールなどに出かけました。大学が用意してくれたバスに乗っていけるので、現地で思いっきり遊ぶことができます。行先が選べるアクティビティもあるのですが、人気なものはすぐに満員になってしまうので早めに登録しておくといいです。8 月の下旬には 3 連休があったので、自分たちで宿やバスを予約してロンドンを訪れました。バス旅は疲れたので、なるべく電車で行く方がいいです。

最後に(奨学金について)

お茶大の奨学金をいただいたおかげで、金銭的なストレスを抱えることなく研修生活を謳歌できました。今後もこの素晴らしい制度が続いてくれれば何より有難いと思います。心より感謝いたします。

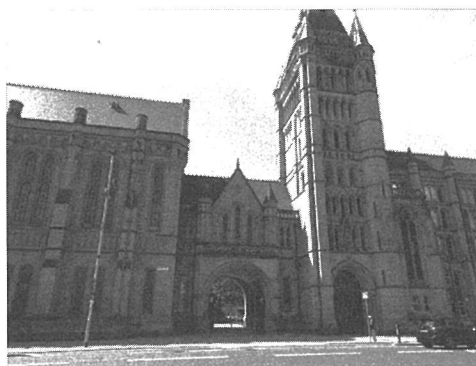
マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 篠原 惟

授業内容

初日にクラス分けのテストを行いました。英文法のテストと1対1の面接です。面接では、普段大学で勉強していることや英語のスキルでどのような部分を伸ばしたいか、将来はどんな職種につくつもりかなどを聞かれました。90分の授業が週に14コマあります。担任の先生の英語クラスが週6コマ、別の先生の英語クラスが週4コマ、ターゲットモジュールというイギリスの文化を学ぶクラスが週4コマというカリキュラムです。月曜から木曜までは毎日3コマあります。1限は9時半からあり、1限と2限の間には30分休憩があります。お昼休みは13時から14時までです。授業内容に関しては、英語のクラスでは配られた教科書を使って英文法と英単語を勉強します。すでに中学や高校で習った文法知識を確認し、スムーズに使えるように会話練習をたくさんしました。間違っても積極的に英語で発言することが求められるので、英語を話す良い機会になりました。研修の中盤頃、突然TOEFLテストの擬似問題を受けさせられて驚くこともありましたが、日本に帰ってからも英語を勉強し続けるためのモチベーションになりました。ターゲットモジュールでは大学付近の美術館や博物館に行きマンチェスターの文化や歴史を学びました。金曜日はターゲットモジュールが2コマのみで午前放課なので、そのまま街中散策をすることができ楽しかったです。



お金について

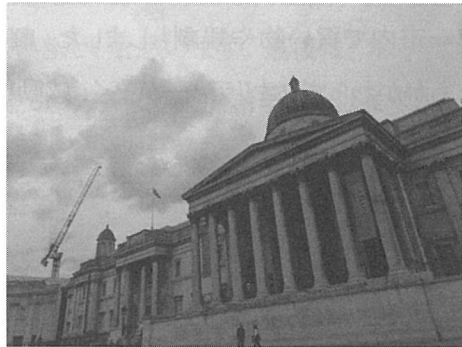
私は約5万円分のポンドを現金にして持っていきましたが、そんなにたくさん両替しなくても良かったと思います。なぜならほとんどの店がクレジットカード対応だったからです。現金を使う場面は小さなマーケットやバスに乗るときくらいでした。ただし、ペイウェーブという機能がついていればクレジットカードでもバスは乗れます。カードは念のため2枚持っていきました。現金はあまり多く持ち歩かず、財布も小さくて地味なものにしたほうが良いと思います。物価についてはスーパーで売っているものはとても安かったです。美味しいフルーツや野菜、お肉などが日本では考えられないくらい安さで売っていたので、節約したい方は自炊することをおすすめします。レストランやカフェで外食すると通常で12ポンドくらい、安くても7ポンドくらいはかかってしまいました。サブウェイやスタバ、マクドナルドなどおなじみのチェーン店はどこにでもあり、日本とそれほど変わらない値段なので安心です。日用品を買うのなら寮の近くにあるPound Landという1ポンド均一のお店がおすすめです。

生活について

私達は大学から徒歩10分程度のところにあるHulme Hallという寮に滞在しました。それぞれの個室があり、キッチン、シャワー室、トイレは共用でした。持っていくと良いものはハンガー、スリッパ、マスク、ダニよけシートです。イギリスは乾燥しているので寝るときにマスクをつけていました。ダニが気になる人はダニよけシートを持っていくべきかもしれません。私はシーツの下に敷いていましたが、少し刺されてしまいました。寮生活で一番トラブルがあったのは洗濯です。ランドリーカードにお金をチャージして使うタイプの洗濯機と乾燥機がありましたが、カードが使えなかったり、チャージができなかったり、乾燥機が壊れていたりなど、いろいろと手こずりました。レセプションの人に相談したり、ランドリー会社に問い合わせたりして解決はしましたが、1回の洗濯をするために4.3ポンドもかかるので友達と一緒に洗濯するなど工夫したほうが良いと思います。服装についていうと、イギリスは8月でも20℃を下回るので長袖と上着は必須でした。私は寒すぎて現地でウィンドブレーカーを買いました。また、マンチェスターは頻繁に雨が降るので折りたたみ傘も持っていくべきです。

週末の過ごし方

大学から配布されるイベントチケットや旅行チケットを使って貴重な体験をしました。旅行チケットは大学の方が観光地までバスで連れて行ってくれるのでとても安心でした。私はヨークとウィットビーに行きました。どちらもとてもきれいな田舎町が広がっていて、世界遺産を見たり、美味しいご飯やお土産なども買うことができ、楽しい旅行でした。イベントチケットでは、映画館に行ったり、ボウリングをしたり、アフタヌーンティーをしたりして大学の人達と交流することができました。また、友達と計画して3人でロンドン旅行にも出かけました。1泊2日という短い旅でしたがとても楽しかったです。ロンドン塔やタワーブリッジを見たり、ロンドンアイに乗ったりしました。大好きなハリーポッターのスタジオに行きたかったのですが、2週間前では予約がとれなかったのもっと早くから予約しておけばよかったと後悔しました。ロンドンでとても役に立ったのはガイドブックについていた地下鉄の路線図です。移動はほとんど地下鉄なので必須でした。せっかくイギリスに来ているのだからいろんなところに行きなきゃもったいないという気持ちで毎週末を充実させられたと思います。



最後に

イギリスに留学するのは中学2年生の頃からの夢だったので、今回それを叶えることができとてもうれしかったです。新しい土地で新しい出会いに恵まれるということはこんなに楽しいことなのだと思えました。この留学をサポートくださったすべての人に感謝したいです。

マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

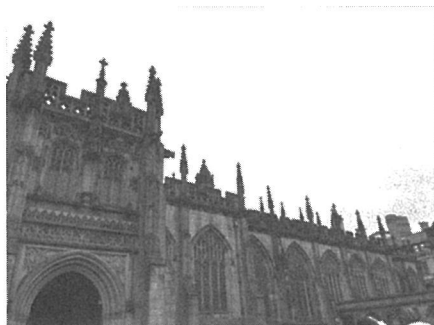
3年 小澤 真里菜

授業内容

最初にテストや面接を受け、それによってクラス分けがされました。クラスは10人前後で帰国などによる留学生の入れ替わりがあり、私のクラスは初め他に日本人がいなかったのですが、2週目からは他の大学からの日本人2人、ロシア人、サウジアラビア人、カザフスタン人と一緒に授業を受けました。授業は1コマ90分でCore Languageという通常の授業が週10コマ、イギリス文化について学ぶTarget Moduleという授業は週に4コマありました。Core Languageでは文法やスピーキングが中心で、話し合ったり、意見を求められたりすることが多くありました。Target Moduleに関しては、2コマ続きの金曜日に博物館などに出かけ、見学内容に基づいてプレゼンテーションを行うことが多かったです。授業は毎日9:30に始まり、30分の休憩と1時間の昼休みを挟んで、月曜から木曜は15:30に終わりました。金曜日は13:00に授業が終了するという時間割になっていました。

課外活動

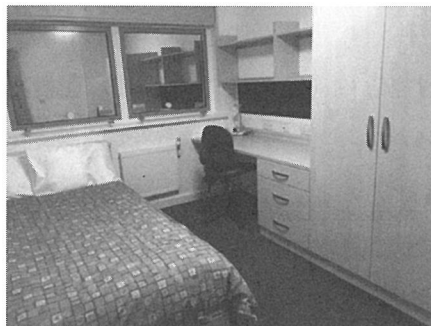
大学のバスでヨークとリバプールに行きました。両方とも無料で行くことができました。また、自分たちで計画してロンドンにも1泊しました。こちらではバスの休憩時間を間違えてサービスエリアに置いていかれるというアクシデントがありましたが、周りの人々が優しく助けてくださったので、無事たどり着くことができました。大変だった反面、いい経験になったと感じています。また、マンチェスター市内で買い物や観劇もしました。劇は無名の役者さんによるもので、チケット代は安かったのにもかかわらずクオリティが高く、感動しました。リスニングの勉強にもなったと思います。



生活全般

マンチェスター大学のHulme Hallという寮に滞在しました。授業を受ける建物までは徒歩15分くらいでした。寮の近くにはスーパーやカフェなどが多くあったのですぐ買い物に行くことができました。1人1部屋で台所とシャワー、トイレが共用でした。台所には鍋や包丁、食器なども揃っていましたが、私は自分用に食器が欲しかったので寮の近くの1ポンドショップ(日本で言う百均)で大皿1枚とマグカップ1つを購入しました。なお、箸とラップは日本から持って行くのが便利だと思います。食事は人によりますが私は主に簡単な自炊をしていました。食に関して困ることは特にありませんでした。寮での生活において最も大変だったのは洗濯です。まず1回の洗濯で料金がそれなりにかかるので、私は節約のために週2回くら

いの頻度で友達と一緒に洗濯し、割り勘をしていました。物によっては手洗いもしました。ただ、脱水機をかけずに部屋干しするとほとんど乾かず、不衛生なので要注意です。寮に滞在している人数に対して洗濯機と脱水機の数も少なかったため、タイミングを見てうまく調節する必要がありました。また、天候についてですが、晴れていることは少なく、曇りが多いという印象でした。1日の中で天気がコロコロ変わり、小雨が降ったと思ったらすぐにやむことも多かったです。撥水・防水加工のされたアウターを着ていると便利です。基本的にマンチェスターは涼しく、日によっては寒い位で、ほとんど毎日長袖を着て過ごしました。感覚としては日本の秋～冬くらいの格好をすると良いのではないかと思います。ヒートテックもよく着ていました。



感想

私は今回の短期研修まで海外に行ったことがなく、英語にも自信がなかったため、行く前は不安で仕方ありませんでした。到着してからも初めのうちは聞き取りが難しく、自分の考えもうまく表現できずに悔しい思いをしました。しかし、先生も他の国からの留学生も優しく接してくれたので徐々に話せるようになりました。個人的に雑談ができた時は本当に嬉しかったです。たとえ文法が間違っているとしても、とにかく伝えようとするのが大切なのだと思えました。何より、授業でもそれ以外の時間でも、想像以上に英語が通じたことは自信につながりました。今回の短期研修では、日本にただでさえできない貴重な経験が本当にたくさん得られました。自分には何が足りないのかということも改めて確認できたので、今後の学習に生かしていきたいと思えます。最後に、本学奨学金の支給をはじめとし、この度の滞在を支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

マンチェスター大学短期研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

1年 張 慧理

授業内容

授業の最初の週は日本人と中国人の学生が半々の状態でした。すでに3週間いた中国人の学生たちにはご飯に連れて行ってもらったり、現地についていろいろ教えてもらったり、とても親切にしてもらいました。日本人だけになったあとは、授業で沈黙にならないように積極的に英語を話そうとしました。先生が2人おり、それぞれで違う内容を教えていましたが、共通するのはやはり英語を話すように促していた点です。質問されることが多く、答えた後に Why と再び聞かれるのにみんなよく困っていました。どんな質問をされても黙っているのではなく、簡単でも何か答えるほうが英語で話す良い練習になると思います。第3週には本格的な英語のリーディングとリスニングのテストが行われました。1人ひとりの面談もありました。4週間で英語が上達するかどうかは自分次第だと思います。積極的に英語で発言するのが大事だと思います。



寮での生活

寮はとてもきれいでした。ベッドのシーツなどは毎週月曜に外においておけば新しいものに替えてくれます。部屋は1人1つ、共用のお手洗いとシャワーが2つずつ、共用のキッチンが1つです。キッチンでは調味料や洗剤は誰かが買い、それをみんなでシェアしていました。Wi-Fiは寮と大学構内の広い範囲まで飛んでいました。スーパーは大学から寮までに何軒もあり、便利でした。私は後半から自炊にハマリ、ほぼ毎晩キッチンに入り浸っていました。部屋に1人であるのもいいですが、キッチンで先輩たちと話したのはとても楽しかったです。困ったことを挙げると、洗濯、壁が薄い、そしてレセプションが2時間早く閉まってしまうことです。



課外活動

毎週金曜日は先生がマンチェスターの色々な所に連れて行ってくれ、マンチェスターの文化や

歴史について知る授業でした。また、1人2回まで無料で週末に大学が小旅行に連れて行ってくれました。平日にも映画鑑賞やパーティーなどの無料で参加できる活動がありました。私は放課後よく市街地に行きました。中華街では日本のものをいっぱい売っていますし、博物館や美術館が無料ですし、ショッピングできるとても大きい施設がありますし、映画が日本より安いので、毎日行っても飽きませんでした。最後の週はアフタヌーンティー巡りをしました。イギリスのご飯は美味しかったです。



週末は列車で色々な所に行って旅行しました。切符を買うのはさほど難しくなく、行き先を伝えれば行き方を教えてくれますし、機械もとても簡単です。Wi-Fiがあれば基本 Google Map を使い、どこでも行けます。



イギリス人は皆とても親切でした。行き方を先生に聞くのもいいと思います。一緒に考えてくれますし、そこで会話が膨らんで英語のいい練習になります。

マンチェスターで過ごした 4 週間はとても短く感じられ、とても貴重な時間でした。将来もし海外で生活する事になった時のいい経験になりました。英語は持続するのが大事なので、これからもがんばります。ありがとうございました。

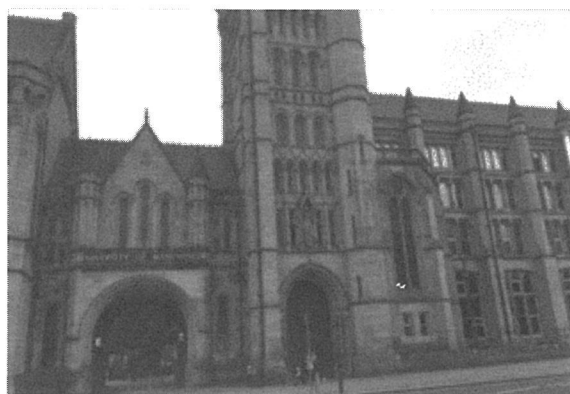
マンチェスター大学短期語学研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

2年 畑崎 小波

授業内容

初日にリスニング、リーディング、ライティングの試験が行われました。ライティング以外のテストはマークシート形式でした。スピーキングのテストもありましたが、先生と趣味や興味のあることなどを軽く自己紹介をして話す程度なので、あまり身構えなくても大丈夫だと思います。テストの成績をもとにクラス分けされました。授業は文法中心のクラスと、会話中心のクラスがあり、2種類の



授業を受けました。文法クラスでは先生がライティングの添削をしてくださり、ネイティブが使う自然な英語表現を教えてくださいました。毎週金曜日には会話クラスで課外授業がありました。マンチェスターの有名な博物館や美術館に出かけたり、配られたマップを元にグループでお題の場所を探したりと楽しい授業でした。次の週に課題授業の内容をプレゼンすることもありました。プレゼンを聞いた先生が感想を言ってくださり、文法上の間違いやプレゼンの時に注意すべき点を指摘してくださったので、とても参考になりました。

海外の学生との交流について

第1週目には中国からの留学生と同じクラスでした。サウジアラビアからの留学生もいました。先生の英語だとみんな聞き取れるのに、ネイティブではない人の英語は出身の国のなまりがあり、お互いに伝わらなくて苦労することが多かったです。正しい発音で喋ることの大切さを痛感しました。意思疎通がうまくできないときに、紙に英語で書き出して伝えてくれたり、ゆっくり何回も伝えてくれたりしました。私の英語力が足りず言いたいことを表現するのに苦労しましたが、ちゃんとした文章になっていなくてもジェスチャーで伝わったりして、伝えようとする気持ちの大切さも学びました。

休日の過ごし方

休日は毎週遠出したり、マンチェスターのシティーセンターへ出かけたりしていました。1週目の休日はリヴァプールへ行きました。駅のすぐ近くに有名な美術館と St Georges Hall という大聖堂がありました。大聖堂のステンドグラスや装飾がとても立派で、こんなに綺麗な西洋建築は初めて見たので感動しました。2、3週目は大学のスクールトリップに申し込んで、ノースウェルズとウィットビ

ーへ行きました。イギリスは休日に電車が運休していることもあるので、大学が出してくれる観光バスを利用して観光していました。世界遺産の城やリゾート地へ大学バスで案内してくれました。城も日本の城とは全く形が違い、街並みもカラフルなところが多くてユニークだと感じました。

生活について

留学中はマンチェスター大学の寮に宿泊していました。個室があり、キッチン、シャワールーム、トイレが共用でした。寮から大学までは徒歩 15 分くらいで、行き道にスーパーやドラッグストアが何軒も並んでいたの、日用品を買い出しするのに便利でした。店でのレジは基本セルフレジでカードが使えるので、海外で使えるカードを持って行くと便利でした。スーパーでは店で焼いたパンが売られていて、レンジで温めるだけのスープやお惣菜が揃っていたので、自炊の負担が少なかったです。マンチェスター大学周辺は生活にとっても便利な場所だと思いました。

最後に

大学生のうちに一度は留学してネイティブの人と英語で話してみたいと思い今回の研修に参加しました。私の英語力不足でうまくコミュニケーションできないこともありましたが、現地の人やジェスチャーで伝えてくれたり、困ったときに助けてくれたりと、周りの人のおかげで慣れない土地でも過ごすことができました。周りの人を見習って英語で伝えようとしたことは良い経験になったと思います。最後にお茶の水女子大学奨学金で留学支援してくださりありがとうございました。



研修参加者からのアドバイス（マンチェスター大学）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと

- 研修の時期、日本は真夏でとても暑いのであまり想像つかないと思いますが、イギリスは雨が多くて寒いので必ず長袖となにか羽織れるもの（体温調節ができるもの）を持っていくべきです。
- 用意に関することが一番多いと思う。パスポートなどの書類、購入すべきものは早めに用意しておく。私は犯罪には巻き込まれなかったが、別の日本の大学からの留学生がスマートフォンを盗まれてしまった。貴重品は肩掛けバック、腰にまけるタイプのパスポート入れを利用した。基本的になんでも買えるが日本では当たり前なのがイギリスではなかなか手に入らないこともあるので注意。箸は持って行ってよかったと思った。またイギリスの薬を飲むのも不安だったので日本からアレルギーの薬、風邪薬などを持っていった。日本では珍しい草なども生えていてかぶれることもあるので塗り薬も持っていったほうがいいと思う。マンチェスターには中華街や中華食材店もあり日本食は少しは手に入ったが、本当に好きなものは恋しくなるのでいくつか持っていったほうがいい。大きいキャリーケースを買って行ってなんでも持って行こうとすると飛行機の預け荷物の重量制限に引っかかってしまいがち。また、行きにギリギリの重量で行くと帰りはお土産などが大量に増えるので捨てるでもいいタオル、服を持っていくといい。

2. 研修先の授業

- 初日のテストでクラス分けされますが、友人と同じだとなつて日本語が多くなりがちです。英語上達をめざすならば意識して英語を使うようにしましょう。先生方は皆ユーモアあふれるおもしろくて良い先生ばかりです。授業だけでなく、休み時間や昼休みにもコミュニケーションを取ってみると良いと思います。
- 授業は初日にテストがあり、テストの成績でクラス分けが決まった。クラスは 10 人程度の規模で行われた。教科書はクラスが決まってから配られた。電子辞書を持っていくと便利。プレゼンテーションを作ったり、宿題として見ることを課された動画を見るためにノートパソコンを使ったのでノートパソコンを持っていったほうが良い。またプレゼンテーションを提出する時に USB を使ったりもするので持っていくといいと思う。授業は英語を学ぶ授業とイギリスの文化を学ぶ授業の大きく二つの種類があった。先生方は皆さん丁寧に英作文を採点してくれたり、会話をしてくれたりしてとても優しく授業は全てとても楽しかった。私のクラスは街へ出て街の人の社会問題についてインタビューする授業があり、とても緊張した。

3. 寮

- ランドリーが近くにあるのに故障していて使えなかったり、ランドリーカードを使わなくてはならないのですが、登録やチャージがうまくいかず洗濯が思うようにできなかったりしました。また、1回の洗濯で約420円、乾燥で約250円するので何回も洗濯するとかなりのお金がかかってしまいます。部屋干しをするにもなかなか乾かないので私は下着類などの比較的早く乾く物は部屋の洗面台で洗って部屋干し、衣類は友人とまとめて洗って費用を半分にしていました。
- Wi-Fiは通じていて便利です。
- 共用の皿やフォークはありますが、使い捨ての紙皿や自分のカトラリーセットを日本から持っていくと便利です。
- キッチンに食べるスペースがなく部屋で食べることになり、部屋でにおいがこもりがちだったので消臭剤やファブリーズがあるとよいです。（イギリスで売っているものはおいがきついことがあるため）スリッパとハンガーと物干しロープとコップは持って行ってとても役に立ちました。

4. 食事について

- 共用キッチンがあって、自分で料理することができます。電気ケトルや電子レンジ、トースターもあり便利です。
- 寮近くのスーパーや大学近くのスーパーで買い物をしていました。スープやパンが安いところはあそこで、果物が安いところはここ、などともものによってスーパーを使い分けていました。
- イギリスは食事があまりおいしくないと言いますが、どの食べ物もおいしく、とりわけまずいと感じたものはなかったです。
- 日本食や中華、韓国料理、イスラム系のレストランなど様々な国のお店があり、イギリスのカロリー高めのお食事に飽きることなく、色々試してみるのが楽しかったです。
- 寮では食事の提供はありませんでした。朝ごはんは夜ご飯は寮の共同キッチンで作っていた。昼ご飯はサンドイッチを作って持っていったり、大学内のCafeで食べたり、大学の近くのマック、サブウェイで購入して食べた。
- 寮はWi-Fiが通っていた。少し弱いと感じたが生活するのに問題はなかったし、動画サイトなども見ることができました。部屋によっては同じ建物でも弱いところがあるようでした。キッチンは共有で、シャワー、トイレは男女別で共有だった。トイレにはトイレトーパーをハウスキーパーさんが定期的に補充してくれていたが、たまに忘れてしまうので注意。もしハウスキーパーさんが忘れていたと思ったら寮のレセプションでトイレトーパーがないことを言うとハウスキーパーさんに電話してくれて次の日に補充される。シャワーは立って浴びるタイプのもので髪の毛がよく詰まるので各自で取り除いていた。ハウスキーパーさんは取ってくれないので。洗濯機の本数が寮に住んでいる人の数に対してとても少なく、よくエラーになってしまっていた。中には手洗いをする人、近くのコインラ

ンドリーへ行く人もいた。洗濯が不便なので下着は多めに持ってきたほうがいいかもしれない。部屋の場所によるかもしれないが手洗いをしたり、タオルを干しておいてもなかなか乾かなかった。

5. 現地学生・地域住民との交流

- 現地の学生との交流はあまりないです。今回私たちが行った時期にはクラスに中国人が半分と日本人が半分でしたが、中国では大学が9月から始まる関係上、1週間だけしか共に学ぶことができません、あと3週間は日本人だけのクラスとなってしまいました。
- 週末に行われる大学主催のイベントで現地の人と話すことができました。そうした機会を大切に、行事にはなるべく多く参加した方が得られるものも多いです。
- 現地の学生との交流はほとんどなかった。International Society(マンチェスター大学での初日のガイダンスで紹介あり。)という団体のイベントに参加すると他の国のマンチェスター大学への留学生とは交流できた。また、留学中の授業のクラスには他の国からマンチェスター大学の夏季短期研修に来た中国の学生さんたちもいて、その方々と友達になることができた。

6. 経済面

- 市街地に行くためにバスを利用するのですが、その際に小銭が必要なので現金は持つておくべきです。
- クレジットカードは2枚作るべきです。私は鉄道の予約をネットですてクレジットカード支払いをしようとしたのですが、パスワードを何度か間違えてしまいカードがロックされてしまいました、幸い2枚のクレジットカードを持っていたため、買い物に支障が出ることはありませんでしたが、カード会社への連絡も日本時間で営業時間を考えなくてはならぬなかなか電話ができずに困りました。(日本とイギリスは8時間時差があり、日本の活動時間がイギリスでは夜なので…)
- クレジットカードは2枚、それぞれ異なるブランドのものを持っていったほうがいい。イギリスの場合、クレジットカード社会なのでマスターカードとVISAカードがあれば基本的にどこでも買い物ができる。しかし、カードのチップの部分が物理的に壊れてしまっていて読み込めないなどの事態も想定できるので日本で1回ちゃんと使えるかを確認しておくことを強く勧める。また、友達と割り勘で洗濯を一緒にする、食べ物と一緒に買うというときに割り勘をする場面もいくつかあったので現金を持っていく必要もある。マンチェスター大学の夏季短期研修では3連休が1回あり、その連休を利用しロンドンなど少し遠くへ出かける時にホテルの宿泊料を割り勘する時にも現金を使った。

7. その他

- 気をつけていれば被害に遭うことはありませんが、スリや盗難などの危険性があるので出かけるときは気を抜きすぎないようにすべきです。他大学の日本人学生でロンドンに行ってスマホ、財布を盗まれたという話を聞きました。
- 基本的には周りのお茶大生と助け合えばなんの問題もないと思う。行く前は準備が十分だかとても不安だったがパスポートと書類さえあればなんとかなると思った。



UNSW
SYDNEY



ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)

研修期間：2018/8/4～2018/9/2

滞在：ホームステイ

参加費：約 50 万円

研修内容：英語研修

ニューサウスウェールズ大学短期研修

文教育学部 言語文化学科

1年 西川 美緒

授業内容

初日にクラス分けのテストとオリエンテーションがありました。テストは、リスニング、ライティング、文法知識のテストでした。私はビジネス英語のクラスで学びました。15人以上のクラスに中国語圏出身の生徒が3人、スペイン語圏出身の生徒が2人、そのほかは日本人、といった感じでした。みんなネイティブではないので、意見を交換するときなどお互いに単語がわからなかったら助け舟を出して補完しあったりしたので、海外の人と話した経験のなかつ



た私にとっては英語で発言する勇気を出しやすい環境だったと思います。授業はビジネス英語用のテキストに沿って進みました。週ごとに *Providing A Service*、*Developing A Career* といったようなビジネスについてのテーマをひとつと、文法事項をいくつか学びました。リーディング、リスニング、ディスカッションをしながらテキストを進めました。金曜日にはその週に学んだことの確認テストがありました。また、プレゼンテーションを3つ行いました。ニュースを1つ取り上げて紹介するものと、与えられたテーマから1つ選んで、それについて調べて発表するものと、最終週に行った *excursion* の行き先の提案をするもので、いずれもグループで行いました。はじめは、先生のネイティブ英語を聞き取るのがすごく大変でしたが、だんだん慣れ、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の思ったことを英語で話すことへの抵抗が少し薄れてきたなという実感を持つことができました。

生活全般

私はホームステイでした。家族構成は、ホストマザー、ホストファザー、そして2歳、9歳、12歳の息子でした。朝はセルフサービス、夜は作っておいてくれるものを自分で温める、といった感じでした。ご飯もシャワーも特に時間が決まっておらず、ルールもなかったのも、あまり気を使うこともありませんでした。また、私のホームステイ先はWi-Fiが無制限に使える家庭だったので、ネットについても特に注意はされませんでした。あまり使いすぎないようにしていました。昼ご飯は、スーパーで買ったものを食べていました。息子たちと遊んだり、忙しい中ホストマザーが私と会話する時間を作ってくれたり、家でも英語に触れる機会がたくさんありました。ホストファミリーはカトリック

で、毎日お祈りをしていましたが、私が無宗教だということもきちんと理解してくれました。また、シドニーは治安がよく、町の人やお店の人もとても親切なので、とても過ごしやすいところでした。

休日や放課後

オペラハウスやビーチ、ブルーマウンテン、博物館、動物園などに行きました。週末にはマーケットがたくさんあるので、いろんなマーケットで買い物をしました。ハンドメイドの雑貨のお店が多く、作った方が直接売ってくれるので、いろんな人と会話ができます。電車やバスは opal カードというプリペイドカードで乗れるので、戸惑いも少なかったです。



最後に

海外に行くのは今回が初めてで、外国人と話したこともほとんどなかったので、行く前は不安でした。でも、行ってしまえばみんなとても親切で、私のつたない英語も急かさずに聞いて助けてくれたので、毎日が楽しかったです。やはり英語で話さなければ意思疎通ができない環境に身を置いたからこそ学べたことがたくさんあったので、とてもいい経験になりました。今回の留学では、お茶の水女子大から奨学金を頂きました。ありがとうございました。

ニューサウスウェールズ大学短期研修を終えて

理学部 生物学科

2年 藤井 愛

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われます。穴埋め問題や日常会話を書かせる問題とリスニングでした。私は上から2番目のクラスで学びました。このクラスはビジネスで必要になる英語を学ぶクラスでした。教科書の章ごとに学ぶ英文法とメールの書き方や目標の立て方のようなテーマが決められてあり、それを1週間で1章のペースで学びました。毎週金曜日には小テストを行いました。授業では必ずグループワークがあり3、4人のグループになってテーマについて話しあう時間が必ずありました。私は会話が上手ではないため自分の意見を言葉にして伝えることにとても苦労しましたが、会話の練習になりました。また先生に意見を求められることもよくありました。日本では英語で発言をする機会が少なかったので、とても勉強になりました。このクラスでは私がいた1か月の学期で3つのプレゼンテーションを行いました。すべてグループになって行いました。英語でのプレゼンテーションは初めてだったのでひどく緊張してしまい、思うようにはいきませんでしたがとてもいい経験になりました。

授業以外の時間の過ごし方

授業は1日2コマでお昼には終わるので、そのあとは観光など自由に過ごすことができました。放課後には学校からバスで行ける観光地や美術館に行きました。学校からはビーチが近く、学校帰りに歩いて行ったこともあり。とてもきれいなビーチがたくさんあり、歩いてビーチをめぐるコースタルウォークのための散歩コースもありました。私は3回くらいコースタルウォークをしました。休日は電車を使って遠出をしたりもしました。日曜日は2.50ドルでどこまでも行けるので遠い場所にはできるだけ日曜日に行くようにしていました。シドニーにはマーケットがいくつかあり、売っているものの価格帯や種類は様々でした。安いところは外国人向けのお土産がたくさん売っていたので、お土産調達に役立ちました。シドニーは観光地もたくさんありますが、街にはイギリス領時代の建物が残っていたりと、歩いているだけでも楽しかったです。



生活全般

オーストラリアではホームステイをしました。とても良いところで、ホストファミリーはとてもやさしく親切で、場所も学校から近くバスで 20 分ほどでした。インターネットは有料でしたが利用できました。すぐ近くにスーパーもあったので生活で困ることはなかったように思います。学校からの距離はホームステイ先によってバラバラで、人によって 1 時間かかる人もいました。私は近かったのもとても便利でした。またビーチに徒歩 10 分ほどで行けたので、よく夕飯前にビーチに歩いて行ってカフェ



で海を見ながらリラックスしていました。シドニーは人がとても親切で、治安がいいです。私はホストマザーと毎日、その日あったことなどについて会話していました。単語が分からなかったり、うまく伝えられないときでも何を伝えたいか一緒に考えてくれましたし、文法を間違えた時は丁寧に教えてくれて勉強になりました。ホストマザーが話すときも、単語が分かるか確認してくれて、わからなかったときは分かりやすい単語で説明してくれま

した。学校の授業で扱った文章で分からなかったところを質問したときも嫌な顔をせず 1 つ 1 つ丁寧に教えてくれました。最初は緊張しましたが、会話をするのが楽しくなりました。

最後に

留学をすることで、自分に少しでも自信がつけばいいなという思いでこの研修に参加しました。自信がついたかはわかりませんが、英語を使って色々な国の方とコミュニケーションが取れるという体験をして、英語を話す楽しさが分かりましたし、もっと勉強をして、自分の思っていることをきちんと伝えられるようになりたいと思いました。英語を話さなければならない環境の中で 1 人で生活するという経験をして精神的に成長できたと思います。勇気を出してこの研修に挑戦してとてもいい経験ができました。英語に対するモチベーションもとても上がりましたし、それだけでなく様々なことに勇気を出して参加していきたいです。今回留学に当たってお茶の水女子大学から奨学金をいただきました。とてもいい経験ができました。ありがとうございました。

研修参加者からのアドバイス（ニューサウスウェールズ大学）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと
 - ニットなどの暖かい洋服を持って行った方がよい。雨が降ったりすると、最高気温が 20 度を下回ることがある。

2. 研修先の授業
 - 私はビジネス英語を学んだ。テキストを使って Reading, Listening, Discussion, Grammar を主にやった。

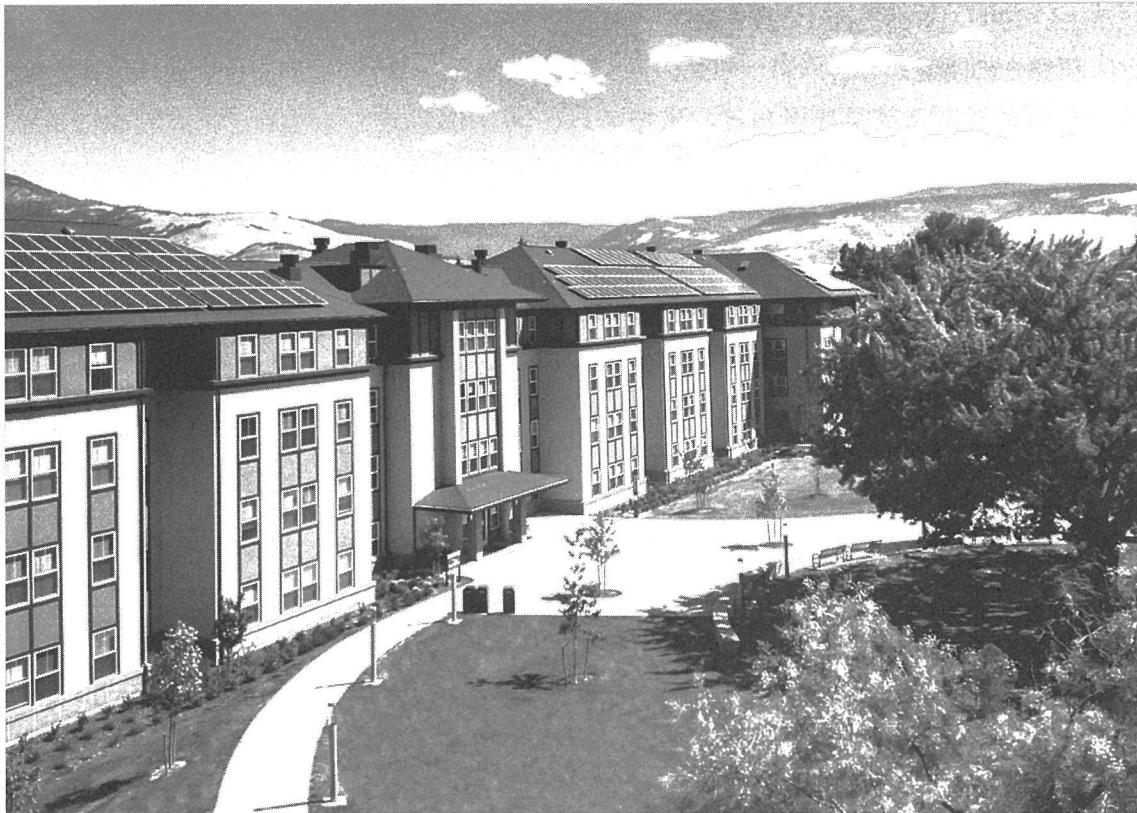
3. ホームステイ
 - 私のホームステイ先は Wi-Fi 無制限だった。シャワーも特に決まりは無かったが、水不足だったり、寒かったりするので手早く済ませるのがよい。

4. 食事について
 - 朝はセルフサービス、夜はホストマザーの手料理

5. 現地学生・地域住民との交流
 - 現地の学生との交流はあまりないが、語学のクラスでさまざまな国の学生と交流することができる。

6. 経済面
 - 私は食費、交通費、お土産代など合わせて約 6 万円ほど使った。

SO | Southern OREGON UNIVERSITY



南オレゴン大学 (アメリカ)

研修期間：2018/8/18～2018/9/9

滞在：ホームステイ

参加費：約 50 万円

研修内容：英語研修

南オレゴン大学での短期研修

文教育学部 言語文化学科

1年 吉崎 千尋

ホームステイについて

私が 3 週間お世話になったのは、シングルマザーの方のお家で、13 歳と 20 歳の娘さんがいました。一緒に夜ご飯を食べたり、ゲームしたり、買い物に連れて行ってくれたりしました。部屋とベッドは他の大学から来た日本人留学生の人とシェアしました。初対面の人といろいろシェアするのは、最初は大変でしたがすぐに慣れ、お互いに助け合って仲良くなりました。



Wi-Fi はパスワードを教えてもらって使えました。オレゴン州全体で水不足のために節水した生活をしていて、家では、シャワーは 1 人 10 分、洗濯は週に 1 回でした。節水の仕方は各家庭によって違うみたいなので、すべての家でシャワーが 10 分ではないそうです。

授業について

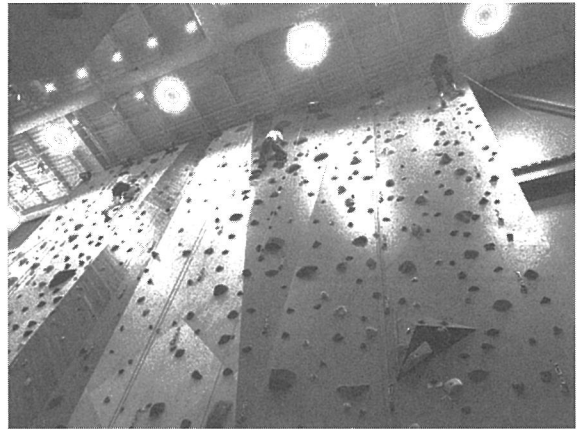
授業は、毎日 9 時から 12 時まででした。初日にマーク式のクラス分けテストがあり、3 クラスに分けられました。1 クラス 10 人程でした。授業では、先生からひとりひとりに質問されたり、ペアワークをしたりと、英語を話す機会がとても多かったです。また、自分のことや日本の文化についてパワーポイントを作成し、クラスで発表したりもしました。配布されたノートに自分の意見やレポートを書いて提出することもありました。先生からのコメントが筆記体だったので解読するのに苦労しました。他にも、日本人には発音しにくい単語や分かりにくい単語の発音練習をする日もありました。最後の授業の日は、クラスメイトそれぞれに寄せ書きのカードを作って渡したり、先生やお世話になった人宛てにサンキューカードを作ったりしました。少人数のクラスなので自分から意見を言う機会が多かったことがよかったです。



文化体験について

基本的に平日の午後の様々な文化体験の活動がありました。お菓子工場の見学へ行ったり、市場へ行ったり、シェイクスピアの演劇を観たりもしました。週末に 2 泊でキャンプに行ったのですが、

とても寒くて困りました。ホストファミリーが貸してくれたダウンや厚手の靴下がありがたかったです。森の中、テントを張って寝袋で寝るのは寒かったけど、近くで野生のリスを見ることができたり、綺麗な湖を見ることができたりして貴重な経験になりました。ダウンタウンで歩いている人に声をかけて一緒に写真を撮ってもらったり、特定のものを街中で探したりするゲームがあったのですが、現地の人と話したり日本と違うところを見つけることができたりして楽しかったです。大学内のジムでロッククライミングをしたり、バレエをしたりもしました。



感想

初めての海外生活で、現地の気候や生活様式に慣れるまで少し大変でしたが、とても楽しかったです。お店の店員さんや街の人みんながとても親切だったのが印象的でした。日本と共通している部分もありましたが、洗濯や買い物の仕方など違う部分もたくさんあって毎日が新鮮でした。はじめは、英語で話しかけられるたびに上手く答えることができなくて焦ったりしましたが、3週間過ぎて英語が身近になったような気がします。多くの初めての経験を通じて、語学力だけでなく広い視野を得ることができました。今後もこの経験を忘れず生かしていきたいと思います。最後に、今回こうした経験ができたのは本学奨学金の援助があったからです。ありがとうございました。

南オレゴン大学短期研修を終えて

理学部 生物学科

1年 柴 真緒

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われます。他の大学の方は留学前からテストの存在を知らなかったのになぜかお茶大だけ知らされていなくて驚きました。選択問題でリスニングとリーディングのテストで3クラスに分けられました。初回の授業では自己紹介の表現の仕方や挨拶から始まり、徐々に英語の慣用句や詳しい文法について教わりました。授業時間は平日の基本的に午前中、3時間行われました。ディスカッションが多く、最後の授業では全員がスピーチをする場面もありました。全てのクラスが生徒は日本人で休み時間になると日本語でおしゃべりしてしまう場面もあり少し残念でした。もちろん先生と南オレゴン大学の学生スタッフは英語で会話しました。積極的にスタッフや先生に話しかけることが重要だと思いました。



課外活動

平日の午後や、2週目の土日にアメリカやアシュランドの貴重な文化体験をたくさん出来ました。特に、山にキャンプに行き、湖のほとりにテントを張り、2泊したことは今までにない経験でした。山の中では、朝がとても寒かったのですが、南オレゴン大学側がホストファミリーにキャンプに必要なダウンやライトなども貸してもらえるように手配しており、万全な準備ができていました。自然豊かな地域で野生動物保護施設、Farmer's Marketに行くことや、ジェットボートに乗る経験ができ、どの体験も新鮮でした。

休日の過ごし方

アシュランドの夏は山火事で煙がひどく、南オレゴン大学側からもマスクの配布や注意を呼びかけられていました。そのため、ホストファミリーがなるべく遠くの煙のひどくない場所に連れて行ってくれました。具体的には土日にサンフランシスコまでドライブに行き、遊園地や動物園、観光名所に連れて行ってもらいました。私のホストファミリーは特に熱心なキリスト教ということもなかったので休日、教会に行きお祈りをするという事はありませんでした。しかし、他のホストファミリーの家庭では教会などの慣れない環境が大変だったという人もいたので、事前にある程度ルールを知っておく、もしくは現地の大学からの調査書に希望を書いておくと良いと思います。

生活全般

ホストファミリーはシングルマザーで子供が 1 人いました。また、日本からの他の大学からの女の子も同じホームステイ先でした。シングルマザーは現地では珍しいことではなく普通に過ごしていて何も心配はありませんでした。ホストファミリーがとても親切で優しく過ごしやすかったです。なるべく英語に自信がなくてもジェスチャーなどを使ってコミュニケーションを取るようになりました。夕飯はホストファミリー全員で過ごしました。積極的に手伝うことを尋ねて、家族の一員だという自覚をもって生活しました。

最後に

大学生のうちにホームステイという形式で留学したいという思いが強くありこの研修に参加しました。本学奨学金のご支援のお陰で金銭的面でも楽に参加することができました。ご支援くださった皆さん、ありがとうございます。ホームステイという経験は現地の家族の一員となる貴重な経験で英語をもっと学んでもっと会話したいと思えました。この 3 週間は本当にあっという間で毎日が充実していました。そして今回の研修は私にとって大きな一歩となりました。この研修をきっかけにさらに自分の知らない世界を知れるように挑戦や勉強を続けていこうと思います。



南オレゴン大学短期研修の思い出

文教育学部 人間社会科学科

1年 内藤 百合子

プログラムについて

参加者は、日本全国5つの大学出身の大学生約30人から構成され、出身、学年、専攻も異なる様々な仲間ができました。

平日の午前中は、10人前後の少人数クラスで英語の授業を受けます。マーケット、レストランなどでの買い物に関する会話、チップの払い方、Labor Day(勤労の日)についてなど、様々なアメリカ文化を、クラス内でのロールプレイを通して学びました。ミニプレゼンテーションも頻繁に行われ、スピーキングの練習をたくさんしました。また私のクラスの先生は、毎日英語で日記を書くことを課題としていたため、ライティングの力も鍛えられました。毎日続けるのは大変でしたが、日記は「自分へのお土産」という先生の言葉が今になってよく分かります。

昼食は大学内の食堂で食べました。その費用も事前に支払った学費の中に入っていたようで、どこかに出かけない限り食事代を自分で出すことはありませんでした。ビュッフェ形式で温かく美味しいアメリカンフードをいただきました。

午後はアメリカ文化体験のアクティビティです。毎日様々なところに連れて行ってもらいました。「街にいる犬を連れて人と写真を撮ってもらう」など、様々なミッションをクリアして得点を競うスカベンジャー・ハント、学内のトレーニングルームでロッククライミング体験、ファーマーズマーケットでの買い物など、たくさんのアメリカ文化を肌で感じることができました。週末には、滞在していたアッシュランドから車で移動し、キャンプにも行きました。テントでの2泊3日の宿泊は、朝晩が非常に寒かったですが、美しい景色を楽しむことができました(写真1は、そのときに訪れたクレーターレイクのものです)。シェイクスピアフェスティバルでの観劇、ダウンタウンでのショッピングなどもあり、アッシュランドを全て楽しめる盛り沢山のプログラムでした。

南オレゴン大学の学生アシスタントさん3人が、3週間毎日一緒に行動してくれました。その中には南オレゴン大学に長期留学をしている日本人の方と、日本への留学経験がある方がいたため、重要な連絡は日本語でも確認することができ、連絡関係で困ることはありませんでした。その3人もたくさんの思い出ができました。

アッシュランドについて

アッシュランドはオレゴン州の南に位置する小さな都市で、自然豊かな土地です。シカヤリスが街中に当たり前にいて、道の脇にあるブラックベリーを摘んで食べることもできました。夏なので非常に乾燥しており、山火事が発生してしまいスモークが出ている日が多くありました。学校からマスクが配布されました。ここ4ヶ月雨が降っていないとのことでした。乾燥の対策として、ハンドクリームやマスクなどを持って行くことをお勧めします。また、必要なものは現地で何でも購入できましたが、

車社会なので自分で買い物に行きにくいです。私はホストファミリーに連れて行ってもらいました。ティッシュペーパーを売っているのを見かけなかったのが、多めに持って行くと良いと思います。街は治安が良く、人々もとても友好的でした。何かを聞いたときに親切に教えてくれるのはもちろん、すれ違ったときに目が合えば軽く挨拶をしてくれるなど、親しみやすく、素敵な人ばかりでした。

ホームステイについて

私の滞在したホストファミリーは留学生を受け入れるのが初めてとのことでしたが、とても優しく素敵な方々で、本当に幸せな3週間を過ごすことができました。他大学のルームメイトと2人での滞在で、2人部屋でした。2人で行くときには日本語で話してしまいました。そこは反省点もありますが、3週間の共同生活のうちお互いのことをたくさん知り、とても仲良くなることができましたので、ルームメイトがいることもとても良かったと思います。



アッシュランドの食事では美味しい果物がたくさん出るのでとても驚きました。ホストファミリーは私たちに、食べたいものがあるかいつでも聞いてくれましたし、冷蔵庫の中のものには自由に食べて良いと言ってくれました。中華料理のテイクアウトをしたときには箸の使い方を教えてあげたり、最終日には味噌汁を作ってあげたりと、食を通して文化交流ができました。

洗濯は外に干す習慣がないため、常に乾燥機を使います。2日に1回くらいの頻度で夜に行きました。それも自由にして良いと言ってくれました。家のWi-Fiに繋がせてくれたため、通信にも困りませんでした。



アッシュランドの夕暮れ

小さい子どもが3人いたため、子ども達と遊びながらたくさん会話をすることができ、とても勉強になりました。夕飯後には散歩に出かけたり、おしゃべりをしたりし、連休には家族で海の家に行ったりと、本当の家族の一員のように扱ってくれました。

終わりに

素晴らしい出会いに恵まれ、思い出に残る3週間になりました。この経験ができたのも、お茶の水女子大学留学奨学金を受給させていただくことができ、無事にプログラムに参加することができたからです。心から感謝申し上げます。

今後はこの経験を活かし、英語力のさらなる向上を目指して努力を重ねたいと思います。また、来年度以降他のプログラムやスタディーツアーなどへの参加を通して、実際に海外で学びたいと思います。ホストファミリーとは帰国後も連絡を取り合う仲になれたので、これからもさらに親交を深めていきたいです。本当にありがとうございました。

南オレゴン大学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1年 柳内 万帆子

授業内容

授業は基本的に9時～12時に行われました。初日に受けたテストによって3クラスに分けられました。プログラムの参加者は日本人だけで全体では30人ほどいて、私のクラスはお茶大3人、岡山大学6人、信州大学1人という構成でした。授業内容はwritingとspeakingが主でそれほど難しくなかったですが、1人でのプレゼンテーションやスピーチは準備が多少大変でした。先生はいつも明るく授業をしてくださったので、楽しく学習に取り組みました。



課外活動

昼食後は毎日違った課外活動が組まれていました。大学周辺のダウンタウン散策、シェイクスピア劇の鑑賞、ジェットボートなど多岐にわたり、2泊3日の湖畔でのキャンプや最後の3日間のポートランド旅行もあり、観光の機会には恵まれていました。しかし前述したように日本人しかいなかったためこれらの活動中には英語を使う機会がほとんどなかったことは残念でした。

生活について

ホストファミリー

私のホストファミリーには4歳から16歳までの6人の子どもがいてとてもにぎやかでした。現地空港について初めて岡山大学から来た子と一緒に2人で同じ家にホームステイすることを知りました。予期せず家でも日本語が話せる環境になってしまったわけですが、大学では午前中の授業でしか英語を使わなかったため、ホストファミリーと積極的に英語でコミュニケーションを取ろうと心がけました。大学までは毎朝車で送っていただいていたので、大学周辺は住宅が多く落ち着いた雰囲気、治安も良かったように思います。

食事

朝食は主にシリアルとヨーグルトで、休日はホストマザーが作ってくれたワッフルやパンケーキを食べました。昼食は学校の食堂で食べましたが、その値段もプログラム代に含まれていたようで新

たにお金を払うことはありませんでした。種類が多かったので飽きることもなく選ぶのが楽しかったです。帰宅後は家族の作ってくれた夕食を食べました。アメリカの家の食事というとファストフードばかりを想像していたのですが、私のホストファミリー先は野菜を中心としたもので、日本人の私たちに気を配ってお米やお魚も出してくださいました。量もちょうどよくて美味しかったです。

家での過ごし方

ご飯以外の時間は子どもたちとボードゲームやバドミントンをして遊んだりホストマザー・ホストファミリーとお話をしたりして過ごしました。日本の文化について質問されることが何度かありましたが、なかなか英語で説明するのは難しかったのでそういった勉強を少しでもしていくべきだったと感じました。

休日は家族と過ごし、湖に行ってボートに乗ったりショッピングに連れて行ってもらったりして楽しい時間を過ごしました。日曜日には一緒に教会に行き、毎日夜にはお祈りがありました。親戚同士の結びつきが強く、他の家族の方と接する機会も何度かありました。ホストファミリーと過ごす中で日本とアメリカの文化や生活の違いが身にしみてわかったことは、今回の研修の中で一番大きな収穫でした。

最後に

お茶大から南オレゴン大学に行くのは私たちが初めてだったからか、他の大学からの参加者に比べて情報がとても少なかったです。さらに自分の確認不足もあり直前にトラブルが起きてしまい、不安と緊張の中出発しました。しかしアメリカに着いてからは、ホストファミリーや現地大学の方の支えのおかげでとても充実した日々を送ることができました。3週間は英語を習得するには短すぎましたが、実際に行ってみないとわからない文化の違いはたくさんあり、今までにない刺激を強く受けた貴重な時間となりました。この研修で得たことをこれからの大学での学びに生かしていきたいです。



南オレゴン大学 サマープログラムを終えて

理学部 物理学科

1年 齊藤 流菜

授業内容

初日にクラス分けテストが行われ、3つのクラスに分かれました。それぞれのクラスにひとりずつ先生がつき、毎回同じ先生に担当していただきました。授業内容も主なものを除いてはクラスごとに異なりました。私のクラスは2番目で、日本の授業形態とは大きく違い、先生と生徒との会話、コミュニケーションが基本でした。英語の知識があっても、それと



話せることは全くといってよいほど異なり、授業でのコミュニケーションもはじめの頃はとても大変でした。授業でのプレゼンテーションや、日頃よく使う単語の勉強により、どんどんと自分の英語力がついていることが実感でき、とてもうれしかったです。

課外活動

平日の午前に授業があり、午後は課外活動を行っていました。課外活動の内容はとても幅広く、ファーマーズマーケットに行ったり、歴史的価値のあるお墓を見に行ったりもしました。私がとくに楽しかったのはキャンプでした。これは休日に3日間行われました。湖のまわりのキャンプ場に簡易テントを張りましたが、夜はとても寒かったです。しかし、アメリカの文化やクラスメイトとの絆が深まり、とてもよい経験となりました。



休日の過ごし方

休日はホストファミリーにたくさんの場所に連れて行ってもらいました。オレゴンはとても自然豊かで、到着したその日から山に連れて行ってくれました。もちろん自然も印象的でしたが、とくに私が忘れられないのはアメリカのスーパーです。スーパー自体がとても大きいうえ、商品、道幅、カート、レジ…すべてがアメリカンサイズでした。当たり前ですが商品のラインナップも全く違いますし、日

本食は専門店に行かないと買えませんでした。将来はアメリカに住みたいと考えていましたが、文化の違いを乗り越えるのは思ったより難しそうです。

終わりに

今回の留学は、私にとって初めてのことでただけでした。今まで海外に行ったことがなかったため、日本語以外の言語しか話さない場所で暮らすことにはじめは戸惑いばかりでした。しかしとても優しいホストファミリーや、友達に助けられ、コミュニケーションが簡単にとれない場所でもなんとか暮らすことができました。この留学を通して、自分がやはり英語が大好きなことを再び実感できました。日本にいるだけではわからない、実際に肌で感じてやっとわかる、文化や生活の違いをもっと感じたいと思ったので、今回訪れた場所以外のところにも積極的に行ってみたいと思います。



研修参加者からのアドバイス（南オレゴン大学）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと

- 日本と気温差があるので、夏でもパーカーなどを持って行ったほうがいいと思う。行きと帰りの空港が違うことがあるので事前によく確かめておく。
- 不安・不明な点をしっかり確認してから出発するべきです。現地での集合場所・時間の情報すらなく、かつそれを確認しようとしなかったがために出発2日前に急遽乗り継ぎ便を予約する事態になってしまいました。また他の大学から来た学生は授業の時間割を詳しくもらっていたのですが、お茶大生は何の資料も与えられていませんでした。情報を与えてくれるのを待っているだけでは間に合わないことを痛感し、自分から主体的に知りたいことを求めていく必要性を感じました。

2. 研修先の授業

- 1 クラス 10 人くらいで全て英語で行われる。自分から発言する機会がたくさんある。前置詞などの文法的な授業や、発音練習、スラッグなどの授業があった。日本のことや自分のことについて2回くらいプレゼンテーションをした。(自分のパソコンがあると便利)
- 基本的に午前3時間が英語の授業、午後がアクティビティでした。授業は初日に受けたテストで10人ほどのクラスに分けられました。アクティビティは大学近くの様々な観光地などを参加者全員で回りました。

3. ホームステイ

- ホームステイ先のWi-Fiを使わせてもらえた。
- オレゴン州全体で水不足のため、節水生活だった。家庭にもよるが、私の家ではシャワーは1人10分、洗濯は週に1回だった。トイレや洗面所は自由に使えた。
- ホームステイでしたが、別大学から来た日本人学生とルームシェアをしました。自宅のWi-Fiのパスワードを教えてもらって使わせていただいていた。私のホームステイ先では洗濯機・シャワーは自由に使ってよかったですが、家庭によってこの点は差があったようです。週2回ほど洗濯し、シャワーは毎日寝る前に使っていました。

4. 食事について

- 朝ご飯は自分たちでトーストなどを作って食べた。お昼は大学の学食で、バイキング形式だった。夜ご飯はホストファミリーが作ってくれたり、外食に連れていってくれたりした。
- 朝夕はホームステイ先で、昼は大学の食堂で食べました。食堂はビュッフェスタイルで、代金はプログラム代に含まれていました。

5. 現地学生・地域住民との交流

- 現地の学生は夏休み期間なのでほとんどいなかったが、留学生をサポートしてくれる学生が3人いた。スーパーやコンビニでは、店員さんがとてもフレンドリーで、挨拶から少し会話に発展する。
- プログラムに南オレゴン大学の学生2人がサポート役としてついてくださいましたが、それ以外の学生との交流はありませんでした。地域の方々とは、ホストファミリーと教会に行ったときに交流が少しありました。

6. 経済面

- 自分で持って行ったお金は、現地での消耗品やお土産くらいしか使わなかった。クレジットカードが主流だが、カードが使えない場面もあるので現金も必要。
- 食費は基本的にプログラム代に含まれているので、現地で使うお金はどれくらいショッピングをするか次第だと思います。ほとんど支払いはクレジットカードやデビットカードで行いましたが、バスに乗るときや友人と割り勘をしたときに現金が必要でした。

7. その他

- ノートパソコンがあると便利。
- 大学までの移動手段は、ホームステイ先の場所によって徒歩か車での送迎かに分かれていました。
- とても乾燥していたので保湿クリームを持っていくと良いかもしれません。
- 朝晩は冷え込むので羽織るものが必要です。
- 日差しがとても強いので帽子、日焼け止めは必須だと思います。



啓明大学校 (韓国)

研修期間：2018/8/6～2018/8/24

滞在：学生寮

参加費：航空券のみ

研修内容：韓国語研修・韓国文化研修

啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 食物栄養学科

3年 沖村 藍子

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われました。事前にテストがある事は知っていましたが、思っていたよりも簡易的なテストで、韓国語を習ったことがあるか、ないかを確認する程度でした。筆記のテストを行った後、先生方が回ってきて簡単に会話を行いスピーキングの能力を確認していました。クラスは、初級から1~5のクラスに分けられ、私は5のクラスに入りました。最初は12人ほどの人数で行っていましたが、途中でレベルの差があったため、4人だけ6のクラスとして別に授業を受けることになりました。韓国語の授業は休みをはさみながら、午前中に3時間行いました。教科書を使って学習し、私のクラスは会話というより難しい文章を読みながら、文法や単語を学んでいくという感じでしたが、先生が文化的背景なども交えながら教えてくださったので、とても勉強になりました。また、先生がずっと韓国語で話してくださるので、会話表現なども学ぶことができてよかったです。

課外活動

午後は主に課外活動があり、様々なところを訪れたり、伝統音楽や、伝統衣装の体験をしたりしました。また啓明大学には日本語学科があり、その学生さんたちと交流する時間などもありました。他にも、クラスに1人バディとして韓国人の学生がついてくれていて、課外活動にも毎回ついてきてくれるので、韓国語で話すこともでき楽しかったです。また、2日間は1日ずっと課外授業の日があり、慶州(キョンジュ)というところと、釜山(プサン)というところに行きました。キョンジュではウォーターパークにみんなで行き、遊んだり、プサンでは海雲台(ヘウンデ)というプサンの有名なビーチにいったり遊んだりしてとても楽しかったです。暑い中、たくさん歩いて見学しなければならない日もあり大変だった時もありましたが、みんなで一緒に回るのも、いろいろな思い出ができて楽しかったです。



休日の過ごし方

1日丸々休みだったのは日曜日の2日間でした。1日目は、友達と釜山に遊びに行きました。私たちが行っていた啓明大学は大邱というところにあるのですが、釜山まではKTXという日本でいう新幹線のようなものに乗って、1時間もかからないで行くことができます。価格も安いのでぜひ行っ

てみてほしいです。大邱も楽しかったですがプサンは観光地が多いので1日休みの時はおすすめ
です。もう1日は大邱にある遊園地に行きました。そんなに大きい遊園地ではなかったですが、人
もあまり多くなくゆっくり楽しめました。

生活全般

この研修では、みんな大学の寄宿舎に宿泊していました。ご飯は朝ごはんだけついていて、昼ご
飯はバディの人と食べに行ったり、クラスみんなで食べに行ったりしていました。大学の周りには
おいしいごはん屋さんもたくさんあり、安いお店も多かったなので、食事には全く困りませんでした。
その他にも韓国は出前の文化が発達していて、大学の寄宿舎にも来てくれるので、出前を頼んで
みんなで一緒に外で食べたりもしました。寄宿舎は、男女同じ建物で、同じ階だったりしますが、特
に困ったことはなかったです。ただ寄宿舎のWi-Fiがあまりスムーズに使えなかったのが、借りてい
くといいかもしれません。平日は、課外授業も合わせると5時くらいまでであったので、その後仲良
くなった人たちでご飯を食べに行って、就寝時間ギリギリまで話をしたりして楽しんでいました。今
回の研修ではお茶の水女子大学の人も多く参加していましたが、他の大学の人も仲良くな
れる機会がたくさんあり、とてもよかったです。



最後に

私は以前も韓国のソウルで2週間ほど過ごしたことがありましたが、大邱はソウルとはまた違う雰
囲気で、おもしろかったです。前に行った時よりも韓国語ができるようになっていたので、韓国人の
人もたくさん話すことができよかったです。3週間は本当にあっという間でしたが、研修後も韓国
や、他県に遊びに行ったりするくらい他大学の人も仲良くなることできて本当に良かったです。
私の場合は韓国語に興味があって、少しは勉強していましたが、大学には日本語が話せる先生方
や、学生がたくさんいるので、全然勉強したことがない人でも本当に楽しめると思います。今回の経
験を大切にしてください。これからも勉強を続けられたらいいなと思います。

啓明大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1年 河野 愛美

研修スケジュール

2018年8月6日～8月24日までの19日間、韓国の啓明大学校サマープログラムに参加しました。韓国語の語学授業、文化体験授業ともに充実しており、19日間で韓国ならではの経験が多数できました。

滞在中の生活

大邱に滞在した19日間は啓明大学校の寮で宿泊しました。2人1部屋で、部屋にはベッド、学習机、クローゼット、シャワールーム、トイレが備え付けられていました。各フロアのラウンジにはウ



ーターサーバー、電子レンジ、アイロン、冷蔵庫やテレビが完備されていました。キャンパス内はWi-Fiも通じており、生活面で滞在中に困ることはほとんどありませんでした。食堂では無料の朝食を用意してくださっていました。昼食と夕食は基本的に個人で食べることになっていました。先生やバディの方々がおすすめのレストランを教えてくれ、韓国料理を堪能することができました。

語学授業

私は今まで韓国語の勉強をしたことがなく、一番簡単な内容のクラスで学びました。初めの1週間はハングルの読み書きの基本を教わり、2週目からは簡単な文法や挨拶を学びました。3週目には最終日に行われるテストに向けて自分で文章を作ったり、ハングルで質疑応答できるように勉強したりしました。先生は日本語を使いこなせる先生で、2週間目までは日本語と韓国語を混ぜながら授業を行ってくれました。授業は毎日午前中の3時間で、講義だけでなくゲームやディスカッションを混ぜながら楽しく韓国語を学習することができました。



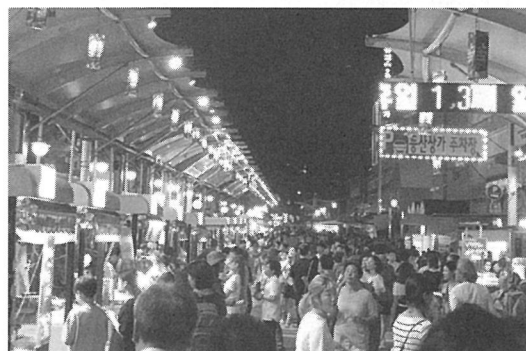
文化授業

平日の午後や土曜日には様々な韓国文化を経験する授業がありました。韓国の伝統衣装である韓服を着たり、テクォンドーを体験したりすることができました。また、学校を出てシティーツアーとして大邱の有名なお寺を訪問したり、市場で買い物を楽しんだりすることもできました。1週目と2週目の金曜日には釜山と慶州を訪れ、大邱以外の都市をバディの皆さんや先生方と観光することもできました。



休日・放課後

休日や放課後など空いた時間にはショッピングに行ったり映画を見に行ったりしました。ショッピングモールや映画館は日本とよく似ていましたが、違うところもすこしありとても新鮮で面白い経験になりました。店員さんに授業で習った韓国語が通じた時はとても嬉しかったです。



最後に

韓国語も全く分からないし韓国の文化にもあまり詳しくない状態で出国したので初めは不安がありました。先生やスタッフの方々、バディの韓国学生の皆さん、そして一緒に留学したお茶大生たちが優しく助けてくださったおかげで、充実した3週間を過ごすことができました。あっという間の3週間でしたが語学面でも文化面でも韓国についてたくさん学ぶことができ、一生の思い出になりました。今回このような素晴らしい経験ができたのは本学奨学金を頂くことができたからだと強く感じています。本当に有難うございました。今回の研修で学んだことを今後の生活に活かしていけるようこれからも努力していこうと思います。



2018 年度啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

1年 岩崎 あおい

1. 授業

啓明大学に到着してからすぐに、オリエンテーションとともにクラス分けのテストを行いました。その結果 3 組になり、会話や発音を中心とした授業を受けました。ペアワークで確認してそれぞれ発表するといった実践的な学習もあり、楽しく覚えることができました。ハングルが一応読めるという程度で参加した研修だったので不安はありましたが、先生が丁寧に教えてくださったのでとても理解しやすかったです。日本にいたときの韓国語の授業では習っていなかった単語や文法もたくさん教わったので、最終日のテストに向けてそれらを暗記するのは大変でした。しかし、習った言葉を使ってお店で注文をしたり道を尋ねたりできたときにはとても嬉しく感じました。また、そうした経験が韓国語学習のモチベーションにも繋がっていったと思います。

2. 文化体験



韓国の伝統文化をいくつか体験しました。左の写真は韓国の国技であるテコンドーをやったときのものです。とても楽しかったのですが、翌日は筋肉痛になりました。中央の写真は韓国の伝統的な太鼓を使って演奏するサムルノリという音楽を体験したときのもので、初めは難しかったけれど、全員の音が揃ったときの快感がクセになると思いました。右の写真は伝統衣装のチマ・チョゴリです。一度着てみたかったので嬉しかったです。

3. 現場学習とシティーツアー

さまざまな場所へ連れて行ってもらいましたが、中でも私の心に残っているのは、西門市場の夜市と釜山です。西門市場は、高校生の時に行った台湾の夜市に比べると全体的に綺麗だったことと、美味しいご飯が多かったことが印象的でした。初めて蛾の幼虫を食べたのもいい思い出になりました。釜山では海雲台の美しいビーチを見たり、美味しいプルコギを食べたりできてとても嬉しかったです。大きなアウトレットもあるのでショッピングも楽しめます。



4. 休日の過ごし方

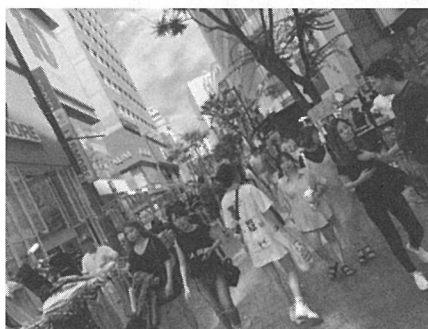
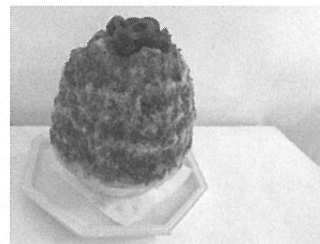
初めの週の日曜日は友達とダウンタウンへ行き、バディが教えてくれた大邱のソウルフードや流行りのパッピンスを食べました。物価が安く、たくさん食べたり買い物したりしてもお財布に優しいのが韓国の特徴だと思います。2度目の日曜日は早起きして特急に乗り、ソウルに遊びに行きました。時間が限られていたので明洞を中心に観光しました。可愛いコスメショップや日本のテレビ番組でも紹介されていた焼肉屋さんなど、行ってみたかったスポットへ行けてとても楽しかったです。観光客の多いソウルには日本語を話せる店員さんがとても多く、あまり韓国語を使う場面がなかったのが驚きでした。



5. 結びに

3週間も知らない土地で過ごしたのは初めてで、行く前は不安が大きかったけれど、楽しい時間はあっという間に過ぎ去っていきました。韓国語を勉強し始めてまだ日が浅く、満足に話せない私に対しても、バディの皆さんや先生方は本当に優しく接してくれたのでとても嬉しかったです。簡単な会話ができるようになったことは今後の韓国語の勉強の動機付けになったと感じます。

在学中に海外で過ごす時間をもつというのは、高校生の頃から目標にしていたことの1つでもあります。今回は日本人の知り合いも多くいましたが、いずれは日本人のいない状況での短期あるいは長期留学にも挑戦したいです。そういった新たな目標をもつことができたという点でも、啓明大学短期研修は私にとって非常に有益なものでした。



啓明大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1年 戸松 ゆら

【授業内容】

初日に簡単なクラス分けテストが行われます。所要時間は 15 分強で、基本はライティングのみのテストですが、韓国語が初めから理解できている生徒は任意でスピーキングのテストも受けることが出来、それも先生と2、3言交わすだけの簡単なものです。受け答えができればテストのボーナス得点となるようです。概してテストというよりもチェックに近いので身構える必要は無いかと思います。テスト用紙に簡単なアンケート欄も付いているので、それも踏まえてクラス分けが行われます。私は5つあるクラスのうち上から2番目のクラスで学びました。先生は日本語をほとんど話されないのので主に韓国語で授業を進め、時々英語を交えるという形でした。授業は教科書を用い、先生と生徒たちの対話形式で行います。毎日習った韓国語を使ったゲームをすることで楽しく学習の定着を図ることが出来ました。総じてアットホームなクラスで、日々話せる、聞き取れるようになって行くのがとても楽しかったです。私は授業で韓国語を取っていて、初めからハングルとごくごく簡単な単語は学んでいたのですが、最終的には少し至らないながらも1人で出掛けて困らないレベルまで理解できるようになりました。



【課外活動】

毎日のスケジュールが、朝9時半から12時半まで3時間の韓国語学習(教室で)と午後からの課外活動で組み立てられており、たくさんの貴重な体験が出来ました。例えば韓国の伝統音楽であるサムルノリを専門の先生に教えていただいたり、チマチョゴリを来て実際に伝統儀礼を行ったり、博物館見学や、市場に出かける、ダウンタウンへ行く、K-POP ダンスやテコンドーを習うなどという体験が出来ました。また、大学自体は大邱という都市にあるのですが、釜山の海雲台、APEC ハウスや、慶州にある慶州ワールドに行くことも出来、とても充実したプログラムでした。各地で韓国の文化や方言を含む韓国語に触れました。どのアクティビティも楽しかったです。



【生活全般】

韓国は Wi-Fi が飛んでいる所が多いので、インターネットの接続に困ったことはあまりありませんでしたが、寮の Wi-Fi や学内 Wi-Fi は場所によっては弱い所がありました。コンビニやスーパーも近くにあり、飲食店も多かったです。交通費や食費は日本に比べやや安めですが、8割方の物価は日本と同じ程度です。8月15日は独立記念日でしたが、治安

も良く、大邱では全く問題ありませんでした。ただし、休業しているお店はちらほらあるので注意が必要です。休日は、私は大邱から出ることなく市内で過ごしていましたが、ソウルや釜山までのアクセスも良いので遊びに行っていた生徒もいます。総じて日本人にとって過ごしやすい環境ではありました。

【最後に】

私はもともと韓国に非常に興味があったので、今回の研修に参加しました。同じ大学から参加した他の生徒や他の大学の生徒など周りに日本人が多い環境ではありましたが、語学力を上げるには十分でしたし、困った時に頼れる人がいるという意味でも良かったかと思います。このまま勉強を続けて、次は長期の研修なども参加できればと思っています。また、奨学金ご支援のほど、心より感謝いたします。ありがとうございました。

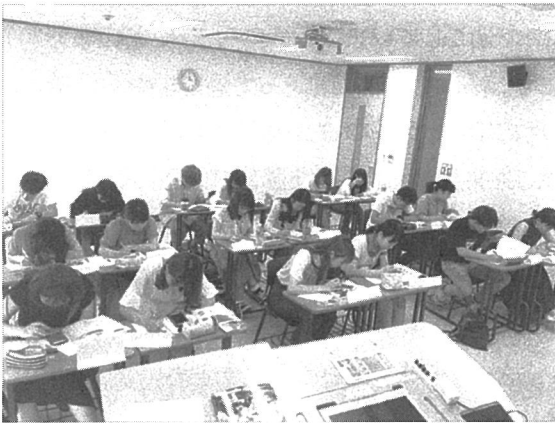
啓明大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1年 佐久間 菜緒

授業内容

授業は基本的に平日の午前中に1日3時間行われました。初日にクラス分けのテストを行って、5つのクラスに分けられました。私は真ん中のレベルのクラスで学びました。私のクラスはライティングやリーディングよりも会話の練習が多かったように感じます。先生は日本語をほとんど話さず、私たち生徒もほとんど韓国語が分からない状況だったのですが、パワーポイントなどを使ってわかりやすく基本的な単語や文法を教えてくださいましたので、特に不自由することなく、授業を受けることができました。

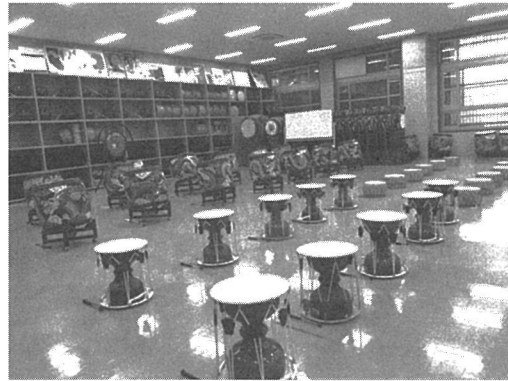


また、景品のゲームなども交えながら授業をしていただき、とても楽しかったです。1日で学ぶ単語の量がとても多かったので、それらを覚えるのは大変でしたが、せっかく韓国に来ているのだからと必死になって覚えていたので、日本にいるときよりはやくいろいろなことを吸収できたと思います。また、お店での注文のしかたなど実践的な韓国語会話を多く学んだので、それらを実際のお店などの場面で生かすこともできました。街で自分の話した韓国語が通じ

たときは授業の成果を感じることができて嬉しかったです。

課外活動

啓明大学のプログラムでは多くの課外活動が用意されていました。授業は午前中で終わったので、午後に様々な韓国伝統文化の体験をしたり、1日釜山に行ったりしました。文化体験ではチマチョゴリを着ることができました。いつか着てみたいと思っていたので、とても嬉しかったです。チマチョゴリは、先生が自分に合うものを選んでくださいました。また、サムルノリという韓国の打楽器も演奏しました。



もちろんみんな初心者でしたが、最後には全員であわせて演奏することができ、楽しかったです。啓明大学にはこのような伝統文化の体験を大学内で出来る施設があり、博物館までも大学の中にあるので驚きました。

休日の過ごし方

1日フリーの日は研修中に2回あり、どちらも日曜日でした。最初の日曜日は友達と大邱市内の観光をしました。大学の最寄り駅から4駅ほどの所にパンノルタンという場所があり、とても賑わっていてショッピングなどを楽しめます。おしゃれなカフェもたくさんあって若い人に人気のスポットだと思います。ただ、韓国は日本と違って日曜日が休みである店が多く、特に第2、第4日曜日は休みなことが多いらしいので、事前に調べておけば良かったと感じました。2回目の日曜日はソウルに行きました。大邱からはKTXという日本でいう新幹線のようなものに乗って片道2時間ほどかかりますが、せっかく韓国に来たのだからソウルにも行ってみたいということで行きました。ソウルにはたくさんの日本人観光客がいて日本語も通じる場所が多かったです。チョンゲチョンというソウルを流れる川は都会の中に急に現れるのですが、風情を感じられて好きです。



生活全般

3週間、日本語を話せる先生やバディがついていて下さったので、安心して生活することができました。韓国の人には日本人よりフレンドリーだと感じる事が多くありました。地下鉄の中でも気軽に話しかけてくれます。お店でも丁寧に対応してくれるので困ることはほとんどなかったです。1つ怖かったのは道路です。韓国ではものすごい勢いで自動車やバイクが走っているので、日本のように歩行者はある程度守られているという感覚でいくと危ないかもしれません。また、大邱の夏は晴れた日の昼間はとにかく暑いので、帽子や日傘など暑さ対策はしっかりした方がいいと思います。

最後に

こんなに活動的に過ごした3週間はこれまでにないというほど充実した3週間でした。この研修を通して身に染みだしたことは韓国人はとにかく優しいということです。私には見知らぬ人を思いやる力はほとんどないのに韓国人はそれを言葉も通じない私たち外国人に自然にできていて凄いことだなと思いました。勉強のことだけでなく、人間的に自分に足りないことがたくさんわかったので、この研修をきっかけにこれから成長していけるように頑張りたいです。研修に参加するにあたり奨学金を頂きました。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

韓国短期留学を終えて

文教育学部 人間社会科学科

4年 佐々木 美理

・語学研修について

語学研修は週に5日、1日当たり3時間ありました。学校に到着した日に韓国語の試験がありました。私のクラスは18人で、ハングルが読める人がほとんどで基本的な挨拶などを初日は学びました。その後は日常生活で使う文法や単語を学び、実際にお店に行った際に使うことが出来ました。また、10月に旅行で韓国を訪れた際にも勉強した韓国語で現地の人とコミュニケーションができてとても嬉しかったです。授業はとても分かりやすく、何度も同じ単語を繰り返し、覚えることが出来ました。チームごとに単語を当てるクイズなどがあり、飽きることなく授業に参加することが出来ました。

・文化研修について

平日の午後は大学内で文化研修をしました。太鼓の体験や韓服の着付けとお茶の作法など、韓国の伝統的な文化を体験しました。韓服はとても可愛く、お茶の作法は日本のものとは違って面白かったです。とくにお茶を飲みながら一緒に話をするのがマナーと聞き、人とのつながりを大切にする韓国らしい文化であると感じました。

現代的な文化としては K-pop のダンスを学んだり、韓国のカラオケに行ったりしました。



・校外学習について

プログラムでは週に2回程度校外学習がありました。朝から全員でバスに乗り、近郊の釜山市で寺院の見学や海辺の散策などをしました。またほかの日は、韓国の古代王国の博物館の見学やウォーターパークで時間を過ごすなどをして友人との交流を深めることが出来ました。

・現地での生活について

研修期間中は学内の寮で生活しました。寮は基本的に2人部屋でした。ルームメイトの後輩とは一緒にモールに買い物に出かけたり、部屋でおしゃべりなどをして楽しく過ごすことが出来ました。この研修には広島修道大学や、桃山学院大学の生徒も参加していました。私は同じ4年生の広島修道大学の学生と仲良くなりました。一緒に休日は釜山へ行き、地元で人気のスポットやカフェに行きました。他にも一緒に夕飯を食べるなど、多くの時間を通して友情をはぐくむことが出来ました。他にも寮の談話室でのゲームや会話を通して、他大学の学生とも親睦を深めることが出来ました。

最終日前日にクラスメイト全員で語学を教えてくれた担任の先生とバディの学生に寄せ書きとアルバムをプレゼントしました。2人ともとても喜んでくれ、別れがとても名残惜しかったです。

・最後に

学生最後の夏休みにこの研修に参加することが出来て本当に良かったです。もともと海外留学に興味を持っていましたが、様々な条件が合わず参加することを躊躇していました。今回の研修では、双方の大学の皆様の多大なるご協力があり、参加することが出来ました。また奨学金のおかげで、のびのびと今回の研修に参加することが出来、とても感謝しております。この留学を通して、語学力だけではなく、韓国の文化についての習得や、かけがえのない友人を得ることが出来ました。より韓国が好きになり、いつか韓国でもっと長い時間過ごして学び、生活をしたいという目標が出来ました。もし、留学を迷っていたり、興味を持った学生の方がいらっしゃったら思い切って参加することをお勧めします。

大きなトラブルなく、とても充実したプログラムを用意していただいた啓明大学の先生、スタッフ、バディの学生方、日本での調整に当たっていただいた井上先生をはじめとする国際協力センターの皆様にご感謝申し上げます。



啓明大学校での短期語学研修の報告

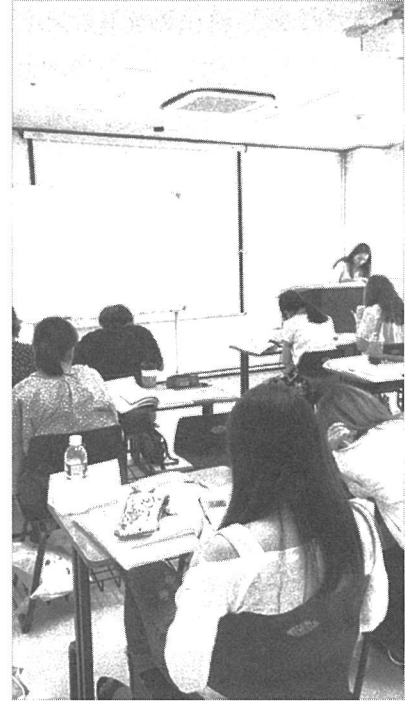
生活科学部 心理学科

1年 桜井 優

授業内容

18 日間にわたる語学研修では、まず初日に、本学のほか広島県の広島修道大学の学生と大阪の桃山学院大学の学生あわせて総勢 72 名を対象に、クラス分けテストが行われました。クラス分けテストは簡単なものでしたが、私は何も準備していなかったためほぼ白紙で提出しました。それにもかかわらず真ん中のクラスに振り分けられました。それほどクラス分けテストは大まかなもので、後で他のクラスの学生に聞いたところ、上級のクラスを除き授業内容にあまり違いはないようでした。

さて、翌日から早速、他大学との男女混合クラスでの授業が開始しました。授業は月曜日から木曜日の午前中に行われました。授業では、韓国語の簡単な文章を読むことから始め、数の数え方や簡単な文法を、スライドを使って発音しながら学習しました。担任の先生は、学生が韓国語を理解できなくても根気強く教えてくれましたし、授業中にゲームを行い、勝ったチームには賞品を用意するなど、授業に飽きさせない工夫をしてくださり、最初から最後まで楽しく受講ができました。また、授業後に一緒にご飯を食べに行くなど、授業外でも先生や他大学のクラスメートと交流し、交友関係を深めることができました。最終日までに、基本的な韓国語の表現に慣れることができました。



釜山や慶州での現場実習の日を除き、午前の座学が終わった後は、文化授業や韓国人学生との交流会がありました。文化授業では、朝鮮の伝統衣装を着てお茶の作法を学んだり、模擬結婚式(!?)をしたりしました。ほかにも、テコンドーをしたり、サムルノリという朝鮮の伝統楽器を用いた音楽をみんなで演奏したりしました。そのほかにも、チムジルバンという韓国サウナにいて大量の汗をかいいたり、

夜の屋台市に行ったり、ノレバン(カラオケ)をしたりなど、とにかく盛りだくさんのプログラムでした。短い期間ではありましたが、多くの韓国文化を体験でき、大きな満足感がありました。

生活全般

大学の寮に宿泊し、食事は食堂や、学外のレストランに行きました。まず食事ですが、ある程度予想はしていたとはいえ、とにかく辛いものが多かったです。最初のころはその辛さを楽しめたのですが、時間がたつにつれて日本食が恋しくなり、ついには辛いものを求め街をさまようというありさまでした。準備の良い人は日本からふりかけやインスタント味噌汁などを持っていったようです。大学の近くのマーケットや大邱の中心街にはおしゃれなカフェがたくさんあり、甘いものに困ることはありませんでした。寮についてですが、おおむね快適に過ごすことができました。しかし、日本で配布されたパンフレットの記載通りではない部分があり、戸惑うこともありました。例えば、寮内にパソコンルームやジムがあると紹介されていたのですが、実際には夏休み期間中のため閉まっていたり、大学の別の棟であつたりしました。また、Wi-Fi 環境が整っていなかったため、日本から Wi-Fi ルーターをもっていかなかった私は、スマホから距離を置く生活を余儀なくされました。とはいえ、スマホを使わない時間が増えたことはよかったかもしれないと、今振り返ってみて思います。生活において困ったことがあれば、啓明大学の先生や学生が親切に助けてくれました。彼らの助けに心から感謝しています。

夕方以降の自由時間や休日は、多くの学生が大邱の中心街に遊びに行って時間を過ごしていました。中には急行列車でソウルや釜山に行く学生もおり、行動範囲は広がったと思います。韓国の物価は日本と比べて安いというイメージがありますが実際はそれほどでもなく、為替相場も円安傾向ですので、お買い得とまではいかない印象です。とはいえ、日本とは似て非なる街の風景を楽しみながら、韓国のファッションやコスメを中心にショッピングを満喫することができました。



終わりに

今回の留学の目的は、将来にむけ海外での 1 週間以上の滞在を経験するというものでしたが、目標の達成はもとより、想像以上に豊かな体験をさせていただきました。私は英語には覚えがあり、海外に行っても何とかなるだろうと漠然と思っていたのですが、英語圏以外では英語が使えないことも多いのだと身に染みて実感しました。言葉が通じない、読めない、わからない、ということを実体験したことは今後に向けての大きな学びになったと感じています。また、語学学習や文化体験のほかにも新しい友人関係を築くことができ、何物にも代えがたい思い出ができました。このような素晴らしい体験をご支援くださったお茶大奨学金、国際教育センターの職員の皆様そして両親に深く感謝を申し上げ、報告を終えたいと思います。

啓明大学校研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 小倉 晴子

はじめに

私は、2018年8月6日～8月24日の約3週間、韓国の大邱にある啓明大学校での研修に参加しました。韓国語や韓国文化を学び、様々な場所を訪れ、たくさんの貴重な体験をしました。以下は研修の内容や日常生活に関するまとめです。

授業内容

初日にクラス分けのテストを受けました。クラスはレベル別で分かれ、韓国語を初めて学ぶクラスから上級のクラスまでありました。私は韓国語を少し学んでいたもので、真ん中のレベルのクラスでした。授業は基本的に平日の午前中に約3時間行われました。授業は、先生の作ったパワーポイントとプリント、教科書を使って進み、ときどきゲームなどもしながら進んでいきました。新しく覚える単語や文法もあり、日常的に使えるような表現もたくさんありました。授業は基本的に韓国語と簡単な日本語で進んでいきますが、絵や写真、ジェスチャーも使っているので、先生の言っていることがわからないというようなことはあまりなかったです。



日本にいたときは、週に1度90分の授業を受けていただけだったため、これほど長く韓国語の授業を受けたのは初めてでした。長く韓国語に触れているぶん、日本で勉強していたときよりも上達が速かったように感じます。授業で学んだ表現や単語が大学内や街中で聞こえてくると、少し聞き取れるようになったと感じて嬉しかったです。

日本にいたときは、週に1度90分の授業を受けていただけだったため、これほど長く韓国語の授業を受けたのは初めてでした。長く韓国語に触れているぶん、日本で勉強していたときよりも上達が速かったように感じます。授業で学んだ表現や単語が大学内や街中で聞こえてくると、少し聞き取れるようになったと感じて嬉しかったです。

文化体験・課外活動

平日の午後や金曜日、土曜日は、韓国文化の体験をしたりバスツアーに行ったりしました。文化体験では、韓国の伝統衣装チマチョゴリを来て礼儀作法を学ぶ体験や、韓国の太鼓サムルノリの体験、テコンドーやK-popダンスの体験などをしました。バス旅行では、釜山や慶州の博物館やウォーターパークに行ったり、大邱市内の観光地に行ったりしました。

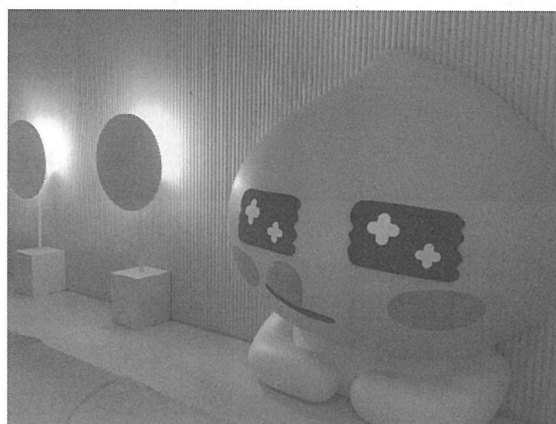


他にも、チムジルバン(韓国のサウナ)やノレバン(韓国のカラオケ)など、様々な体験をさせて頂きました。ただ机に向かう勉強だけでなく、このように実際に韓国の文化を体験したりいろいろな場所を訪れたりできてとても楽しかったです。

生活

私達は、3週間大学の寮に滞在しました。部屋は2人部屋で他のお茶大生と同じ部屋でした。フロアの共有スペースに冷蔵庫や電子レンジ、水やお湯のサーバーがありました。キッチンはありませんが、朝食は食堂で提供され、大学内や大学周辺にコンビニや安くておいしい飲食店があるので、特に困ることはありませんでした。ただ、日本食が恋しくなるかもしれないので、レンジで温めのご飯や、インスタントの味噌汁を持っていくと安心かもしれません。寮は一応 Wi-Fi が利用できますが、部屋によっては Wi-Fi の接続環境が悪いことがあります。私の部屋は Wi-Fi があまりつながらず、レンタルしたポケット Wi-Fi を使いました。このようなこともあるので、Wi-Fi は事前にレンタルしておくことをおすすめします。

日曜日は研修がお休みで、1日自由に過ごすことができます。私は KTX(韓国の新幹線のようなもの)に乗って、友達と釜山に遊びに行きました。KTX のチケットはネットで購入することができます、ソウルや釜山といった大きな都市に行くことが出来、便利です。また、値段も日本の新幹線よりもかなり安いので、遠出するときにはおすすめです。休日はゆっくり休むのもよいですが、せっかくなので少し遠出して観光してみるといい出が作れて良いと思います。



韓国の人は優しい人が多く、日本語を話せる人もけっこういます。私は研修に行く前、韓国では反日感情を持っている人が多いという話を聞いて少し怖かったのですが、私が韓国で出会った人は優しい良い人ばかりでした。もちろん中には日本人をあまりよく思っていない人もいますし、気を付けなければならない場面もあるとは思いますが、過度に恐れる必要はないと思います。現地の人との交流も楽しんでください。

終わりに

漠然と「夏休みを充実させたい」という思いで短期研修に参加しましたが、たくさんのお会いに恵まれ本当に楽しく貴重な時間を過ごすことができました。実際に現地を訪れて学ぶことで、韓国語の勉強に対するモチベーションアップにもつながったと思います。また、実家暮らしの私にとっては長期間親を離れて生活すること自体初めてで、それだけでも新鮮な体験であり、大きく成長できました。今後も、この経験を忘れずに様々なことに挑戦していきたいです。

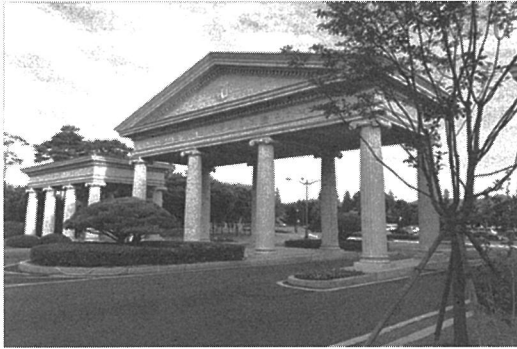
啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 人間環境科学科

1年 松中 円来

授業内容

初日のオリエンテーションの時に簡単なクラス分けのテストがありました。初めに、韓国語を学んでどれくらい経っているか、また会話はできるのかなど自分の韓国語の現在の状況を伝える箇所がありました。その後、筆記問題がありました。私は、前の部分で会話がある程度できると書いたので筆記問題の後スピーキングのテストもありました。私は、一番上のクラスでしたが、上級クラスの中でもさらに学習状況によって 2 つのクラスに分けられました。授業は、基本的に午前中



9:30~12:30 の 3 時間行われました。授業は全て韓国語でした。私たちのクラスの先生は、日本語が全く話せない先生だったので最初は少し大変に感じましたがすぐに慣れました。実際に現地でその言語を学ぶことは日本で韓国語を学習していた時とは比べることができないほど日々得られるものが大きかったです。

課外授業

金曜・土曜を使い釜山・慶州・大邱のシティーツアーがありました。具体的には、釜山ではアウトレット、有名な海雲台というビーチに行きました。慶州では、博物館、E-world というビーチもついている総合遊園地に行きました。全ての日程で、何人もの啓明大学の先生そして日本語を専攻としている生徒さんがバディーとなってついてくれていたのでとても心強く、私たちに気を使ってくれていました。また、バスで移動したので私たちもすごく楽でした。お昼ご飯や夜ご飯の際には、伝統的な韓国の料理を食べました。とてもおいしいお店を用意してくれていて大満足でした。食費もプログラム費に含まれていたのでお得だと感じました。



休日の過ごし方

基本的に日曜日が丸々1日自由行動の日でした。また、土曜日の夜は届出を出すことで外泊することもできました。最初の日曜は、友達と朝バスに乗り釜山に行きました。あまり下調べもしていない中行ったのでハプニングもたくさん起きました。その度に、近くの韓国の人に韓国語で質問したりしました。自分が勉強してきたことが現地の人に通じるのは正直とても嬉しかったです。若者通りみたいなどころに行き、おいしいものやショッピングを楽しみました。2週目は、土曜の夜

から KTX という韓国の新幹線に乗りソウルに行きました。この日は、お茶大のサマープログラムで出会った友達のお家に泊まらせてもらいました。翌日には、韓国の友達が 4 人集まってくれてソウルのいろいろな場所に案内してくれました。私は、梨大と弘大に行ったことがとても楽しかったです。両方とも、各大学の最寄り駅だったのでまさに若者の街と言う感じでした。ミュージックを



かけて踊っている若者や、プチプラな雑貨屋さん、お洋服屋さんがありたくさん買い物をしました。

生活全般

日本人の私たちにとって韓国は本当に短期研修しやすい国だと強く感じました。食べ物は少し辛く感じることもありましたが、お店の人に辛くないでほしいと伝えれば特に問題はないと思います。食費も日本と比べれば安く抑えられました。気になったことといえば、トイレについてです。韓国では、便器にトイレットペーパーを流すことが基本的には禁止でした。このことに関しては、最後まであまり慣れることができず何回もペーパーを流してしまいました。また、使用済みのペーパーが蓋のないゴミ箱に入っていたので臭いもきつかったです。しかし、これは韓国でのルールなので仕方がないと割り切って行動していました。

最後に

このように韓国で素敵な 19 日間を過ごせたのも本学の奨学金のおかげだと感じています。本当にありがとうございました。近いようで遠いイメージをもっていた韓国ですが、実際に短期研修として 19 日間滞在することで韓国の様々な面を知ることができました。この研修を活かし、今後の韓国語学習やさらに深く韓国について知ることにつなげていきたいと思います。



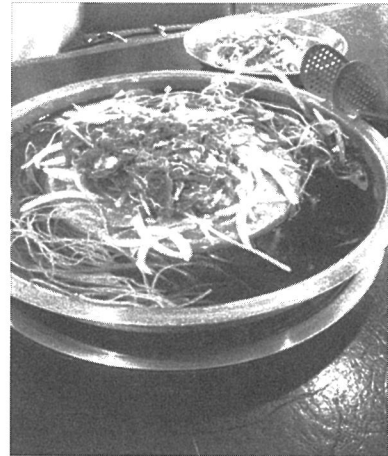
啓明大学短期研修を終えて

理学部 情報科学科

2年 折田 祐希美

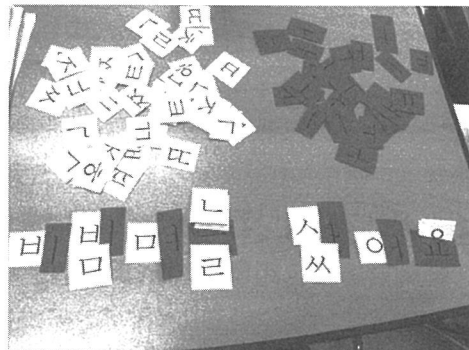
休日の過ごし方

休日は、基本的に何をしても自由でした。人によってはソウルや釜山に行っていました。私は大邱市内でも充分だと感じました。大邱市内には、コスメや雑貨、スイーツなど多くのお店がある通りがあって、そこで1日満喫できるからです。コスメは日本で買うより断然安く、とても質のいいものだと思います。自然由来のものを使っている化粧品が多いので、肌が弱い人にもおススメで、特にパックはとても気持ちよく、お土産であげた友達にも喜ばれました。そしてピンスやマカロンなどのお店がたくさんあり、スイーツ好きとしては最高の場所でした。韓国のピンスは日本のかき氷と違ってフワフワしていてとても舌触りがよかったです。日本にもピンスのお店はありますが、ぜひ本場の味を試してもらいたいと感じました。また、夜はチーズダッカルビやサムギョプサル、冷麺などのお店に行きました。どこもお酒を飲み、お腹いっぱいになるまで食べて1000円前後ととても安く、驚きました。一番文化の違いを感じたのはどこのお店でもキムチが出てくるということです。自分で取る方式のお店や、前菜として出てくるお店など色々ありましたが、基本的にキムチは欠かせないようでした。また、韓国の方々はとても優しく、通りすがりの人でもお店がどこにあるのか尋ねると、道や美味しいお店を教えてくださいました。



授業内容

授業は、テストで分けられたレベルのクラスごとに受けました。私は韓国語についてはアニョハセヨくらいしか知らなかったもので、当然一番下のクラスでした。私のクラスの目標は、「文字を読めるようになること」なのですが、これは達成できたと思います。先生の優しく楽しい指導のおかげです。授業は、日本でいう部首ごとに分かれているカードを使って行われました。カードを組み合わせて文字を作るというものです。先生



がお題として、「昨日食べたもの」や「好きな芸能人」などを出して、私たちはその単語をカードで作りました。またある時は、韓国語で単語を書いてビンゴをしました。側から見れば小学生レベルのことかもしれませんが、韓国語を一から習う身としてはとても分かりやすく、楽しかったです。そしてカードを使っているうちに、自然と書いてある文字が読めるようになっていきました。簡単な日常フレーズも節々で出てきたので、それらも少しだけ覚えられました。

寮について

寮は2人1部屋で過ごしました。部屋はもう決められており、初対面の人と2週間半過ごすことになるので、緊張しましたが杞憂に終わりました。この留学がなかったら関わることがなかった人達と友達になれましたし、色々な話ができました。部屋は、1人1つベッドと机があり、お風呂とトイレは2人で使いました。1つ難点といえば、部屋干しグッズが壊れていたのとハンガーが2つしかなかったので、洗濯物をきちんと干すことが出来なかったことです。近くのスーパーで部屋干しグッズがあったのでそれを買ったのですが、他の大学の子は紐を日本から持ってきて、部屋で広げ、そこに干していているほどと思いました。洗濯機はあまり数がないので、タイミングを見計らっていないといっばいでした。また気のせいかもしれないが服が崩れていたのではネットなどがあれば良いと思います。

最後に

まず初めに、家計的に留学は無理かもと諦めていましたが、本学奨学金のおかげで行くことができました。今回、このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。韓国は行ったことがなく、言葉も全くわからない状態で行ったので行く前は不安でいっぱいでしたが、周りの友達や先生、韓国の大学生さんにお世話になってなんとか無事に終えることが出来ました。お茶大だけではなく、他大学の学生とも交流できたのはとてもいい経験だったと思います。海外にこれほど長く滞在したのも今までになかったのですが、韓国は日本と文化においてさほど変わらなく、大邱の方々も親切な方ばかりだったので快適に過ごすことができました。今回の研修では韓国語や韓国の文化の学習のみならず、自分の価値観の見直しやより大きな視野の獲得ができたと思います。この経験を生かし、今後も精進していきたいと思います。

啓明大学校 韓国語・韓国文化研修に参加して

生活科学部 人間・環境科学科

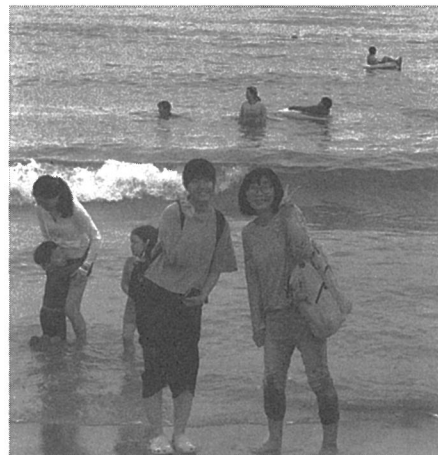
2年 前田 はるひ

はじめに

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは、20歳になる前に海外に行ってみたかったからです。私は今まで海外経験が一度もなく、行ってみたいと思いながらもなかなか勇気を出せずにいました。そんな折、海外短期研修の説明会に参加し、啓明大学校での研修を知りました。行ってみたい国のひとつに韓国があったこと、また、留学費用が安いことや、数々の韓国ドラマの撮影地にもなっている啓明大学校は、私にとって大変魅力的であったので思い切って参加を決めました。

大学の授業について

朝の9時から3時間の授業があり、午後は韓国の伝統文化を体験しました。午前は韓国語、午後は韓国文化を学ぶという構成です。授業のクラスは初日に行われるプレイメントテストの結果によって振り分けられます。私は、少しだけハングルが読める程度の実力で研修に参加してしまったので、「もっと勉強してくるべきだった」と思いましたが、韓国語初学者のクラスもあり、自分のレベルに合った授業を受けることができたのでよかったです。授業では、ハングルの覚えるところからスタートし、基本的な単語や簡単な文章を習いました。3週間で韓国語の基礎を学ぶので、授業ス



ピードは早かったです、ゲームなどを織り交ぜた授業だったので、とても楽しく勉強することができました。また、午後の文化授業では、韓服、サムルノリ、K-POP、テコンドーなど幅広いことを体験し、時には大学外でチムジルバンやノレバンを楽しみました。普通に旅行しただけでは、こんなに多くのことを体験できないと思うので、研修に参加して良かったなと思いました。

課外活動について

金曜日は終日現場学習でした。バスに乗って釜山や慶州へ行き、博物館や遊園地をまわりました。観光客で賑わう釜山の海や、新羅時代の歴史遺産が残る慶州の街はとても壮観で印象的でした。また、慶州の遊園地は絶叫アトラクションがたくさんあって面白かったので、ぜひまた行きたいなと思います。



生活面について

この研修は2人部屋の寮での生活でした。部屋にはトイレとシャワーがついており、各フロアのラウンジにはテレビがありました。きれいで快適な寮だったので、休日は一日中寮にいたこともありました。ラウンジで韓国ドラマの一場放送やバラエティ番組を観るのが楽しかったです。また食事に関しては、朝食は学生食堂にて無料で食べることができましたが、昼食、夕食は自分で調達する必要がありました。私は大学内、大学周辺で外食することが多かったです。辛い料理ばかりで慣れるまでは大変でしたが、韓国料理はとてもおいしく、本場の味を楽しめたのでよかったです。



最後に

初めての海外にもかかわらず、いきなり3週間も過ごすことに出発前は不安もありました。しかし、終わってみるとあっという間で、とても楽しく充実した期間でした。ひとりで申し込んだ研修でしたが、仲良くしてくれた他の参加者や、親切にしてくれた担任の先生のおかげでいい思い出がたくさんできました。この研修で得た貴重な経験をこれからも大切にしていきたいです。



啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

1年 滝澤 みさき

〈授業内容〉

大学の寮に到着してすぐに、クラス分けテストが行われました。それまで韓国語を学習したことが一度もなく、来る前もちょっとした日常会話くらいしか覚えられなかったため、一番下のクラスで一から学び始めました。そもそもハングルの読み方と書き方からわからず、先生が手作りプリントで丁寧に教えてくださったおかげで、韓国語授業で1ヶ月かけて学ぶことを1週間で覚えることができました。特に日本語にない発音の仕方が難しく、



先生の発音を何度も聞いたりゲームをしたりして、聞き分けられるよう努力しました。身の回りにあるものの名前、数字や数え方、動詞などを順番に覚え、なによりもハングルが読めるようになったことで、街にある記号にしか見えなかった文字が言葉として読めたことがとてもおもしろい経験でした。

〈現場学習〉

午前中の授業の後や、金、土曜日にはいろいろと貴重な経験をしました。韓国の文化を学ぶ授業では、伝統衣装を着て礼儀作法を学んだり、テコンドーや K-POP ダンスに挑戦したり、チムジルバンに入ったりしました。特に思い出深いのはテコンドー体験で、空手着のような道着に身を包んだ後、テコンドー部の方に教えていただいたトレーニングがとてもきつかったです。普段全く運動しない人間が、体育館を走って往復したりジャンプして走ったり、足を高く上げて蹴りの練習をするのは筋肉の許容範囲を超えており、しばらく階段を降りるのもつらくらい筋肉痛に悩まされました。

さまざまな場所にも連れて行っていただき、観光と韓国の歴史の学習が同時に行えました。滞在していた大邱は、日本で言う飛鳥奈良時代の新羅にあたり、日本史や世界史で学んだ知識が博物館で見た実際の出土物とつながって感動しました。日本の博物館や歴史館で見たような出土物も多く、さまざまな文化が朝鮮半島から日本へ伝わってきたことを思い出しました。もちろんただただ楽しく遊ぶ時間もあり、慶州ワールドで1日中遊んだ日は人生で一番多く絶叫系のアトラクションに乗りました。先生方もさまざまな場所に一緒に来てくださり、食事を一緒に食べたりたくさん話をしたりするうちに仲良くなれたのが嬉しかったです。

〈韓国での生活〉

寮での生活はとても快適で、2人部屋は広くて使いやすかったです。部屋に Wi-Fi もつながって

いたので、日本から持ってきた課題をこなすのにも便利でした。強いて言えば、部屋のあった 5 階には冷蔵庫がなかったことと、自由に使えるはずのドライヤーがなかったことが不便でした。無料で出していただいた朝食は、最初に食べた時は辛く感じられて水なしではとても食べられませんでした。が、だんだん慣れてきてキムチも毎朝食べられるようになっていました。おいしい食事を毎日出していただけてありがたかったです。

昼食、夕食は基本的に大学の周りのお店で食べました。話せる韓国語が少なかったので食事ができるか不安でしたが、意外と伝えたいことは伝わるのだということに気づきました(あまり英語は通じませんでした)。韓国らしいプルコギやチーズダッカルビ、日本では見たことのないハンバーガーショップ、サクサクのカツカツ、あえてのイタリアンレストランなど、どこでの食事もおいしかったです。日本と違い、食事前にサービスでちょっとしたもの(スープや漬物)を出してくださるお店が多かったことも印象的でした。デザートもいろいろ食べましたが、やはり大きなサイズのかき氷を食べられたのは良かったです。

休日や放課後には、少し地下鉄に乗って出かけました。日本で IC カードを使うように、カードに先にお金をチャージしておいて乗る仕組みは便利でした。(そのまま無料でバスに乗れることも)半月堂へ行った時は道に迷ってしまい、もと来た駅に戻れなくなってしまって焦りました。マップの位置情報が機能しなかったため、先輩と自力でなんとか帰ってきて、海外で困った時に落ち着いて対処することを覚えました。

〈3 週間をふりかえって〉

英語圏ではない国にも行ってみたいという思いで、韓国語の授業を履修しているわけでもないのに滞在してみました。一緒にいった人たちや現地の先生、学生さん方のおかげで充実した毎日を過ごすことができました。特に、英語までもあまり通じない環境に身を置くことで、日本にきている外国人観光客の気持ちがわかったのが興味深かったです。韓国語が読めなくてもわかりやすいメニューや看板の書かれ方は、日本において参考にとできると思いました。せっかく3週間学んだ韓国語をこのまま放っておいてしまうのはもったいないので、これを機に韓国語を履修してみようと思います。今回の研修はパスポートを自分で準備することから始まり、大変貴重な経験になりました。



啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

1年 中野 ゆりか

授業内容

初日に行ったライティングのテストの結果によって5つのクラスに分かれた。第2外国語で朝鮮語を選択しているにも関わらず、自信を持って解答できた問題が1つもなかったのが残念だった。授業は毎日午前中に3時間あり、他の大学と混合のクラス単位で行われる。私は上から3番目のクラスに入ることになったが、比較的明るく賑やかな人が集まっていた印象だった。ハングルを読むことすら危うい状態だったので、韓国語のみの授業についていけるか不安だったが、若く美人でサバサバとした先生のもと、楽しく学ぶことができた。私よりもずっと韓国語を理解している先輩や同輩にも助けをもらい、最終日までにはスラスラとハングルを読むことができるようにまでなった。日常生活でよく使用する短文や簡単な文法などもいくつか覚えることができたので、たった2週間とはいえ真剣に取り組んで良かった。

現地での生活

啓明大学には銀行や郵便局、コンビニなどの施設が一通り揃っており、多くの学生が寮で生活しながら授業を受けている。私たちが約3週間その学生寮で生活したが、ベッドやトイレ、シャワーなどはすべて部屋に完備されており、大変過ごしやすかった。しかしお茶大のコンパクトさに慣れているため、最後までキャンパスの広大さには体が拒否反応を示していた。課外活動として、授業の後にテコンドーやサムルノリ(伝統的な打楽器)などの様々な体験をした。その中でも最も印象に残っているのが、チマチョゴリを着るという体験だ。ただ着せてもらうだけではなく、髪も当時の女性のように可愛らしく結ってもらい、かなりテンションが上がった。また、大学がバスを出してくれ、釜山や半月堂などの有名都市や韓国の歴史を学ぶことができる博物館にも赴いた。一般に韓国第1の都市がソウル、第2が釜山、第3が大邱だと言われているが、自ら観光した感想としては、釜山よりも大邱の中心部にある半月堂の方が若者向けの店が充実しており、とても気に入った。後日、午後に自由時間が与えられた時、1人で買い物に行ったくらい居心地の良い場所だった。何よりカルチャーショックを受けたのは、服屋や雑貨屋、飲食店の従業員が接客をしながら当たり前のようにスマホをいじっていたことだ。日本では考えられないことなので見ていて面白かった。そして、何と言っても食。元々そこまでK-POPなどに興味は無かった私は韓国料理を目一杯食べ尽くすことを目的にこの研修に参加したと言っても過言ではない。キムチチゲ、キンパ、サムゲタン...どれも安くて美味だった。特に釜山シティツアーでご馳走になったプルコギの感動の美味しさが忘れられない。それ専門の鉄板で焼いて食べる本場のプルコギという感じだった。日曜日は授業がなく、各々が好きな場所で観光を楽しんだ。私は2週目の日曜日に友人と深夜バスでソウルへ行き、チムジルバンという韓国式スーパー銭湯に泊(サウナがメインの施設だが、カプセル式の仮眠室もあり、

一晩 1400 円ほどで利用できる最高のシステム)したのち明洞を観光した。明洞は休日ということもあり釜山、大邱よりも随分賑わっており、あちこちで日本語が飛び交っていたのが印象的だった。親戚などへのお土産に明洞名物のくるみまんじゅうなるものを大量に購入し、大満足の小旅行となった。

最後に

韓国という国にそこまで関心があるわけでもなく、「安く行けるのなら」という軽い気持ちで参加したこの研修旅行だったが、帰国するまでの間には韓国という土地をすっかり好きになっている自分がいた。さらに、韓国語の最終テストでは 8 割以上の点数を取ることができ、ハングルを読めるまでに成長した。大学での第二外国語の学習が楽になりそうなので嬉しい。研修は全体的に、旅費・保険料以外無料というのが信じがたいくらいの濃い内容だった。啓明大学側が大変親切に迎え入れてくださり、普通の旅行では絶対に体験できないような伝統文化などに触れることができたのは貴重だったと思う。この研修を通し、普段関わることのない外国の方々と接し、新鮮な考え方や習慣などを互いに共有することで、先入観にとらわれず物事を考える力も身につけられることを改めて実感した。今後もこういった学生向けのプログラムがあれば、積極的に参加していきたいと思う。

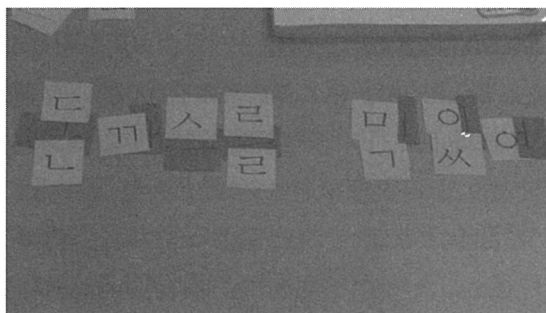
啓明大学短期研修を終えて

文教育学部 人文科学科

1年 野村 宙可

授業内容

韓国に到着したその日にクラス分けのテストがありました。私は大学で韓国語の授業を取っていなかったため、問題が全く分からず一番下のクラスになりました。ハングルの書き方と読み方だけ自分で勉強していましたが、単語を知らず何も答えられませんでした。後でわかったことですが、正解かどうかよりも答えているかどうか重視されたようなので、上のクラスに行きたければ適当に答えても良いかもしれません。



(トンカツを食べました。をハングルで)

先生は初め韓国語で授業を進めていましたが、理解している人がいないのを見て日本語に韓国語を混ぜる方針に変わりました。どのクラスの先生もとても若く優しくでしたが、私の担任の先生もとても綺麗で優しく、工夫して韓国語を教えてくださいました。授業は基本のハングルの読み書き発音から始まり、最終的には大学の前期の授業分近く進んだそうです。進みは早かったですが、丁寧にわかりやすく教えてくださったのでついていけました。

韓国での生活について

韓国に着いてからまず困ったことは洗濯でした。私は実家暮らしなので洗濯もろくにすることがなく、日本語表記の洗濯機ですら扱いに困るというのに韓国語表記ではなおさらでした。洗濯機についている文字をまず1つ1つゆっくりと読み、ハングルのキーボードで打ち、検索し意味を調べたのでとても時間がかかりました。洗濯で用いられる韓国語一覧などに目を通しておくと良いかもしれません。また、トイレトペーパーやレシートなど生活に欠かせない意外な単語から習得していくことになり、そこが面白く感じました。

啓明大学のある大邱はソウルと比べ田舎だからか韓国人に間違われることもありましたが、日本人の友達と日本語を話しながら歩いているとすぐに日本人とバレました。そのようにバレバレの日本人として生活していると時々大邱の方が「日本から来たの？」と優しく話しかけてくださいました。電車の中やカフェの中、スーパーの試食担当の方などです。日本では明らかに外国人とわかる話したこともない人に、例えば電車で話しかけることはなかなかないので最初は驚きましたが、とても好意的に話しかけてくださるので嬉しくなりました。

また、韓国では「おまけの精神」とでもいうのでしょうか、何にでもおまけが付いてきてとても気持ちよく買い物することができます。1つ買ったならもう1つついてきたり、ネイルを買ったら美容パ

ックが付いてきて気分が上がります。

そして、何よりもとにかく食べ物が美味しいです。これまでの辛さの定義を覆す辛さに泣くこともありましたが、そこに気をつければ美味しいものを堪能できます。



文化体験について

本当にたくさんの方の体験させてもらいました。テコンドーやサムルノリ、チマチョゴリ体験やチムジルバン、ダンス、カラオケ、プールまでありました。各体験には韓国人のバディーも参加するのでそこでお話することもできます。一番衝撃的だったことは、プールで水泳帽ではなく普通の帽子をかぶったままプールに入ることでした。日本との違いに驚き本当にこれでいいのか、と何度も確認してしまいました。泳ぎよりはアトラクションがメインの遊園地で、また暑い韓国だからなのかもしれません。3週間どこまでするのか、というくらいとても充実した日々を過ごさせてもらいました。

最後に

3週間は本当にちょうど良い期間だったと思います。1週間では何もわからないまま帰ることになりますし、2週間ではあっという間すぎです。3週間いると生活にも慣れ、1人でスーパーに行ったりして普通に韓国を楽しめるようになります。また、3週間経つと、せっかく韓国に来たのだから韓国料理を食べよう、とはならず日本食が恋しくなります。特に緑茶やお味噌汁などホッとさせるものが食べたくくなります。外国人として過ごす時間やその時に本当にありがたく感じる韓国の方の優しさなど、行かなければわからなかったことに気づけ、私にとってとても大事な時間になりました。

啓明大学校での短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1年 立川 海

〈授業内容〉

初日に受けたテストの結果に基づいてクラス分けが行われ、午前中の3時間授業が行われました。3時間と聞くと長く感じてしまうと思いますが、20分間の休憩が2回あるので、全然つらくなく、授業が終わるのは毎日あっという間でした。クラスは他大生も含め18人と少人数で、ハングルを読める人が多数だったと思います。授業では、主に基本的な会話表現や、単語を学習しました。先生は日本を全く話せない人でしたが、簡単な韓国語で話してくださったり、適宜英語や翻訳を使ってくれたので、コミュニケーションに支障はありませんでした。授業の中で、チームに分かれてゲームをしたり、先生が文法や文化にまつわるクイズ(超簡単)を出題して、それに勝ったり、正解したりすると、カフェのドリンクや、韓国のお菓子や、フェイスパックをプレゼントしてくれたこともありました。私は、前期に朝鮮語の授業をとっており、ハングルや文法を少し理解している状態でこの研修に参加したので、そんなに苦勞することはありませんでしたが、ハングルは読める状態で行ったほうが、スムーズに学習ができるだろうと感じました。



〈文化体験〉

午後は、ほぼ毎日韓国の文化を体験するプログラムが組まれていました。全て紹介するには数が多いので、特に印象に残っている3つを紹介したいと思います。

1つ目は、韓国の伝統衣装「チマチョゴリ」を着たことです。文化体験は他のクラスとも合同で行うため人数が多かったので、残念ながら自分が着たい色を選ぶことはできませんでしたが、着せてくれるお姉様方が似合う色を見繕ってくださいます。髪が長い人は編み込みもしてもらえます。着るだけではなく、韓国のお辞儀やマナーを学び、日本と似ているところや全く違うところを知ることができました。2つ目は、「サムルノリ」という韓国の伝統的な太鼓を叩いたことです。みんなができるようになるまで、先生が丁寧に教えてくださるので、最後にみんなで演奏したときは本当にすごい迫力でした。太鼓の種類によって叩き方が違うし、音も当然違ったので、それぞれの特徴にあったリズムで叩くことが本当に楽しかったです。

3つ目は、バスで釜山に行ったことです。大学がある大邱(テグ)は、少し離れたところにあるのでバス移動はとても長かったですが、ヘウンデという有名なビーチや、お寺、アウトレ



ットに行ったり、美味しいプルコギを食べたり、と本当に充実した時間を過ごせました。このフィールドトリップの時に、一緒に行っていたお茶大生とも仲を深めたような気がします。

〈生活全般〉

日本と比べて韓国で圧倒的に安かったのは、交通費だと思います。日本で 19 歳未満の人は、大邱市内であれば、区間に関係なく地下鉄は片道 850 ウォン(約 85 円)で乗れます。ただし、交通カードを作った方が楽です。交通カードは片道 1250 ウォン(約 125 円)です。

研修中のご飯については、朝食は大学の寮の食堂で(あまり美味しくない)、昼食、夕食は大学の周辺や市内(ダウタウン)などに行って各自で食べるという感じでした。フィールドトリップの日などは、参加者全員でレストランに行って食べ放題(大学が支払ってくれた)



でした。大学周辺で一番コスパの良かったご飯は、トッポッキの食べ放題のお店です。ディナー時 7900 ウォン(約 790 円)でトッポッキや一品料理食べ放題、ジュース飲み放題でした。日本食が恋しくなることがあるので、サトウのご飯と味噌汁は持っておいて正解でした。寮の部屋で飲食するために、一応箸とスプーンも持って行きましたが、持っておいて良かったと思います。

寮生活は、2 人 1 部屋でした。寮自体は坂の上にあったので毎日帰るのが辛かったですが、良い運動になりました。室内にはシングルベッド×2、机×2、簡易的なクローゼット、靴箱、トイレ、シャワーがついていました。冷蔵庫や電子レンジは各フロアにある共用のものを使っていました。洗濯機も共用であったため、自分が使いたいタイミングですぐに使うことは難しかったです。大学側が洗剤を用意してくれていましたが、なくなってしまうこともありました。お金もかかりましたが、500~1000 ウォン(約 50~100 円)でした。毎晩 23 時過ぎには点呼がありました。寮にある Wi-Fi が繋がらざらざらが多かったので、日本で Wi-Fi をレンタルして持っていくなり、SIM カードを購入しておいた方が良かったと思います。

交通ルールが日本と違い、歩行者用信号が赤になると同時に車用信号が青になって車が発進してくるので、横断歩道は必ず時間内に渡りきらなければならなかったです。バイクは赤信号でも侵入してくるので、油断していると事故に遭ってしまいます。授業がない日は、市内に遊びに行き、おしゃれなカフェに行ったりしました。ソウルや釜山に行かなくても、大邱市内で十分に楽しむことができました。

〈最後に〉

今回、航空費と保険費のみ自己負担で韓国に行けるというこのプログラムに参加して、貴重な体験をすることができました。日本語を学ぶ韓国の学生から、日本語について質問されたときは、もっと自分の国についても理解しなければならなかったと感じました。日本と韓国間の歴史も街中で垣間見え、現在のことを考えるのではなく過去のことも改めて学ばねばならないと思いました。私にとっては初めての海外でしたが、今回の研修で再燃した学習意欲を、これからの大学生活に還元していきたいと思います。

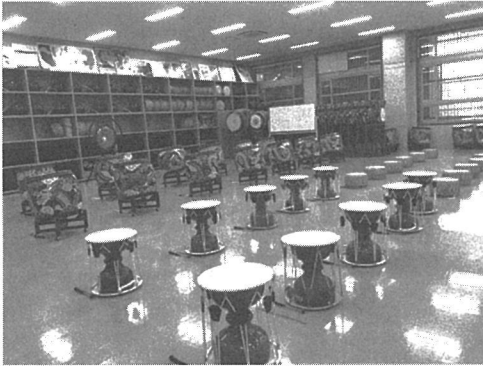
啓明大学校短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

2年 鈴木 万結子

【授業内容】

午前中は韓国語の授業、午後に文化体験授業を行いました。語学に関しては初日にクラスを分けるためのテストがあり、レベル別にクラスが構成されました。クラスのレベルは初心者から上級者まで多様に用意されていました。1つのクラスに対して現地学生がバディーとしてつき、私たちの生活をサポートして下さいました。人数や先生の教え方も適切でかなり韓国語が上達しました。授業の内容は配布教科書に基づいて基本的な文法の学習、挨拶や実践的に使える韓国語の会話練習など多彩でした。たまに先生が学習内容に即したゲームを行って下さり、楽しく学べました。文化体験



授業は、韓服体験、テコンドー、K-POP など校内で実施されるものと、実際に街に出て韓国文化に触れるタイプの2種類ありました。街に出る際は学校のスクールバスで移動したため大変便利でした。街では、大邱の歴史的建造物の見学、伝統的な韓国料理体験の他にもノレバン(カラオケ)等の現代的な文化も体験できました。また、文化体験をしながら現地の学生と交流を深めることができ、とても充実したプログラムになりました。

【現地での生活】

短期研修中は大学の寮に泊まることができました。写真は寮の外観です。設備はかなりしっかりとしており、問題なく生活できました。部屋は2人で1部屋でした。各部屋にシャワールームが付いていました。また、各フロアに給水機が設置されており、自由に水をくむことができました。朝食は寮

で毎日提供されました。大学の敷地自体が大きいので朝、寮から授業のある教室まで歩くのは少し大変でした。また、寮から大学の外にある飲食店街に行くのが少し遠く感じました。しかし、寮の敷地内にコンビニがあり平日は利用することができます。昼食や夕食は学食か飲食店でとることが多かったです。辛いものが多いので、苦手な人は注意しましょう。飲食店の種類も豊富でしたが特定の



日曜日は休業日になるお店が多かったです。日本からインスタントの白米を持っていくと安心です。

韓国はクレジットカード社会と言われるだけあり、たいていの店でクレジットカードが使えます。私は現金中心でしたが1枚持つと良いと思います。現地の人は優しく接していただき、韓国語初心者でもスムーズに買い物ことができました。大邱の中心街に行くときは主に地下鉄を利用しました。私たちは最初に交通ICカードを購入しました。日本に比べて交通費が安いと感じました。また、韓国は公共Wi-Fiが普及していますが不安定なものもあったので日本からルーターをレンタルして持参すると安心です。

【休日の過ごし方】

日曜日は1日中自由な時間を過ごすことができました。私は、ある日曜日に釜山までKTX(新幹線のような高速鉄道)に乗っていきました。東大邱駅から釜山までKTXで40分くらいでした。KTXはインターネットから自分で予約しました。釜山では主に観光をしました。LINE ショップ、カカオストアに行くこともできました。大邱に比べて日本人観光客や日本語表記が多いのが印象的でした。休日はソウルまで行く人もいましたが、寮でゆっくりする人もいました。休日はバディたちの助けがないので、自分たちだけで計画し、実践する力が身についたと思います。

【最後に】

今年韓国語の授業を履修していること、海外に行ってみたいと思っていたこと、1年生の時にサマープログラムで出会った学生が啓明大学校にいることなど様々な理由があり、この研修に参加しました。私にとって初めての海外生活となり、精神的に成長することができました。この研修を通して韓国語能力はもちろんのこと、異文化理解、異国での親元を離れた生活など沢山のことを学びました。たくさんの学生や先生と親しくなることができ、最終日の修了式では達成感もありましたが、彼らと別れがたい気持ちで一杯でした。充実していた3週間は私にとってあつという間でした。今回の経験を大切に、これから多くのことに挑戦していきたいと思います。



啓明大学短期研修を終えて

理学部 情報科学科

2年 鈴木 遥香

授業内容

大学に到着してすぐにクラス分けのテストが行われました。問題も韓国語で書かれていて、私は今までに韓国語を勉強したことがなかったので全く解けませんでした。

次の日の朝から授業が始まりました。授業の先生は日本での仕事経験もあり日本語がとてもうまく教え方もわかりやすく楽しく韓国語を学ぶことができました。最初は何もわからなかったのですが、日が経つにつれてハングル文字を読めるようになり、また



基本的な文法も少しずつわかるようになりました。飲食店に行った時にメニューの内容が少し読める程度に成長しました。

教室と同じ建物内にあるカフェでおいしい飲み物を買って、飲みながら授業を受けるなど楽しい時間を過ごすことができました。

大邱(テグ)

テグという都市はこの短期研修が決定するまでは聞いたこともありませんでした。韓国というとプサンやソウルが有名で、ショッピングや美味しい食べ物を楽しみたいと思っていたのでテグでソウルやプサンと同じような経験ができるのか出発前はとても気になっていました。私は、韓国に行くのは今回が初めてだったのでソウルなどと比較するとどうなのかはわからないのですが、テグで大満足でした。学校付近にコスメのお店もたくさんありますし、電車で2、3駅のところに大型スーパーもありました。大型スーパーではお菓子、インスタント食品、コスメ、衣類などお土産がたくさん買えました。

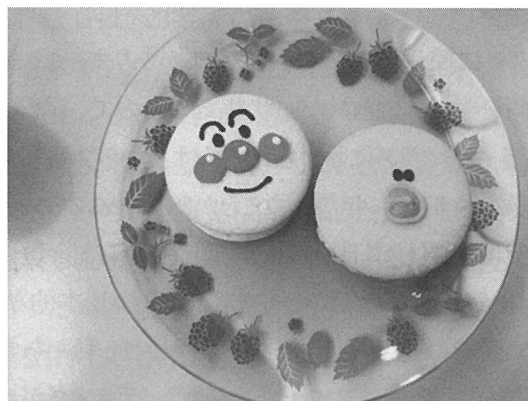
プログラム外の時間

基本的にプログラムの内容が詰まっていたので空きの時間はあまりありませんでした。日曜日はお休みだったのですが、朝から授業を受けて夜まで課外活動という毎日だったので疲れてしまい睡眠をとっていませんでした。

食事

朝ごはんは校内の食堂で食べました。辛いものが多かったです。昼、夜ごはんは各自で色々な

お店に行きました。サムギョプサルやプルコギ、かき氷などおいしいものがたくさんで毎日の食事が楽しかったです。学校付近にたくさんの飲食店がありました。授業の先生やバディに美味しいお店を教えてもらい少し離れたところまで食べに行ったりすることもありました。中でも私が一番美味しかったものはホルモン通りにあるアンジというお店のホルモンでした。これを食べにまたテグに行きたいと思います。



最後に

たくさんの韓国文化体験をでき、優しい人たちに出会い、忙しく充実した毎日を送ることができました。韓国に関する知識がない状態で不安でしたが、この短期研修に参加をして本当によかったです。韓国に興味を持ったので、これを期に韓国語を勉強し、また必ずテグに行きたいと思います。このような貴重な体験ができたのも本学奨学金があったからです。心より感謝申し上げます。

啓明大学短期研修を終えて

生活科学部 食物栄養学科

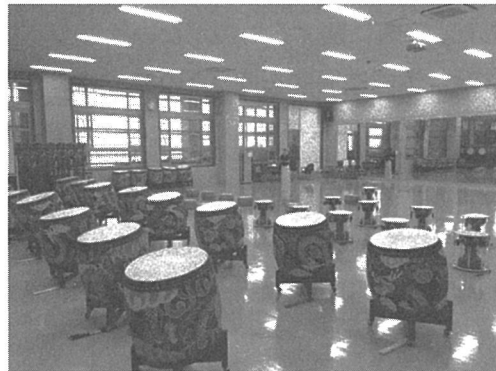
3年 木野 綾音

○授業内容

初日に簡単なクラス分けテストがありました。筆記と口述の試験がありましたが、多くの学生が韓国語を学んだことがない状態だったので、試験といっても堅苦しいものではなく、すぐに終わりました。5つのクラスにわけられ、私は上から2番目のクラスになりました。クラスメイトは18名ほどで、韓国語を半年～1年習ったことがあり、ハングルを読むことはできるというレベルの人が多かったです。授業は毎週月曜日から土曜日(金曜日は除く)の9:30～12:30の3時間行われました。内容は、まずはよく使われる単語から始まり、その後基本的な文法を学びました。先生は日本語が話せなかったため授業は基本的に韓国語で行われ、私たち学生が理解できなかった時のみ英語で話してくださいました。授業はスピーキングとライティングが中心でした。ゲームもたくさんして、楽しみながら韓国語を身に付けることができました。授業中は先生やクラスメイトの韓国語をずっと聞いている状態だったので、リスニング能力も上がったと思います。

○文化体験

今回のプログラムは韓国語・韓国文化研修ということで、啓明大学が用意してくださった様々な韓国文化体験をしました。具体的には、韓国伝統衣服&礼儀、サムルノリ(太鼓)、テコンドー、K-POP ダンス、ノレバン(カラオケ)、チムジルバン(韓国サウナ)、テグシティーツアーを体験しました。これらは平日の午後に行われました。私の中で特に印象に残ったのは、韓国伝統衣服&礼儀とサムルノリです。韓国伝統衣服&礼儀では、チマチョゴリを着て韓国の作法を習い、伝統的なお茶菓子を頂きました。サムルノリでは本格的に太鼓のたたき方を習って、最後はクラスメイト全員で一曲完成させました。どちらもなかなか体験することのできない、貴重な経験だと思います。



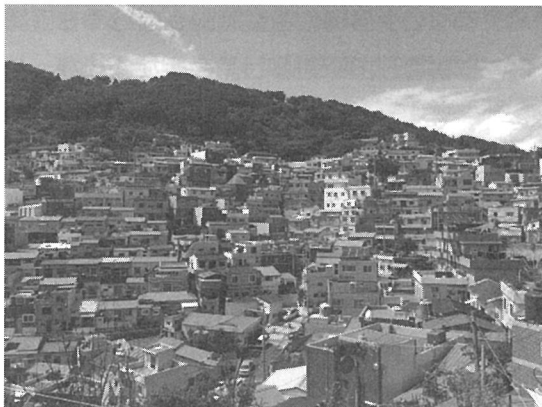
○現場学習

金曜日には現場学習ということで少し遠いところへ出かけました。1週目は釜山、2週目は慶州へ行きました。移動はすべてバスでした。釜山では有名な海、お寺をめぐり、昼ごはんにはプルコギを食べました。慶州では博物館と遊園地に行きました。韓国の歴史



や伝統を学びつつ、たくさん遊んで友達との仲を深めることができました。特に慶州はテグからも 1 時間以上かかるところで、旅行などでは行きづらいところだったので、行くことができ嬉しかったです。

○休日



日曜日は、お茶大の友達と遊びました。大学から電車で 20 分ほどのところにある繁華街へ行き、ショッピングをしたり韓国料理を買ったりして楽しみました。また、釜山へも KTX という電車で 40 分ほどだったので観光に行きました。お店で料理を注文したり、人に道を聞いたりするときに授業で習った韓国語を活かすことができました。釜山にある甘川文化村は、カラフルな家が並んでいる村で、その景色は本当にきれいで今でも鮮明に覚えています。毎日が驚くほどに充実していて、疲れを感じないほど楽しかったです。

○寮での生活

私たちが生活した寮は、大学内にある寮で授業を受けている建物から歩いて 10 分ほどのところにありました。最寄りの駅までも歩いて 10 分ほどでしたが、寮は山の上にあったので寮に帰るときはとても大変でした。部屋は 2 人部屋で、ベッドと机が 1 つずつあり十分な広さでした。私が想像していたよりもずっときれいで、とても過ごしやすかったです。門限が 23:30 で、過ぎると入れなくなってしまうので要注意でした。部屋の中で履くスリッパがあるとよいと思いました。

研修参加者からのアドバイス（啓明大学校）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと
 - Wi-Fi を借りるのか、SIM カードを買うかを決めておく。手荷物の重量制限を自分でも確認しておく。変圧器、変電器を買っておく（ドライヤーの電圧は要確認！）。ご飯がまずかった時用に日本食を少し持っておく。
 - 食べ物がだいたい辛いので、胃腸薬を持っていくと安心です。スーツケースの重量制限が 15 キロなので、荷物はできるだけ少なくした方がいいです。

2. 研修先の授業
 - 先生が全く日本語を話せないことがあるが、ジェスチャーや、適宜翻訳を使うことで会話ができる。
 - 朝の 9 時から 3 時間韓国語の授業でした。韓国語初学者クラスの先生は日本語で授業をしてくれました。

3. ホームステイ
 - Wi-Fi が繋がらないことがあった。洗濯機は、みんな周期が同じでなかなか空かないことがあった。洗濯は終わっているのに中に洗濯物を放置して忘れているなどのことがある。
 - 寮の Wi-Fi は繋がりにくい時もありますが利用できます。洗濯 1 回 1000 ウォン、乾燥 1 回 1000 ウォンです。洗剤は共用のものが置いてありました。部屋のトイレは日本のトイレと変わりありませんでした。シャワーはお湯が出る時間が決まっていました。水圧は問題ありません。部屋の冷房を 24 度設定から変えることができませんでした。

4. 食事について
 - 寮のご飯は基本朝だけ食べていたが、美味しくなかった。たまに当たりもある。
 - 朝ごはんのみ無料提供してもらえます。ただ、辛いので慣れるまでは注意が必要です。

5. 現地学生・地域住民との交流
 - 学生が日本語を学んでいたこともあり、コミュニケーションには支障がなかった。
 - バディさんが各クラスに 1 人ついてくれます。日本語学科の学生さんだったので日本語で会話をすることができました。

6. 経済面

- 5万円を日本で両替して44万ウォンになったが、現地で両替した方が割が良い。
- 韓国はクレジットカードが主流なので、あまり両替しなくても大丈夫だと思います。大学にある銀行で両替することもできました。レシートはもらえないことが多いです。

7. その他

- 電車の中で日本語を話すとジロジロ見られることが何度かありました。
- 夏の大邱は東京と同じくらい暑いです。



ロンドン大学

東洋・アフリカ研究学院(イギリス)

研修期間：2018/8/20～2018/9/7

滞在：学生寮

参加費：約 50 万円

研修内容：英語研修

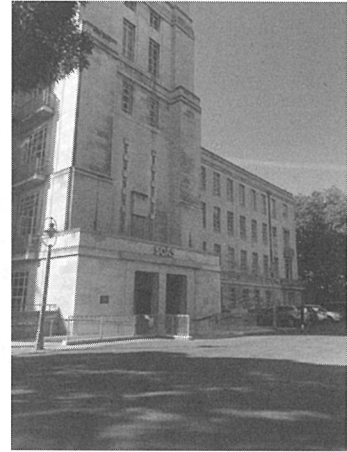
ロンドン大学 SOAS での研修を終えて

人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻

3年 高橋 史葉

【授業内容】

私が参加したサマープログラムは、英語を使って専門科目を学ぶというものでした。基本的に授業は preview→lecture→review and discussion の流れで行われ、授業の初日に reading pack と呼ばれる教材が配布されました。ペアワークやクラス全体で議論をする時間が多く取られていたように思います。preview の時間にクラス全体で授業内容を確認する時間はあったものの、事前に教材や参考文献を読んで、ある程度予習をしないと授業内で議論に参加することは難しいかもしれません。英語力の規定はなく、語学力によるクラス分けはありませんでしたが、参加していた学生は皆英語が堪能でした。また各コースの最後には 10～20 分程度のプレゼンテーションが課せられました。単に語学として英語を学ぶだけでなく、自分が興味を持っている分野の専門科目の授業を受けてその内容について議論するという内容だったので、もっと英語を学びたいというモチベーションになったと思います。



【課外活動】

ピクニックやテムズ川クルーズ、ロンドン市内の観光ツアーなど多くのアクティビティが大学によって企画されていました。他のコースに参加している学生と交流する良い機会になっていたのではないかと思います。ピクニックでは自分の国の食べ物を各自が持ち寄り、外国の文化に触れることができました。またキャンパスが大英博物館に近接していたため、授業時間内にクラスで訪れるということもありました。

【生活全般】

プログラム期間中は大学が指定した寮に滞在しました。SOAS の学生の大半はこの寮で生活していたため、本プログラム参加者以外の学生と交流する機会が多くあり、たくさんの刺激を受けることができました。





McGill



マギル大学（カナダ）

研修期間：2018/8/4～2018/8/25

滞在：学生寮

参加費：約 50 万円

研修内容：英語研修

マギル大学短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

3年 久保 美聡

授業について

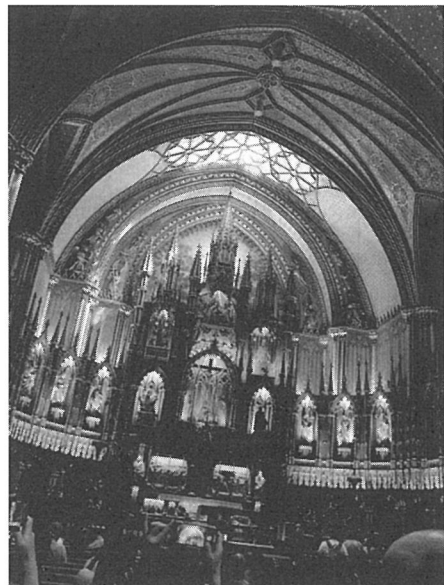
研修前に日本でクラス分けテストを受けます。クラスは4つで、私は下から2番目のクラスで学びました。基本的に午前中が授業で、スピーキングのアクティビティから始まります。もし1億円手に入ったらなど、様々なテーマについて「文法を気にせずに、とにかく話を止めずに！聞き手は大きなりアクションでサポートする！」ということ意識してペアワークを行います。ペアは毎回ランダムに決めるので、クラスメイトともすぐになじめました。その後の座学では、カナダの動物や食、観光地、通貨などを扱います。親しみの持てる内容でしたが、リスニング、パワポ発表、サマリーの作成・録音など、盛りだくさんで授業外準備が少しきつかったです。週1の発音の授業は、日本人が苦しむLとRなど、ネイティブスピーカーに教えてもらいたいと思っていた内容ばかりで嬉しかったです。授業で扱った洋楽は今も頭を離れません。

授業の中心はスピーキングで、話す前に文法ミスを感じてしまう私には苦しくも為になる授業でした。もちろんリスニングやライティングを見てもらう時間もあり、英語力不足を感じながらも楽しみながら成長できた時間でした。

クラスモニター・レジデンスモニター

マギル大学での研修の大きな特徴として、「午後は教室の外へとび出す」ということが挙げられます。クラスモニターと呼ばれる、現地の学生が各クラス3人付いて校外学習の時間を担当してくれます。ノートルダム大聖堂、地下の巨大ショッピングセンター、クルーズ、寿司パーティー、テレビ局で番組制作...内容は挙げたらきりがありません。これだけの魅力があふれるまちモントリオールを自力で攻略するのはほぼ不可能なので、モニターさんに教えてもらえて大満足でした！ちなみに乗り物は、現地で配られる電車・バス1ヵ月定期券で乗り放題です。

EVOという、ジム、ランドリールーム、プールまであるホテルのようなレジデンスで寮生活を送ります。寮では語学のレベルも出身国もバラバラの10人弱のグループに分けられて、担当のレジデンスモニターさんに困ったことがあれば何でも相談できる環境がありました。色々聞いて友達のように仲良くなれます。別れの日には全員号泣していました(笑)。夕食後にほぼ毎日夜のアクティビティがあります。その担当がレジデンスモニターさんで、各グループでボウリング、食べ歩き、バーなどを楽しみました(グループの連



絡は Facebook を使用)。プレゼン前夜にボウリングに行っとうとうとしながら深夜に資料を作ったのも思い出です。

生活について

寮は 2 人部屋ですがプライベートが守られる間取りでした。何より窓からの眺めが最高でした(12 階につき)。洗濯はチャージ式のカードを使って、液体洗剤オンリーで行います。友達と協力して洗濯をしていました。寮も学校も Wi-Fi は驚くほどサクサクです。美味しめのバイキング形式のご飯が 3 食付いているのでとても助かりました。自由にご飯をスキップできるため、たまに友達と外食を楽しみました。カナダの外食はボリュームですが少し高いです。水は大きなペットボトルに寮の冷水を入れ保存し、日中は水筒で持ち歩きました。

有名な話ですが、モンリオールという町はパリに次ぐフランス語圏のまちであり、私は英語留学だったので街中の看板、標識、カフェメニュー全てがフランス語だったことに戸惑いました。店員さんの挨拶が「ボンジュール、ハイ」で、ボンジュールと返すとその後ずっとフランス語で話しかけられます(笑)。

最終日は寮でお別れ会がありました。フォーマルなので、ドレスを持っていく必要があります。浴衣・チャイナドレスの子もいて素敵でした。レジデンスの班で出し物をするので、最終週は部活動のようにダンスと英語劇を練習しました。



休日について

土日は日帰りで首都オタワ(レジデンス班で)、2 日でトロント・ナイアガラツアー(希望制)に出かけました。文化体験はもちろん、自由時間もあって充実していました。特に感動したのはナイアガラの滝に接近するボートツアーです。注意したいのはカナダの店の閉店時間の早さです。特に日曜日は 16 時には大型のデパートなども閉まり、日本人的にはとても驚きました。

最後に

文系お茶大生として、3 年生の夏は就職活動を始めるべきだと思い、参加を悩みました。しかし、現地でたくさんの人と出会い、そんな悩みはちっぽけなものだと気付かされました。何かに挑戦するのに遅すぎるということはなく、語学力に自信が無くても、少しぐらい寝不足で筋肉痛でも、「次はこんな楽しみが待ってるよ！ちょっと位大変でも充実している証拠さ！」と笑い飛ばしてくれるカナディアンの方のポジティブでフレンドリーな気質に触れ、濃すぎる毎日を過ごしました。この経験が今の私を支えています。

最後に、国際教育センターの先生方や、支援機構及びお茶大奨学金に支えられて私の留学が実現いたしました。ありがとうございました。

McGill English Immersion Summer Program に参加して

理学専攻

1年 椎名 遥

1. 留学前

学生のうちに語学留学がしたかったので今回のマギルプログラムに申し込みました。往復の飛行機を自分でとることにしたので、たくさん調べて勉強になりました。現地のクラス分けは、事前にオンラインでテストが行われました。一緒に行った子と事前に連絡は取っていましたが、自分にやっていけるのか、不安でいっぱいだったことを覚えています。空港までの往復はモニターさんが付き添ってくれたので安心しました。

2. 平日

現地のモニターと呼ばれる方が班ごとに朝から晩まで面倒をみてくださいました。午後のアクティビティを一緒に行うクラスモニターと、寮で一緒にいるレジデンスモニターがいました。マギルの学生や卒業生などがモニターをされていて、みんな20代の歳が近い方々でした。

授業は午前中に行われ、午後はアクティビティや発音の授業が行われました。授業はリスニング、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションを通してカナダやモンリオールの文化を学ぶというものでした。教材は全て印刷されたものが配布されました。

アクティビティはキャンパスツアー、TV番組制作、マーケット見学、市内の大聖堂の見学などを行いました。アクティビティのための予習や復習も授業で行われ、モンリオールの文化を深く学ぶことができました。夜もモニターさんが班ごとにスイーツ店やボウリングに連れて行ってくれました。モ

ニターがいることで同世代の現地の学生と密接に交流できたのはすごく良かったです。参加者は日本人が過半数で、あとは中国人が多かったです。他にも台湾、メキシコなど様々でした。

授業を通して、やはり言語の面でもどかしい思いをしたことは多かったです。伝えたいのに伝えられないことが多く、自分の未熟さを思い知らされました。全体的に外国からの参加者の方が英語力は高く、もっと話せるようになりたいと思うとともに、自国の事も何もわかっていなかったんだと思いました。



3. 週末

最初の週末はオタワに行きました。国会議事堂と歴史博物館を見学しました。国会議事堂はとにかく立派な建物で、カナダの建築様式について学べました。カナダにおける政治についても、授業で予習をしてから見学しました。私は日本の政治もあまり詳しくな

く、かつ政治の専門的な単語が多かったのもう少し日本でも予習していけば良かったと感じました。歴史博物館ではカナダの歴史的な文化遺産や世界最大級のトーテムポールを見学しました。

次の週末はオプションとして2泊3日でトロントとナイアガラのツアーに参加しました。オプションは申し込みの時に同時に申し込みます。他には日帰りのケベックツアーと寮に残るが選択肢にありました。ナイアガラの滝はとにかく圧巻で、自然の雄大さをこの上なく感じることができました。また一生のうちに訪れたいです。



4. 生活について

治安が良いと聞いていましたが本当に治安は良かったです。夏場は20時頃まで明るく、暗くなっても1人で歩けました。気候は日本より涼しく、半袖に1枚羽織るくらいがちょうど良かったです。お店も充実しており、特に地下街は規模が桁違いでなんでも揃います。クレジットカードもVISAとMasterなら大抵使えました。ご飯は大抵寮で出ますし、モニターさんが近くのレストランに連れてってくれた時もあったので全く心配なかったです。寮はevoという学生寮で、2人部屋でした。私のルームメイトは日本人でしたが、外国人の場合もあります。寮も大学も街中もWi-Fiが充実していたので、借りる必要はなかったです。

5. 最後に

今回の留学を通して、カナダの文化における多様性が強みであることを本当に実感しました。自分たちのルーツが違うことをまるで専攻が違うくらいの感覚で捉えていたり、またLGBTのフェスティバルも盛んに行われていて、沢山の文化の共存がうまく言っていることが感じられました。

最後に、今回留学に行くにあたって国際教育センター及び国際課の皆様、奨学金関連でお世話になった皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

研修参加者からのアドバイス（マギル大学）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと

- 航空券の手配についての情報を集め、なるべく早く手配すると安く済む。
- オプショナルを申しこむならちゃんと申し込まれているか先方（ケビンさん:kevin.stanley@mcgill.ca）に確認した方がいいです。
- ケビンさんはこのプログラム作ってる人なのでなんでも知ってるし、優しいのでなんでも答えてくれます。
- 往復飛行機を個人手配にすると、行きや帰りに別の観光地に寄ったりアレンジができます。
- モントリオールの空港まで向こうのモニターさんが迎えに来てくれるのですが、フライトナンバーを伝える必要があるのでケビンさんと連絡を取りましょう。
- どんなに日本が殺人的に暑くても向こうは快適な気温なので長ズボンと上着は用意しておきましょう。

2. 研修先の授業

- 毎日ハードスケジュール。日本の課題などを持ち込むと終わらない。
- 英語を用いてリスニングやライティング、プレゼンテーションを行いました。
- スライドを用いた発表があるのでパソコンとUSBが必要です。
- クラス分けは事前にオンラインのテストがありました。時間制限ありで辞書使用不可のエッセイのようなものでした。

3. 寮について

- 洗濯洗剤は液体しか使えない。ジェルボールと粉末は不可。チャージしたランドリーカードを使うので、友達と協力するといい。
- evo という学生寮に宿泊しました。マギルの学生専用ではないみたいです。evo も大学もWi-Fiがありネット環境は快適でした。
- 洗濯機は友達と一緒に使いました。洗剤も現地で買った子と割り勘にさせてもらいました。シャワーは滝行でした。備え付けの石鹸などはないので持っていきましょう。現地でも買えます。
- 今回はみんな2人部屋でした。私の相方は日本人でしたが、外国人だった子ももちろんいました。参加者は日本人が過半数で、中国人も多かったです。あとは台湾、メキシコなどでした。サンダルがあると寮とフライトで便利です。

4. 食事について

- 三食寮でbuffet。
- 朝晩は evo で食事が出ました。お昼も大学の近くの別の evo で食事が出ました。
- 似たような食事が出るので、最後の週は飽きて街中の飲食店に出かけていた子もいました。提供される食事はbuffet形式でした。フルーツがとっても美味しいです！

5. 現地学生・地域住民との交流

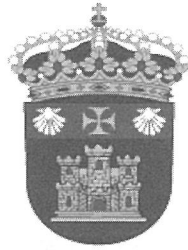
- 寮と学校でモニターさんがついてくれるので安心。
- モニターと呼ばれる現地の学生が面倒を見てくれました。
- 主に evo で一緒に暮らすレジデンスモニターと、平日午後のアクティビティを一緒に行うクラスモニターがいました。
- レジデンスモニターは朝晩の食事を共にしたり、晩御飯の後に一緒に出かけたりしました。週末のオタワトリップやオプションのお出かけもレジデンスモニターと一緒にしました。
- 地域の方々はフランス語圏なので、お店もフランス語表記に小さく英語表記もある感じでした。でもなんとなく雰囲気わかります笑
- 治安がいいのでその辺に歩いている人に話しかけても気さくに答えてもらえます。

6. 経済面

- カナダはほとんどクレジットカード。市場だけ現金。
- 周りは4~5万くらい持つてくるのがスタンダードな感じでした。ショッピングを楽しみたいなら多めがいいと思います。VISA と Master は大抵使えます。お土産屋さんには JCB が使えるところもたまにあります。大抵のお店はクレジットカードが使えるようでした。マーケットは現金のみでした。
- ちゃんとしたレストランはチップが必要ですが、ファストフード店くらいしか入らなかったためチップは置いてこなかったです。

7. その他

- 他校と比べて放任でした。自ら進んで情報を集めてください。
- 最終日に卒業セレモニーがあるのでパーティードレスみたいなのが必要です。持っていきましょう。浴衣の子もいました。
- お菓子でもなんでもいいので、日本のお土産みたいなのがあったら良いです。最後に渡せます。
- お茶大からはマギルの参加者が少ないので、過去の参加者に相談できずめっちゃ不安でした。なので何かあれば井上さんを通してなんでも聞いてください！笑
- モントリオールに着いてしまえば、あとはモニターさんが面倒見てくれるし相談も乗ってくれるしなんとかなります。楽しんでください！！



UNIVERSIDAD DE BURGOS



ブルゴス大学 (スペイン)

研修期間：2018/8/20～2018/8/31

滞在：学生寮

参加費：約30万円

研修内容：スペイン語研修

ブルゴス大学短期研修を終えて

文教育学部 人間社会科学科

2年 我妻 綾香

学校生活

8月22日から9月3日の間、朝10時から午後2時までの4時間(休憩あり)スペイン語の授業を受け、9月4日にテストを受けました。初日はオリエンテーションとクラス分けのテストかと思っていましたが、実際は初日からスペイン語の授業が始まりました。

授業の内容はさほど難しくはありません。去年1年間「現代スペイン語」を履修しましたが、そこで学習した内容を2週間にまとめたような印象を受けました。毎日違う文法を習う



ので、初めてスペイン語を学習する人にとってはテンポが速いように感じるかもしれません。私はどちらかというと単語とリスニングに苦勞しました。特にリスニングは先生がスペイン語でスペイン語を教えてください、テキストも全てスペイン語で書かれているので、まず今何を勉強する時間なのかが分からないということがよくありました。先生も英語で助け船を出してくれるのですが、スペイン語訛りがある英語なので日本人には難しいです。

クラスは8人ほどで、韓国人や中国人、ポーランド人、ドイツ人と一緒でした。特に中国人とは仲良くなり、日本や中国について教え合ったり、スペイン語が分からない時は慰め合ったり、教え合ったりしました。授業時の雰囲気は優しく、分からない時は質問しやすかったです。私達の寮でトラブルが起こったためにクラスメイトとのランチが実現しなかったのは唯一の心残りです。

ブルゴス

ブルゴスの住民はとても外国人の私達に優しく、好意的でした。ブルゴス大聖堂が世界遺産であるため、観光客が多く訪れる街だからだと思います。アジア人は多くはありませんが、中国系はたまに見かけましたし、日本食のお店もありました。食事や買い物の際は英語でコミュニケーションを取ることも多かったです。しかし、英語だけでは十分に伝えきれず、英語力もスペイン語力も足りない自分に落ち込むことも多々ありました。

壮大な大聖堂と綺麗な街並み、住民の優しさはブルゴスを大好きになるには十分でした。マドリッドからバスで2時間と少し遠く感じますが、観光にもオススメです。

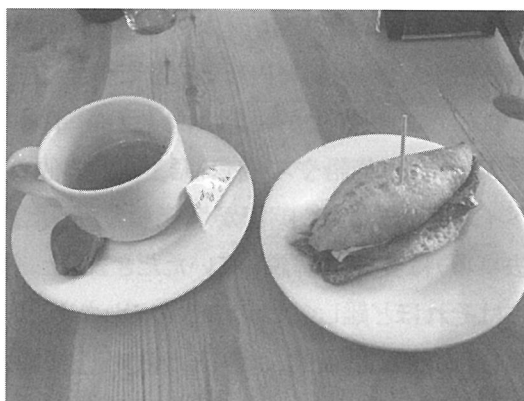
休日

週末は基本的に土曜日に観光に行き、日曜日は寮の自室で勉強をしながらゆっくり過ごしました。土曜日の観光は朝早くに高速バスに乗り、1週目はサンセバスチャン、2週目はビルバオに行きました。これらバスク地方の都市は芸術と美食の街として有名です。ブルゴスからはそこまで遠くはないので週末のプチ旅行にはぴったりだと思います。また、今回交通手段として主に利用したバスは快適で値段も安いのでオススメです。ただ、夏のスペインは朝7時過ぎまでは真っ暗で、逆に夜は9時くらいまで明るいので、早朝の行動には気をつけた方が良かったなと思っています。

キリスト教圏ということで日曜日はスーパーマーケットが閉まっており、その点では不便に感じるが多かったです。日本と違い、自動販売機やコンビニエンスストアがあるわけではないので、土曜日に必要なものは買いだめしておく必要があります。

食事

海外での生活で一番不安だったのは食事でした。しかし、実際行ってみるとどれもこれも美味しく、食事で失敗することは少なかったです。朝は寮から渡された食券を使い、近所のカフェでパンやオムレツを食べ、昼はタパス(軽食)やピザを食べたり、レストランやバルに行ったりしました。夜はスーパーで買って済ませることが多かったです。美味しいのですが、日本人には合わない味や脂っこいものも多かったです。一度食事選びで失敗してもくじけずに、色々な食事に挑戦できたのはスペインの文化を体験する上で重要なことだったと思います。



最後に

スペイン語の学習という点でも文化体験という点でもかけがえのない時間を過ごすことができました。常に耳にスペイン語が入ってくることはスペイン語力の向上だけではなく、モチベーションにも繋がりました。寮を出て30秒でブルゴス大聖堂がある生活はスペインの歴史を感じられ、生活の1つ1つでスペインの文化を学べ、素晴らしい生活でした。あつという間の研修で、毎日毎日が充実していました。この研修での経験を今後の学習に生かしていきたいです。

また、今回の研修はお茶の水女子大学の奨学金のおかげで実現することができました。ありがとうございました。

ブルゴス大学夏季短期研修報告書

文教育学部 人文科学科

2年 神崎 信子

授業内容

ブルゴス大学では、長期留学生のためのスペイン語補習授業を受講しました。初日にクラス分けのテストがありましたが、テストの受験は任意でした。クラス分けテストの結果、また個人の学習意欲に基づき、レベル別にクラスが分けられました。私は、スペイン語を勉強したことがほとんどなかったので、一番下のレベルのA1クラスに入りました。クラスは少人数で行われ、韓国人学生が最も多く、その他に中国やスウェーデン、ポーランド、ドイツからの留学生がいました。クラスに日本人は私しかおらず心細くもありましたが、日本語に甘えることなく、英語やスペイン語を用いて他の留学生たちと積極的に会話することができました。スペイン語の先生は、英語が堪能な方だったので、スペイン語だけでは理解できない部分(特に文法事項)は英語で解説していただきました。授業は配布されたテキストに基づいて進みました。文法はそれほど難しくはありませんでしたが、リスニングやオーラルに苦労しました。分からなかった部分は、先生に質問したり、クラスメートに聞いたりして補いました。また、週末には文法問題や作文が宿題として出されました。最終日には4技能試験がありました。



休日の過ごし方

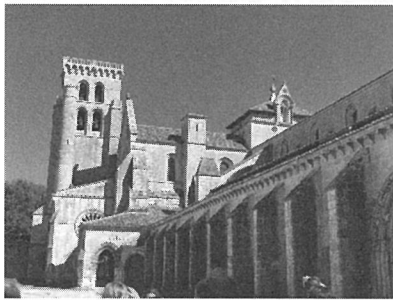
大学主催のエクスカージョンがなかったので、土日を使ってお茶大の同級生と、バスク地方にあるサン・セバスチャンやビルバオにバス旅に行きました。スペインは高速バスが発達していて、座席には飛行機のようにテレビが備え付けられており、映画を観たり、インターネットを使ったりできます。電車よりも本数が多く、また値段も安いので、遠出の際には、全て高速バスで移動しました。バス会社は複数ありますが、私たちはその中でも ALSA 社のバスを利用しました。バスには、Normal、Super Economy、Premium の等級区分があり、Super Economy では水とスナック菓子が、Premium では食事の他に、アルコールやソフトドリンクなどが配られました。乗り心地も良く、非常に快適でした。サン・セバスチャンは世界有数の美食の街として知られており、沢山のバルが軒を連ねていました。ビルバオではグッゲンハイム美術館や世界最古の運搬



橋、ビスカヤ橋を訪れました。またバルへ行って、バスクの美食を堪能しました。バスク地方は独自の言語や文化を持っており、ブルゴスのあるカスティリヤ地方とは違う、新たなスペインの顔を見ることができました。

生活全般

夏季研修中は、大学と提携している学生寮に滞在しました。ブルゴス大聖堂から徒歩 2 分の場所にあり、付近には大きなスーパーが何軒もあったので生活しやすかったです。スペインでは、ほとんどの店でレジ袋が有料になっていたので、持参したエコバックが役立ちました。朝食は、寮で食券をもらって、近くにあるカフェで食べました。寮にはキッチンがなく調理することができなかったので、昼食はレストランやバルに食べに行きました。夕食は、スーパーで生ハムやカット野菜、クラ



ッカーなどを購入して簡単に済ませました。大学の授業は 10:00～14:00 までで、放課後の時間は自由に時間を使うことができました。放課後は洗濯物をしたり、ブルゴスの名所を訪ね歩いたりしました。スペインは、サマータイムが導入されていたため、20:00 くらいまでは日が出ていて、とても明るかったです。スペインは治安が悪いと事前に聞いていたのですが、ブルゴスはとても治安が良く、自然豊かな美しい街でした。

最後に

スペインでの暮らしを体験したいと思い、この研修に参加しました。スペインに到着したときは、見知らぬ土地で暮らすことへの不安から、日本へ帰りたいたいと思っていましたが、いざ大学へ通い出すと毎日が楽しく、ずっとスペインで暮らしたいという気持ちになりました。さまざまな国の人たちと交流するのは初めての経験で、最初は緊張しましたが、積極的に会話することで仲良くなることができました。研修中、他の留学生たちとコインの交換をしたのですが、非常に良い思い出となりました。友だちと別れたときは、とても寂しい気持ちになりました。2 週間は本当にあっという間で、充実した日々を送ることができました。

最後に、桜陰会のみなさまより奨学金をいただきました。今まで、海外へ一歩踏み出すことができなかった私にとって、今回の研修は実り多きものとなりました。心より感謝申し上げます。これで終わりにすることなく、これからも語学の勉強に励み、さまざまな場所を訪れてみたいと思います。

ブルゴス大学短期語学研修を終えて

文教育学部 人文科学科

2年 高橋 萌絵

授業について

私は A1 という一番下のクラスで学びました。初日に全体でのオリエンテーションや入門的な内容の講義がなされ、上のクラスを志望する人はウェブテストに合格する必要があるようでした。2日目のアンケートで、A1 のクラスの中でも意欲や自信によってさらに細かくクラス分けされました。授業は 10 時から 14 時までで、少人数制です。私のクラスは全部で 8 人ほどで、人種は様々でした。授業は主に英語とスペイン



語の両方で進んでいきますが、私のクラスではほとんどスペイン語でした。教科書は大学側がコピーして配ってくださったので購入する必要はありませんでした。コピーが配られるのは当日のことが多かったため、予習はあまりできませんでした。教科書は文法等の中身よりも問題文が読み取れないことが多いため、日本にいる間からスペイン語で書かれている教材を使用した方が良かったと思いました。また休憩時間や放課後のクラスの人たちとの会話は英語が中心だったので、英会話をもっと練習してから参加すれば良かったと反省しました。最終日にはリーディング、リスニング、オーラルのテストがありました。授業で出てきた単語はその日のうちに復習しておくの良いと思います。

休日の過ごし方

私の参加した研修ではエクスカージョンが行われなかったため、休日は共に研修に参加した 2 人と旅行をし、サンセバスチャンとビルバオを訪問しました。エクスカージョンに参加することができなかったのは非常に残念でしたが、自分たちで高速バスを手配したり、店を予約したり、プランを立てたりするという機会を得ることができ、またあまり訪れることのできないような土地に足を運ぶことができたので、とても充実した休日になったと感じています。

寮について

寮の方の配慮で、もともと 2 人部屋であったところを 1 人部屋にいただき、とても快適な環境であったと思います。朝食は、近くのカフェで使用できる券を頂けるので、そこで食べることになっていました。寮内には共同で使えるカフェテリアがありました。コンロはありませんでしたが、冷蔵庫、電子レンジ等があり、簡単な食事をとることができました。

生活全般



ブルゴスはとても治安が良く、またスペインは日が沈むのも遅いため、帰りが少し遅くなってしまっても安心でした。夜の 9 時頃まで明るく、逆に朝は 7 時を過ぎても暗いです。朝晩は冷え込むので、部屋着は真夏のものでない方が良いでしょう。日中の気温は日本の夏とあまり変わりありませんが、湿気がないぶん涼しく感じられました。普段の格好は、半袖に羽織りものが主でした。日差しが強いので、日焼け止めとサングラスは

欠かせませんでした。

朝食は寮が手配してくださったカフェで食べていましたが、朝食以外は各自で取るという形でした。スペインでは昼食を一番多く取るため、レストラン等でランチメニューを頼むと、昼食とは思えない量が出てきて驚きました。何人かでバルへ行き、1 人 1 品ずつ頼んで分けるとちょうど良い量でした。夕飯は寮で取ることが多かったのです。主にスーパーで、サラダや生ハムなどを購入し食べていました。スペインのドレッシングはあまり口に合わないことが多かったので、日本から持参した醤油に現地で購入したバルサミコ酢を合わせてオリジナルのドレッシングにしていました。

食事や日用品はスーパーで買っていました。スペインにはシエスタという制度があり、授業が終わる頃から夕方あたりまで閉まっている店も多かったのです。またスーパーは日曜日が定休日になっているので、買い物は前の日までに済ませておく必要がありました。

掃除に関して、掃除機等がないので苦労しました。現地にはコロコロも床を拭くシートも売っていませんでしたので、日本から持って行けば良かったと反省しました。

おわりに

今回の語学研修では、スペイン語の基礎を学ぶことができた上、今までにしたことのない様々な経験をする大変良い機会となりました。異国の文化に触れる中で、その時々状況に順応し、冷静な判断を下すことの大切さを改めて認識することができました。研修中、国際教育センターの先生方にもご迷惑をおかけしましたが、結果として非常に充実した、満足のいく研修となったことを嬉しく思います。

最後になりましたが、桜蔭会の方々からお茶大奨学金の支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

研修参加者からのアドバイス（ブルゴス大学）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと

- スペイン到着時は大きな荷物を抱え、フライトの疲労もあり、あたふたしてしまうので出発前に空港から目的地への経路は確認しておいた方が良いでしょう。特に、都市郊外へ行く場合は運行本数も少ないため、いくつか交通手段を考えておいた方が良いでしょう。
- 忘れ物をしないようにすること。スリ対策を考えること。日本でしか買えないものを忘れないようにすること。緊急連絡先を確認する。お茶大のメールアドレスが使えるか確認する。

2. 研修先の授業

- 授業は長期留学生向けのスペイン語補習授業でした。授業では積極的に発言したほうがよいと思います。私のクラスの先生は英語が堪能だったので、基本的には英語でスペイン語を習いました。留学生同士の会話も英語が中心でした。スペイン語は初歩から勉強したので文法内容的にはそれほど難しくありませんでしたが、リスニングやオーラルに苦労しました。
- 10時から2時までの間に20分の休憩がある。教科書は授業内で配布される。人種は様々。エクスカッションはない。英語とスペイン語が使われる。A1の内容を行う。単語は日常単語が中心。

私は講義でスペイン語を始めて半年ほどで行き、ほとんど話さない状態ではあったが、同じくらいのレベルの学生が多かったように思うので、そこまで心配する必要はない。

3. ホームステイ

- 寮は1人部屋でした。トイレ、シャワーは各部屋に備え付けられていました。冷蔵庫、洗濯機は共同で使用しました。洗濯機、乾燥機はそれぞれコインランドリー式でした。洗濯機を回すのに時間がかかるため、私たちは3人まとめて洗濯機を使用しました。洗剤は日本から持って行った一回ずつ小分けに包装されているものを使用しました。ドライヤーなどは各自用意する必要があったため、海外対応のドライヤーを出発前に購入しました。清掃は各自でするようになっていました。髪の毛などを集めるのが面倒だったので、クイックルワイパーのシートや、コロコロを持って行けば良かったと思いました。
- 寮でインターネットはWi-Fiにつなぐことができる。洗濯機は3人で2日に一度回した。乾燥機もある。トイレは個室の時には一部屋に一つあり、二人部屋のときには男子トイレの奥にあった。シャワーもトイレと同様。

4. 食事について

- 寮では、朝食のみ提供されました。寮には食堂がなかったので、毎朝食券をもらって、近くにあるカフェに通いました。昼食は大体15:00に食べました。スペインは昼食の時間が遅く、14:00~15:00がランチタイムで、基本的にはレストランで食事をしました。夕飯はスーパーで購入したクラッカーや生ハム、カット野菜などを毎日食べました。寮にキッチンがなかったため調理ができず不便でした。ビタミン不足を補うためリンゴなどの果物を丸かじりしたり、ジュースを飲んだりしました。お湯を沸かすことができなかったため、電気ケトルを持って行った方がよいと思いました。また、フォークやスプーンなどは現地調達できますが、割り箸はほとんど置いていないため日本から沢山持っていったほうがよいです。水はスーパーで購入したものを飲みました。
- 朝のみ提供。朝食は寮内で提供されるわけではなく、寮の近くのカフェで使用するこのできる券をいただくことができる。昼食は外食が中心だった。スペインでは昼食が一番大きな食事となるので、レストラン等のランチメニューはかなりの量が出てくる。何人かで一品ずつ頼み、分け合うとよい。夕食はスーパーで購入した。サラダや生ハム等を食べていた。ドレッシングはあまり口に合わなかったため、醤油とバルサミコ酢で自作していた。野菜をとる機会があまりなく、肌が荒れた。ビタミンCのサプリメント等を持っていくと良いかもしれない。

5. 現地学生・地域住民との交流

- 大学の学生は留学生のみで、現地のスペイン人大学生は夏休みであったため交流する機会はありませんでしたが、中国人留学生や韓国人留学生と仲良くなりました。朝食を食べに行っていたカフェテリアのお姉さんに気に入ってもらえたのか、オレンジジュースを毎朝サービスしてもらいました。積極的に交流した方がよいと思います。
- 現地の学生は夏休み中で不在。地域の方々とは、お店等でやり取りをした。やり取りはスペイン語が中心だった。英語が通じるところもある。

6. 経済面

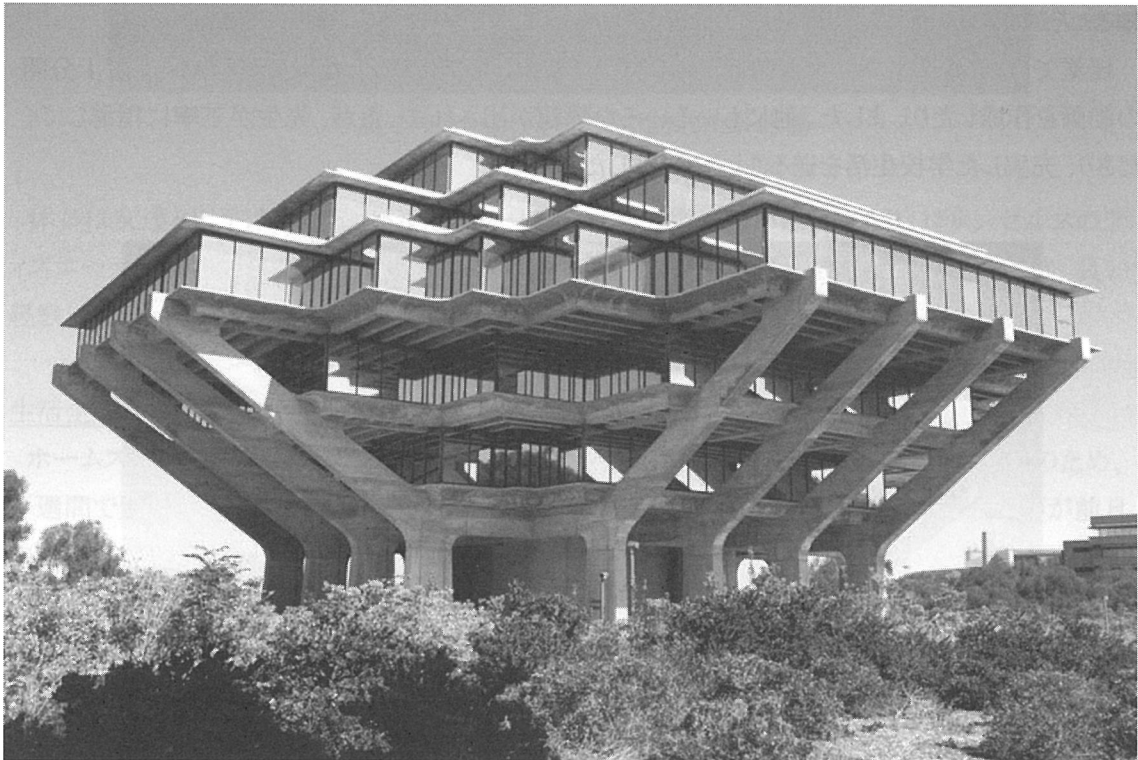
- クレジットカードでキャッシングをしてユーロを引き出す場合は、出発前に使用する予定のカードがキャッシングに対応しているか確認した方がよいと思います。レートがあまり良くなかったため、基本的には日本で換金したユーロで支払いました。ほとんどの店で、クレジットカードを使用することができました。クレジットカードを使用する予定であれば、現金はそれほど持って行かなくてもよいと思います。
- 空港で2万円ほど両替してから現地に向かった。クレジットカードをメインで使っていたため現金はそこまで使わなかった。現金でないと駄目なお店と、割り勘の際に使用した。ほとんどのお店でクレジットカードは使用できたように思う。暗証番号は要確認。カード

はクレジットカードを2枚と、プリペイドのクレジットカードを1枚持って行った。メインで使っていたのはクレジットカード1枚で、残りは予備だった。マスターカードかVISAカードが良いと思う。現金を現地で引き出す際は、クレジットカードのキャッシング機能を使っていた。クレジットカードによって対応、非対応があるので要確認。使い方は事前にネットで体験できるサイトがあるので、使ってみると良いと思う。

7. その他

- スペインの美術館では、ほとんどの場所で学生割引が適用されます。プラド美術館やソフィア王妃芸術センター等では、入館料が無料となりますが、学生証と一緒にパスポートの提示が求められるので、原本とは別にパスポートのコピーを用意しておいた方が良いでしょう。また、国際学生証を持っていればパスポートを提示する必要がないため、出発前に国際学生証を作成するのも良いと思います。大学主催のエクスカージョンは用意されていないので、ガイドブックなどを参照して土日に出発してみるのもよいと思います。
- 公共交通機関のチケット購入、カード購入はやや難易度が高かったが、英語対応していることが多いのであまり問題はない。長距離移動は全てバスで行ったが、非常に快適だったため是非おすすめしたい。マドリッドで一度だけスリにあいそうになったが、それ以外の場所では特に危険も感じなかった。英語は思いの外通じる上、学生間での会話も英語が中心なので、もっと英会話ができればと感じる場面が何度もあった。

UC San Diego



カリフォルニア大学 サンディエゴ校 (アメリカ)

研修期間：2018/8/27～2018/9/21

滞在：ホームステイ

参加費：約 50 万円

研修内容：英語研修

カリフォルニア大学サンディエゴ校短期研修を終えて

生活科学部 人間・環境科学科

1年 丸山 智子

授業内容

初日にクラス分けの英語のテストが行われました。毎週月曜日はフィールドトリップがあり、学校からバスでいろいろな場所に出かけました。火曜日から金曜日は 8:30~12:10 まで授業がありました。私のクラスは7人で、私以外には他大学の日本人2人、中国人、サウジアラビア人、ドイツ人、ブラジル人で構成されていました。彼らとの交流を通じて、アメリカだけではなく、他の国の文化も知ることができました。

授業では、2人グループで仮想商品のアイデアを出してプレゼンしたり、そのCMとして1分間の動画を作成したりしました。他にもいろいろな課題が出されましたが、先生が丁寧に指導してくださり、充実した学校生活を送ることができました。

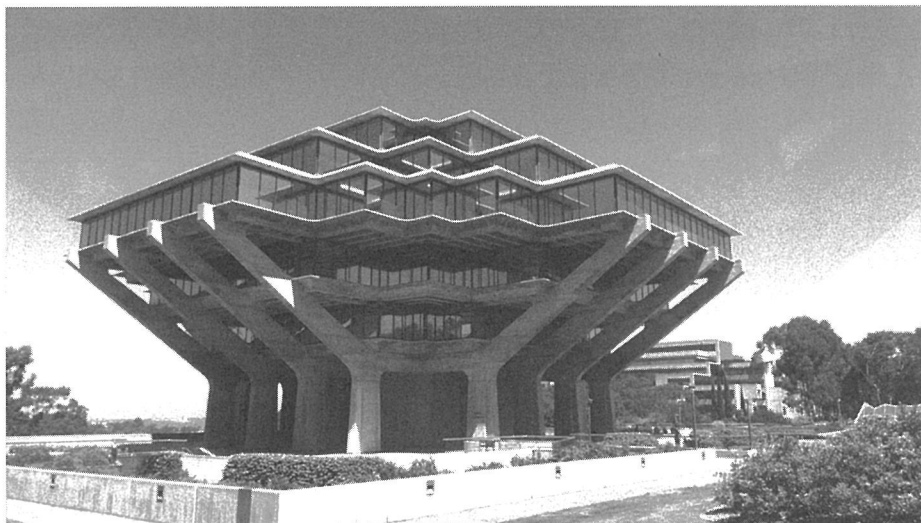


写真 1:大学の図書館

課外活動

大学主催の様々なアクティビティがありました。例えば野球観戦やボンファイヤなどです。そのアクティビティにクラスの友達と一緒に参加しました。アメリカ文化に触れる機会を得ることができただけでなく、英語を話すきっかけにもなりました。



写真 2:フィールドトリップで訪れた野球場

休日は友達と出かけました。リトルイタリーというイタリア街の朝市に行ったり、ロサンゼルスの子供向けテーマパークに行ったりしました。交通手段やチケットを自分たちで手配して行ったことは、良い経験になりました。

生活全般

ホームステイをしました。1軒の家に4週間滞在する予定でしたが、ホストマザーの急用のため、2週間で別のホームステイ先に引っ越すことになりました。引っ越しについて伝えられたのが前日の夜で戸惑いました。引っ越しに伴い生活スタイルや通学ルートが大きく変わり、臨機応変な対応が必要だと感じました。サンディエゴは雨が少なく乾燥していて過ごしやすい気候です。前半にホームステイした海岸沿いの地域は、リゾートのような雰囲気でした。走っている人がたくさんいて、いくつかランニングクラブがあり、私もその中の1つに参加しました。夕焼けを見ながら海沿いを走り、その後、海に沈む夕日を見ながらクラブのメンバーでおしゃべりをしました。日曜日の朝は、走った後に太平洋を見ながらヨガをして、とても気持ちが良かったです。学校以外でも人と関わることができ、参加して良かったです。

最後に

今回の留学において、本学奨学金を支給していただきました。ありがとうございました。留学前後、困ったことがあったらすぐに対応してくださった国際教育センターの先生方にも、心より感謝しております。

カリフォルニア大学サンディエゴ校短期研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

1年 老月 美紗

授業

単語、文法、リスニングのテストが初日に行われ、その結果と本人の希望をもとにクラスが分けられます。私は希望通り、**Conversation and Fluency** のクラスを受けることになったのですが、学生ビザを取らず ESTA で入国したので、本来なら1日4時間の授業を1日3時間しか受けられず、もったいなかったと思いました。また、私のクラスには、中国人、韓国人、ブラジル人、日本人がいました。授業は、前半と後半に分かれており、前半は、毎回カリフォルニア大学サンディエゴ校に通う学生が数名 **conversation leader** として加わりグループに分かれて、食事やサンディエゴでオススメの場所、自分の国の文化など様々な話題について話し合い、後半は文法について学習しました。日本で勉強してはなかなか身につかないイディオムやスラングも授業で扱われたのが面白かったです。金曜日にはゲストスピーカーが来て自分の仕事や経歴についてお話しされました。現地の人に自分から話しかけてインタビューするなど宿題は大変でしたが、実践的なものが多く英語力が向上したと思います。

学校生活

4週間のプログラムの中で、授業として2回 **short trip** がありました。1度目は繁華街の近くにある野球場に行って地元の球団の歴史やスポーツに関する用語を学びました。2度目は旧市街地にあるおばけが出ると言われている古い家の見学をしました。



また、大学側で夜に海辺で焚き火をしたり、お昼休みにお菓子を食べながら話したりする様々なイベントを企画してくれていたのも他の授業に出ている人たちとも交流する機会がありました。周辺の観光スポットや野球の試合のチケットも学校で買うと割り引いてもらえるのでよく利用していました。ただ、人が集まらなくてイベントがなくなったことやチケットが売り切れてしまうことがあったので、絶対に参加したいものは計画的に行動するようにしたほうがいいと思います。

生活全般

私は大学のホームページで紹介されている会社を通じてホームステイを申し込みました。ホームステイ先は学校までバスを使って40分ほどかかる場所でした。ホームステイにしてよかったと思う

点は授業だけでなく家でも英語を使えた点です。私のホームステイ先にはホストマザーの他に同年代の韓国人とサウジアラビア人がいて夜ご飯はよく一緒に食べていました。その際、各国の文化の話ができてとても面白かったです。Wi-Fi は日本でモバイル Wi-Fi を借りて持って行きました。ホームステイ先や大学の Wi-Fi も使っていましたが、それ以外の場所に出歩くことも多かったので便利でした。移動はバスの乗車券を買うと1ヶ月バスも電車も使い放題だったので基本的にはそれで済みますが、急ぐ時はウーバーも利用しました。

訪れた場所



平日の午後や土日ではできるだけ色々なところに行くように心がけていました。私は、シーワールド、動物園、リトルイタリー、コロナド島、ミッドウェイ博物館などを訪れましたが、一番好きだったのはバルボアパークです。とても広くて美しい公園の中にたくさん美術館や博物館

があります。どこも興味深い展示で、もっとゆっくり見たかったです。また、友達とロサンゼルスに行く計画を立てハリウッドやグリフィス天文台を訪れることができたのも楽しかったです。

最後に

今回の研修は授業やホームステイの申し込み、航空券の購入など自分で進めなければならず、初めは戸惑いましたが、現地で出会った人々、国際教育センターの方々や友だち、両親のおかげで無事に終えることができました。また、奨学金の支援も充実しており、さまざまな面で支えてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。1ヶ月の滞在やその前後の準備を通して、英語力はもちろんですが、自立心や自信を身につけられたと思います。この経験を忘れずに、これからも向上心を持って英語の勉強やそれ以外のことにも挑戦し続けたいです。

研修参加者からのアドバイス（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

1. 出発前に気を付けたほうがいいこと

- 早めにホームステイを申し込むために、プログラムの前後に何日滞在するかをなるべく早く決めること。ホームステイは余裕を持って申し込んだ方が決まりやすく安心だと思います。

2. 研修先の授業

- 会話のコースだったので、日本ではあまり勉強していなかったスラングなども扱われており実践的でした。

3. ホームステイ

- ホストマザーがホームステイ先の近所で日本語を勉強している方を紹介してくれて、その方と日本語や英語でお話しました。

4. 食事について

- ホームステイ先で朝と夜は食事が出ました。昼は学校で食べたり友だちと外に食べに行ったりしていました。

5. 現地学生・地域住民との交流

- 授業に毎回現地の学生が数名参加して話すことが出来ました。

6. 経済面

- クレジットカードがかなり普及しており便利ですが、現金しか使えないところもたまにあるので、どちらもあるとよいと思います。



이화여자대학교
E.W.H.A. WOMANS UNIVERSITY



梨花女子大学校（韓国）

研修期間：2018/8/7～2018/8/21

滞在：学生寮

参加費：約 30 万円

研修内容：韓国語研修・韓国文化研修

梨花女子大学校夏期短期研修を終えて

理学部 化学科

3年 中島 華子

今回、私は8月6日から22日まで韓国のソウルにある梨花女子大学校に短期留学に行きました。

授業について



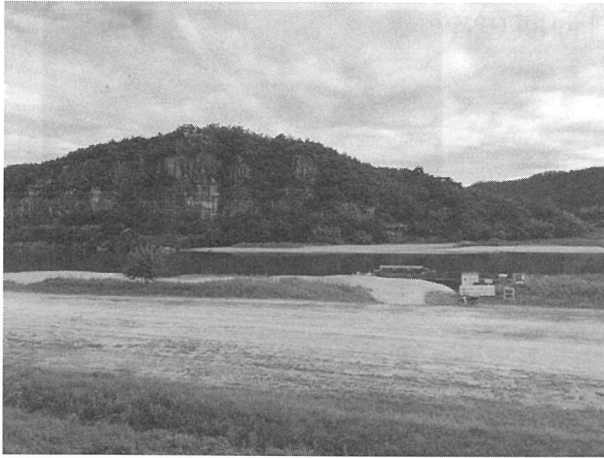
短期研修が始まる前に、事前にインターネットを使った文法とリーディングのテストが行われました。スピーキングのテストは初日に行われ、2つのテスト結果により、クラス分けが行われました。大きく4つのクラスに分かれ、さらに細かく分かれていたので、比較的自分の実力にあったクラスに入ることができました。使用した教科書は大学内の本屋で購入する大学独自のもので、カラフルで非常に

わかりやすかったです。授業は午前9時から午前11時45分までで、途中で15分間の休憩時間がありました。先生はとても優しく丁寧に教えてくださったので、わかりやすかったです。また、1クラス約15人の少人数クラスだったので、発言の順番も多く回ってきて、スピーキングの練習もたくさんできました。

平日の午後には、韓国に関する英語での講義がありました。今回は日本人の参加者が多かったので日本語による講義も用意されていました。英語か日本語か好きな方を選択することができ、私は英語での講義を選択しました。英語の勉強にもなり一石二鳥でした。

課外活動

平日の午後は韓国中央博物館や伝統舞踊観劇や映画鑑賞などをしました。また、映画鑑賞は韓国語字幕の洋画でした。私は韓国語が良くできるわけではないので内容を理解できるか不安でしたが、比較的英語がわかりやすい映画を選んでくれていたようで、楽しむことができました。



期間中、安東というところに一泊二日で行きました。安東では、名産品の安東焼酎の会社に見学に行き、話を聞きました。その後、ラフティングを行いました。ラフティングを行った川は流れが穏やかなので、全く怖くありませんでした。川下りを行うだけでなく、川の中に落とされたり、ゲームをしたりしたので、同じボートに乗った人たちともたくさんコミュニケーションをとることができました。ボートの現地指導員の方たちは

非常に明るく面白い方たちでとても楽しかったです。水着を持って行くべきだったな、とは思いました。宿泊は、韓国の伝統家屋でした。村全体が世界文化遺産に登録されており、伝統的なスタイルで、自然もたくさんある綺麗な村でした。ドラマのロケに使用されたことがあるそうです。韓国への個人旅行ではなかなか訪れることができない場所だったので、とても貴重な経験でしたし、楽しい思い出になりました。

生活全般

今回のプログラムでは、梨花女子大学の留学生向け寮に宿泊しました。部屋は1人部屋と2人部屋の2種類があり、事前に選択することができました。私は1人部屋を選択しました。比較的広く、綺麗な部屋で約2週間快適に過ごすことができました。シャワーやお手洗いは部屋にも付いています。また、共用もあり、シャワーは毎日共用のものを使用しました。寮に食事はついていなかったため、夕食は外食することが多かったです。大学周辺には比較的安い飲食店が多かったので、食事に困ることはありませんでした。



平日の授業がある日はスケジュールが決まっており、あまり時間はありませんでしたが、週末は様々な場所に観光に行くことができました。大学周辺には非常に安い洋服がたくさん売っていました。安東でのラフティング用の短パンも、そこで購入することができました。

今回の短期留学では、お茶の水女子大学から奨学金を出していただき、寮費や航空費の一部に充てることができました。

ありがとうございます。今まで大学で韓国語の授業を履修したことがなく、独学で少し勉強をした程度でした。今回初めて本格的に韓国語の勉強をすることができたので、これからも勉強を続けていきたいです。

UNIVERSITÄT BONN



ボン大学（ドイツ）

研修期間：2018/8/7～2018/8/31

滞在：学生寮

参加費：約45万円

研修内容：ドイツ語研修

ボン大学短期研修を終えて

人間文化創生科学研究科

赤木 美香

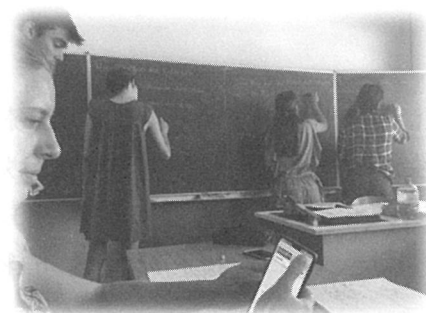


2018年8月7日から31日までドイツ・ボン大学 (Universität Bonn)でのサマープログラムに参加させていただきました。

ドイツ、ボンは1990年までは旧西ドイツの首都だった街で今も6つの国の機関があります。ボン大学のサマープログラムも大学だけではなく、ボン市をあげてこのプログラムに参画しています。プログラムは1947年から今まで71年間続いている歴史あるプログラムで、学生も世界各国から参加しており、途中ボン市長との挨拶会も催され、その様子は新聞でも報じられました。

授業内容

ドイツ語のプログラムはB1～B2/C1までの7レベルが準備され、私はB2/C1に参加しました。クラス分けのためのプレイスメントテストは事前にonlineで行われており、このスコアをボン大学事務局まで事前送付をしました。しかしこのテストは、4人もクラス変更があったことからレベル判定ができず、クラス担任も精度を疑問視していました。とは言え、ドイツ語の授業は大変勉強になりました。クラスでは、「Haimat(故郷)とは」、「異文化体験とは」、「時間とは」などC1テキストにそった内容で概念構築活動から語彙表現を増やしていくようなCBI(Content based Instruction)の指導法だったので、単に言語事項の学習に留まらない、内容を重視した授業構成になっていたと思います。例えば、故郷はなにか、まず個人の思う故郷の概念をあげさせて他の人が思う故郷の概念を聞き、その中で自身の考える故郷の概念を明らかにするものでした。「どうしてそのように考えるのか」を明らかにした後に、内容を書き表す語彙、表現を組み込みながら学習者がこのレベルの表現を身につけられるような活動でしたので、後にも実際に運用することができるドイツ語を学ぶことができました。

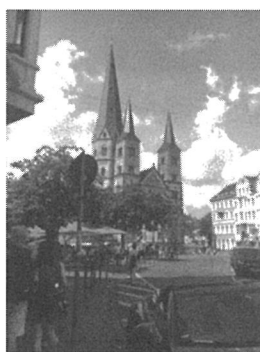


課外活動



この写真はライン川岸にあるテラスでの一コマです。お国の料理を持ち寄りみんなで食べます。例えばフィンランドのケーキ、スウェーデンのクネッケ、中国の卵焼き、ドイツのポテトサラダ、日本のお弁当のおかずなどが出てきました。学生寮のキッチンが狭いので凝った料理ができません。そこで、準備ができなかった学生は、自分の国の食べ方などを披露してくれました。例えば、チーズとジャムと一緒に食べる、ハンバーグにジャムをつけて食べるなどといった食習慣も知ることができました。しばらくして日が暮れて場が盛り上がってくると各国の歌が Youtube などで紹介され、今はカラオケもあるのでその時初めて聞いても真似ができるので楽しむことができました。

休日の過ごし方



私自身は、投稿論文の執筆もあったため休日はほとんど寮で過ごしていました。しかし、周りの学生は、ボンという地の利を生かして、北はスウェーデン、オランダ、ベルギー、南はミュンヘン、ハイデルベルグなどへバスツアーで訪れていました。ネットでチケットを買い、それを携帯に送ってチケットレスで今時の旅を楽しんでいるようでした。また、近場ではケルンまで 30 分、デュッセルドルフまで 1 時間とこちらも便利なことから、近隣の町へ散歩に出かける学生も多かったです。ボン市内では、ライン川畔が美しく、河川運輸が盛んであるために、ライン川にそって散歩したり読書、河岸テラスでピクニックを楽しむ人も多かったです。写真の Münster Platz は、ボン最大の広場でここで音楽会や集会、市場が開かれます。今は土曜日でも 10 時から 20 時までデパートも開いているのでデパ地下で食べ物を買うことも可能です。



生活全般

ボンでの生活は、ボン大学の寮に入りました。寮にはメンターや、IT 相談員の院生がいてトラブルがあった時などは対応してくれるような仕組みが作られていました。寮費は 1 ヶ月約 300 ユーロ(小キッチン、シャワー、トイレ付き、机 2 台、椅子 1 脚、ベッド(寝具買取)、クローゼ



ット)でした。はじめ 50 ユーロのデポジットを払いますが退去の時に戻りました。ボン市のいたるところに寮はありますが、私の寮はライン川沿いにあり 5 分毎にくるバスで通学しました。ボン大学の隣が市庁舎というのも便利です。昼休みに用を済ませてしまえる環境でした。

最後に

大学院生として留学したいと思っていましたので今回とてもありがたい研修でした。現在、私も外国人留学生に日本語を教えています。自分が教わる立場になり学ぶ経験が多くありました。クラス担任の Ulike 先生は大学教育での学習者への指導経験の豊かなベテラン先生で、私たちを退屈させることはありませんでした。世界中の有名大学からくる学生はクリティカルで、退屈を嫌いますが、学生の様子を見ながら常に 1 つ上の課題や活動をさせていたと思います。それを学生として経験することができて学習者の学びのプロセスを体験することができたことが大きな収穫でした。幾つになっても学ぶ意識と機会があれば、新しい可能性を見出すことができると再認識いたしました。特にこの夏は航空券が高騰していたため、奨学金をいただきましたこと大変ありがたいことでした。

また、国際教育センターの井上先生、松田先生、AA の長塚さんには大変お世話になりました。私が修士学生の時にはまだ短期プログラムのシステムが整っておらず、大学を通しての応募が難しかったと思います。しかし、今回、準備物の告知、渡航に関するサポートなどのおかげで大変スムーズにやり取りが進みました。短期留学の場合、プログラムの告知や資金調達は最大の課題ですので、このようなサポートに心より感謝申し上げます。私自身もこの夏の学びを本学の特設日本語の授業にも生かしながら日々の授業や研究に貢献できたらと思っています。ありがとうございました。



編集後記

この報告書をまとめているのは年末も差し迫った頃・・・皆さんの夏の体験を読んでいると、暖かそうなカリフォルニア、スペインなどの風景が目には浮かび、とてもほっこりした気分になります。皆さんの書いてくださった報告書が何よりも、現地の空気を鮮明に伝えてくれているからだと思います。どんなガイドブックよりも、すぐ隣にいる皆さんの生活体験記は優れた生活の知恵を伝えてくれています。現地での苦勞が「経験」に変わっていく様子が手に取るように感じられました。

グローバル化が叫ばれて久しい現在では、常に自分の周りに SNS などを通し「世界」が隣にあります。そのような場にいるにも関わらず、海外での実際の「経験」や「体験」という可視化出来ないものに、どれほど打ち込む価値があるのか、どれくらいつぎ込む価値があるのかと、疑問に思うこともあるかもしれません。勿論、今ある環境で出来る「グローバル」に最善を尽くすという方法も大切です。

しかしながら、皆さんの報告書の一文字一文字が今ここに現地の空気を再び吹かせるように感じるのは、やはり、現地の空気の中を生きた体験がなせる業と思うのです。

海外への留学で得られるのは語学力だけではない、と私は思います。可視化できない経験や体験を掬い取り、様々な場面で振り返ることの出来る手段の 1 つとして活かすことが本報告書の使命ではないでしょうか。

国際教育センター アソシエイトフェロー
井上貴恵

2018年度夏季 海外短期研修報告書

発行日 2019年2月
発行 お茶の水女子大学 国際教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel. 03-5978-5913

研修・編集担当

国際教育センター
アソシエイトフェロー 井上 貴恵
アカデミックアシスタント 長塚 尚子

印刷・製本 よしみ工産株式会社

